

国衙中割遺跡

—九十九地区生涯学習センター建設事業に伴う堆積文化財発掘調査報告書—

2018

群馬県安中市教育委員会

国衙中割遺跡

—九十九地区生涯学習センター建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2018

群馬県安中市教育委員会



国衙中割遺跡 遠景（東から）



H-20号住居址
鹿形土製品と祭祀関連遺物



H-11号住居址 墨書き土器・風字硯

序

安中市は群馬県の西南部に位置し、妙義山の東麓に広がる緑豊かな田園都市です。市内を流れる碓氷川とその支流によって形成された河岸段丘上には、悠久の昔から私たちの祖先が残した遺跡が数多く存在しています。また古来より交通の要として栄え、古代律令制下の官道である東山道、近世の中山道、そして近代にはアプト式鉄道に代表される鉄道施設等、多くの歴史遺産を有しています。これらの遺産は国民共有の財産であり、後世へ正しく伝えることが私たちの責任であると考えます。

今回報告する「国衙中創遺跡」は、安中市松井田町国衙地区にあり、碓氷川の支流である九十九川と増田川に挟まれた細野原丘陵上に位置しています。細野原丘陵は、市北西部に位置する剣の峰から南東に延びる丘陵で、本遺跡が位置する一帯は比較的なだらかな台地状を呈し、その多くが水田や畠地等の農地として利用されています。

また、「国衙」と言う地名からも、古代よりこの地が松井田地区の中心地域として、人々の生活の舞台となっていたようで、歴史遺産も多く存在しています。

「国衙中創遺跡」の調査は八十一年度生涯学習センター建設事業に先立ち実施いたしました。発掘調査により古墳時代と平安時代の村の跡が確認されました。

古墳時代は6世紀から7世紀の住居址などが7棟、平安時代は9世紀から10世紀の住居址などが14棟検出されました。遺物も土器を中心に多くが出土しました。注目されるものとしては、古墳時代の住居址からシカの形をした土製品が出土しています。

このように今回の調査により、国衙地区的古墳時代と平安時代の歴史に、新たな1ページを加えることができました。このように調査を一つ一つ積み重ね、歴史を正しく記録して後世に伝えていくことが重要な責務といえます。調査した遺跡は元の姿に戻すことができません。本報告書が国衙地区を始め安中市域の歴史を解明する一助となり、幅広く活用されることを願います。

最後に、調査に参加していただいた皆様、報告書刊行にご協力・ご指導をいただいた多くの方々に厚く御礼を申し上げ、序といたします。

平成30年3月

安中市教育委員会
教育長 桑原 幸正

例　言

- 1 本書は、安中市が実施した九十九地区生涯学習センター建設事業に伴い、平成 26 年度より安中市教育委員会が発掘調査及び資料整理を実施した、こうせんかくわいりょう 国衙中割遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 調査地は群馬県安中市国衙字中割 1 15-1 他である。遺跡名は国衙中割遺跡（遺跡略号 K 8）、調査面積は約 732 m²である。
- 3 発掘調査・資料整理は、安中市教育委員会と安中市教育委員会文化財保護課埋蔵文化財係主事 きじ 菅原達彦の指導のもと、有限会社毛野考古学研究所 日沖剛史・有山徑世が実施した。
- 4 発掘調査は平成 27 年 1 月 5 日より平成 27 年 3 月 31 日まで、資料整理は平成 28 年度から 29 年度の間断続的に実施した。
- 5 本書の編集は有限会社毛野考古学研究所 有山徑世が行った。執筆は第 1 章を安中市教育委員会文化財保護課埋蔵文化財係主幹 千田茂雄が、他を有限会社毛野考古学研究所 有山徑世が担当した。
- 6 発掘調査における資料、出土遺物は一括して安中市教育委員会で保管している。
- 7 発掘調査・資料整理及び本書の作成にあたり、以下の方々に各種ご指導をいただいた。記して感謝の意を表したい。（順不同・敬称略）
有限会社毛野考古学研究所 株式会社飯沼組 株式会社アクティオ 神戸聖麗 三浦京子
- 8 調査組織

平成 26 年度

安中市教育委員会事務局

教育長：桑原幸正

教育部長：田村昌俊

文化財保護課長 須藤 朗

埋蔵文化財係長（主幹・文化財保護主事）千田茂雄（事務総括）

主査 潤川仲男

主査（文化財保護主事）井上慎也

主事（文化財保護主事）菅原達彦（調査担当）

行政事務嘱託 壇 伸明

平成 28 年度

安中市教育委員会事務局

教育長：桑原幸正

教育部長：田村昌俊

文化財保護課長 須藤 朗

埋蔵文化財係長（主幹・文化財保護主事）千田茂雄（事務総括）

主査 小川知哉

主査（文化財保護主事）井上慎也

主事（文化財保護主事）菅原達彦（整理担当）

平成 29 年度

安中市教育委員会事務局

教育長：桑原卒正

教育部長：山中秀雄

文化財保護課長 大竹将大

埋蔵文化財係長（主幹・文化財保護主事） 千田茂雄（事務総括・整理担当）

主査 小川知哉

主査（文化財保護主事）井上慎也

主事 岩 崇志

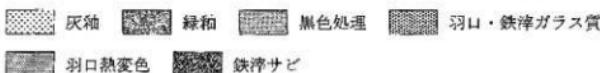
9 発掘調査・資料整理從事者

発掘調査 生駒朝男、今井保美、岩井英雄、岩坂康男、上原 上、鬼形栄子、染谷綾子、多胡榮夫、多胡わぐり、萩原治枝、湯本久江

資料整理 鬼形教子（整理作業統括、遺物実測）、廣上良枝（遺物実測）、中尾徳子（遺物実測）、鬼形栄子、染谷綾子、磯 洋子、大塚規子、小野澤絹子、瀬尾則子、竹中美保子、田村健志、山下奈那子、渡辺博子

凡 例

- 1 遺構図中の方位記号は磁北を表している。座標系は世界測地系を使用した。
- 2 遺構実測図は 1/40 を基本とし、全体図は 1/200 とした。
- 3 遺物実測図は 1/4 を基本とし、土製品・石製品・鉄製品は 1/1・1/2・1/3・1/8 とした。
- 4 遺物実測図中の断面黒塗りは須恵器の還元焰焼成を、トーンは以下の意味を表している。



- 5 本文および表中等で記す火山降下物の名称は、以下の略号を用いている。
 - 浅間 A 軽石 (1783 年) : As-A、浅間 B 軽石 (1108 年) : As-B、
 - 浅間 C 軽石 (3 世紀後葉～末葉) : As-C、浅間板鼻黄色軽石層 : As-YP
- 6 遺構名の略号には、堅穴住居址 : II、溝 : M、土坑 : D を用いている。
- 7 堅穴住居址の遺物取り上げは堅穴を 4 分割にして行い、カマドは別として扱った。
分割方法はカマドを上に設定し、カマドの左側を 1 区とし、時計回りに 1 ~ 4 区と呼称した。
- 8 遺物観察表内の () は復元推定値を、< > は残存値を表している。
- 9 遺構土層および上器の色調観察は『標準土色帖』(農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所監修 2006) に従った。
- 10 遺物番号は、実測図・観察表・写真図版とともに共通である。
- 11 本書掲載の第 1 図は安中市発行 1/2,500 「安中市都市計画基本図」、第 2 図は国土交通省国土地理院発行 1/25,000 「松井田」「三ノ倉」を使用した。

目 次

卷頭写真	
序	第5章 遺構と遺物 7
例言	第1節 概要 7
凡例	第2節 古墳時代 10
目次	(1) 聚穴住居址 10
	(2) 上坑 38
第1章 調査に至る経過 1	第3節 平安時代 38
第2章 測査の方法と経過 2	(1) 壁穴住居址 38
第1節 調査の方法 2	第4節 中世 70
第2節 測査の経過 2	(1) 溝 70
第3章 遺跡の位置と環境 3	(2) 土坑 74
第1節 地理的環境 3	第5節 遺構出土遺物 76
第2節 歴史的環境 3	第6章 成果と問題点 79
第4章 基本層序 7	写真図版
	発掘調査報告書抄録

挿 図 目 次

第1図 調査区位置図 1	第24図 H-13号住居址(2) 33	第47図 H-14号住居址出土遺物(1) 57
第2図 周辺の遺跡位置図 4	第25図 H-13号住居址出土遺物(1) 33	第48図 H-14号住居址出土遺物(2) 58
第3図 基本図 7	第26図 H-13号住居址出土遺物(2) 34	第49図 H-15号住居址 59
第4図 全体図 8	第27図 H-20・21号住居址(1) 36	第50図 H-15号住居址出土遺物 60
第5図 グリッド遺物出土状況図 9	第28図 H-20・21号住居址(2) 37	第51図 H-16号住居址 61
第6図 H-7号住居址(1) 10	第29図 H-20号住居址出土遺物 37	第52図 H-16号住居址出土遺物 61
第7図 H-7号住居址(2) 11	第30図 D-7号土坑 38	第53図 H-17号住居址 63
第8図 H-7号住居址出土遺物 12	第31図 H-1号住居址出土遺物 38	第54図 H-17号住居址出土遺物 63
第9図 H-8号住居址(1) 14	第32図 H-1号住居址 39	第55図 H-18号住居址 64
第10図 H-8号住居址(2) 15	第33図 H-2号住居址 40	第56図 H-18号住居址出土遺物 65
第11図 H-8号住居址出土遺物(1) 15	第34図 H-2号住居址出土遺物 41	第57図 H-19号住居址 66
第12図 H-8号住居址出土遺物(2) 16	第35図 H-3号住居址 43	第58図 H-19号住居址出土遺物 67
第13図 H-8号住居址出土遺物(3) 17	第36図 H-3号住居址出土遺物 44	第59図 H-21号住居址出土遺物 69
第14図 H-8号住居址出土遺物(4) 18	第37図 H-4号住居址 46	第60図 M-1号溝出土遺物 70
第15図 H-9a号住居址出土遺物 23	第38図 H-4号住居址出土遺物 47	第61図 M-1・6号溝 71
第16図 H-9a号住居址(1) 24	第39図 H-5号住居址 49	第62図 M-2～5・7・9・10号溝 72
第17図 H-9a号住居址(2) 26	第40図 H-5号住居址出土遺物 50	第63図 M-8・11号溝 73
第18図 H-9b号住居址(1) 27	第41図 H-11号住居址出土遺物(1) 51	第64図 D-1～6号上坑 75
第19図 H-9b号住居址(2) 28	第42図 H-11号住居址 52	第65図 遺構出土遺物 77
第20図 H-6b号住居址出土遺物 28	第43図 H-11号住居址出土遺物(2) 53	第66図 古墳時代の上巣葬 81
第21図 H-10号住居址出土遺物 29	第44図 H-12号住居址 55	第67図 燐灰状培文の黑色土器 82
第22図 H-10号住居址 30	第45図 H-12号住居址出土遺物 56	第68図 古代の土器群 83
第23図 H-13号住居址(1) 32	第46図 H-14号住居址 57	第69図 金剛蛭の土製品 85

表 目 次

第1表	周辺の遺跡一覧表	5	第19表	H-4 号作居址出土遺物観察表 (1)	45
第2表	H-7 号住居址出土遺物観察表	12	第20表	H-4 号住居址出土遺物観察表 (2)	48
第3表	H-8 号作居址出土遺物観察表 (1)	19	第21表	H-5 号住居址出土遺物観察表 (1)	48
第4表	H-8 号住居址出土遺物観察表 (2)	20	第22表	H-6 号住居址出土遺物観察表 (2)	50
第5表	H-8 号住居址出土遺物観察表 (3)	21	第23表	H-5 号作居址出土遺物観察表 (3)	51
第6表	H-8 号住居址出土遺物観察表 (4)	22	第24表	H-11 号住居址出土遺物観察表	54
第7表	H-9a 号作居址出土遺物観察表 (1)	23	第25表	H-12 号住居址出土遺物観察表	56
第8表	H-9a 号住居址出土遺物観察表 (2)	26	第26表	H-14 号住居址出土遺物観察表	58
第9表	H-9b 号住居址出土遺物観察表 (1)	28	第27表	H-15 号作居址出土遺物観察表	59
第10表	H-9b 号住居址出土遺物観察表 (2)	29	第28表	H-16 号住居址出土遺物観察表	62
第11表	H-10 号作居址出土遺物観察表	31	第29表	H-17 号住居址出土遺物観察表	62
第12表	H-13 号住居址出土遺物観察表 (1)	34	第30表	H-18 号住居址出土遺物観察表	65
第13表	H-13 号住居址出土遺物観察表 (2)	36	第31表	H-19 号作居址出土遺物観察表	68
第14表	H-20 号作居址出土遺物観察表	37	第32表	H-21 号作居址出土遺物観察表	69
第15表	H-1 号作居址出土遺物観察表	39	第33表	M-1 号 sondage 出土遺物観察表	70
第16表	H-2 号作居址出土遺物観察表	42	第34表	遺跡外川上遺物観察表 (1)	78
第17表	H-3 号住居址出土遺物観察表 (1)	44	第35表	遺跡外川上遺物観察表 (2)	79
第18表	H-3 分号住居址出土遺物観察表 (2)	45			

写真図版目次

PL. 1	園田中割柵塀 全景		PL. 8	H-4 号作居址 カメド完掘状況		PL. 15	M-7 号 sondage 完掘状況	
PL. 2	H-7 号住居址 完掘状況		PL. 9	H-1 号住居址 光面状況		M-8 号 sondage 完掘状況		
H-7 分号住居址 遺物出土状況		PL. 10	H-1 号作居址 完掘状況		M-9 号 sondage 完掘状況			
H-7 号作居址 カメド完掘状況		PL. 11	H-1 号住居址 カメド完掘状況		M-10 号 sondage 完掘状況			
H-8 分号住居址 遺物出土状況		PL. 12	H-1 号住居址 遺物出土状況		基本層序			
H-8 号作居址 カメド完掘状況		PL. 13	H-1 号住居址 遺物出土状況		濃金状況	H-2 号住居址		
PL. 3	H-8 号住居址 完掘状況		PL. 14	H-12 号作居址 光面状況		濃金状況	H-7 分号作居址	
H-8 号住居址 遺物出土状況		PL. 15	H-12 号住居址 光面状況		濃金状況	H-7 分号住居址		
H-8 号住居址 遺物出土状況		PL. 16	H-12 号住居址 光面状況		PL. 16	H-17 号住居址		
H-8 号住居址 P-5 遺物出土状況		PL. 17	H-12 号住居址 光面状況		H-2 号作居址出土遺物 (1)			
PL. 4	H-9a・9b 号住居址 完掘状況		PL. 18	H-12 号住居址 光面状況		M-8 号住居址出土遺物 (2)		
H-9a・9b 号住居址 遺物出土状況		PL. 19	H-12 号住居址 光面状況		PL. 19	H-9a 号住居址出土遺物		
H-10 号住居址 遺物出土状況		PL. 20	H-12 号住居址 光面状況		H-9b 号住居址出土遺物 (1)			
H-10 号住居址 カメド完掘状況		PL. 21	H-12 号住居址 光面状況		PL. 20	H-9b 号住居址出土遺物 (2)		
PL. 5	H-10 号作居址 遺物出土状況		PL. 22	H-13 号住居址 出土遺物		H-10 号住居址 出土遺物		
H-10 号住居址 遺物出土状況		PL. 23	H-13 号住居址 出土遺物		PL. 21	H-13 号住居址 出土遺物 (2)		
H-13 号住居址 カメド完掘状況		PL. 24	H-13 号住居址 出土遺物		H-20・H-1・H-2 号住居址			
H-13 号住居址 遺物出土状況		PL. 25	H-13 号住居址 出土遺物		出土遺物			
H-13 号住居址 カメド完掘状況					PL. 22	H-3・H-4 号住居址出土遺物		
PL. 6	H-13 号住居址 遺物出土状況				PL. 23	H-5 号住居址出土遺物 (2)		
H-15 号住居址 遺物出土状況					PL. 24	H-11 号住居址出土遺物		
H-20 号住居址 遺物出土状況					PL. 25	H-18・H-19・H-21 号作居址		
H-20 号住居址 遺物出土状況						出土遺物		
H-20 号住居址 カメド完掘状況					PL. 26	M-1 号 sondage 出土遺物		
PL. 7	H-20 号住居址 完掘状況					濃金外川上遺物		
H-1 号作居址 完掘状況						濃金外川上遺物		
H-2 号作居址 カメド遺物出土状況						濃金外川上遺物		
PL. 8	H-2 号住居址 遺物出土状況					濃金外川上遺物		
H-3 号作居址 完掘状況						濃金外川上遺物		
H-3 号住居址 カメド完掘状況						濃金外川上遺物		
H-4 号住居址 カメド遺物出土状況						濃金外川上遺物		

第1章 調査に至る経過

平成25年10月、安中市文化センターより九十九地区生涯学習センター建設事業の実施に伴う埋蔵文化財の照会があった。事業地内は埋蔵文化財包蔵地内にあることから、事業実施に先立ち埋蔵文化財の取り扱いについて事前協議を実施する必要のある旨を安中市文化センターへ伝えた。

その後、安中市文化センターと市教育委員会の間で文化財保護のための協議を行った。協議においては、文化財保護のための計画変更をも含め再三にわたり行われた。しかし、計画変更を行っても埋蔵文化財への影響は避けられないことから、当初の計画どおり事業を実施することとなった。そのため、発掘調査による記録保存の措置を講ずることとなった。



第1図 調査区位置図

第2章 調査の方法と経過

第1節 調査の方法

本遺跡の登録番号は安中市遺跡No.U 88である。昭和60年度の町道国街・朝日線改良工事に先立ち実施された発掘調査で、縄文時代から平安時代の複合遺跡であることがすでに判明している。

発掘調査 重機による表土掘削後、ジョレンを用いて人力による遺構検出作業を行った。当初の遺構確認面はAs-B一次堆積層下の黒褐色土で、遺構の検出が困難であった。そのため、まずは調査区全域をカバーするようにグリッドを設定し、散在する遺物を取り上げることとした（第1面）。グリッドは4m×4mで、北から南へA・B・C…K、西から東へ1・2・3・4と表し、北西角をグリッドの呼称とした。調査区北角を基準としたグリッドのため、座標軸とグリッド軸は一致しておらず、国家座標（世界測地系）へも取り付けていない任意のものである。遺物取り上げ後に、重機により約25cm下の堅穴住居址を確認できる面まで下げて調査を行った（第2面）。しかし、この面でも捉えきれない遺構があり、第2面の調査後に再び重機で約30cm下げ最終確認を行った（第3面）。

遺構の調査に際し、安中市教育委員会では通常、堅穴住居址について「分層16分割法」を用い遺物を取り上げるが、今回の調査では土層観察用の十字ベルトを基にして4分割で取り上げた。溝は適宜土層観察用ベルトを設定し、土坑は半截した。図面・写真による記録は、土層断面・遺物出土状況・完掘状況等の各段階において行った。遺構図は縮尺1/20を基本とし、平面図は光波を用い、土層断面図は手実測で測量した。写真是35mmのカラーおよびモノクロフィルムで撮影した。作業進捗状況等の記録用にはデジタルカメラを適宜用いた。航空写真是ファントムにて撮影した。

資料整理 遺物の注記には次の略記号を使用した。遺跡名→K8、堅穴住居址→H、土坑→D、溝→Mである。接合にはセメダインCを、復元にはエポキシ樹脂を使用した。遺物実測は原寸で行い、須恵器等の破片については拓本を用いた。遺物写真是ニコンデジタル一眼レフD750で撮影した。図面トレースについては、遺構図はAdobe IllustratorCS2、遺物図はロットリングによる手トレースで行った。遺物写真的加工にはPhotoshop6.0、報告書の編集にはAdobe InDesignCS2を用いた。

第2節 調査の経過

発掘調査 試掘調査は平成26年12月2日から同年12月4日に行われた。調査区内に3本のトレーンチを設定して確認したところ、古代の住居址、中世の溝・土坑および、縄文時代～古代の遺物が多数検出された。この結果を受け、平成27年1月5日から同年3月31日にかけて本調査を実施した。第1節に記したように3面にわたる調査となった。第1面は1月5日～22日にかけて遺物取り上げとM-1号溝の調査、第2面は1月23日～2月20日にかけてH-1～6号住居址、M-2～11号溝、D-1～6号土坑の調査、第3面は2月23日～3月31日にかけてH-7～21号住居址、D-7号土坑の調査を行った。

資料整理 発掘調査の終了後、平成30年3月31日まで断続的に実施した。安中市教育委員会にて遺物の洗浄・注記・接合・復元、実測・拓本および、遺構の図面修正・トレース・図版作成まで行った後に、前毛野考古学研究所にて遺物の写真撮影・加工・図版作成、遺物実測図および拓本の修正、遺物実測図トレース・図版作成、原稿執筆、報告書の編集作業を行った。

第3章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

安中市は関東平野の周辺部である群馬県西部に位置する。市の北西部から南西部にかけては、本県と長野県境を分かつ標高1000mを超える山々が連なっている。この付近からは数多くの小河川が流出しており、これらは合流を重ねつつ市東部の平野へと至る。これらの河川のうち、比較的大規模なものが碓氷川とその支流の九十九川、九十九川の支流の増田川である。この3河川は、北西から南東方向へ並行するように流下している。各河川の間には河岸段丘が発達し、分水嶺となる丘陵が河川に並走して延びている。各丘陵は北側から、増田川左岸の長者久保・上野丘陵、増田川と九十九川に挟まれた細野原丘陵、九十九川と碓氷川に挟まれた松井田丘陵となる。

本遺跡が立地するのは細野原丘陵の末端部であり、九十九川の左岸段丘上にあたる。細野原丘陵は、剣の峰(1429.6m)から南東に延びる松井田丘陵より露積ダム東方付近で分岐し、高戸谷山(739.3m)を経て増田川・九十九川の合流点へと続く丘陵である。丘陵上は標高500m付近以下より、なだらかな台地状を呈するようになる。そして、増田川と九十九川の合流点が近づく標高250m付近以下になると、地形はいっそうなだらかとなる。九十九川左岸の段丘面は、低位段丘面は水田、中位段丘面は住宅地・水田・畑地、上位段丘面は畑地として主に利用されている。

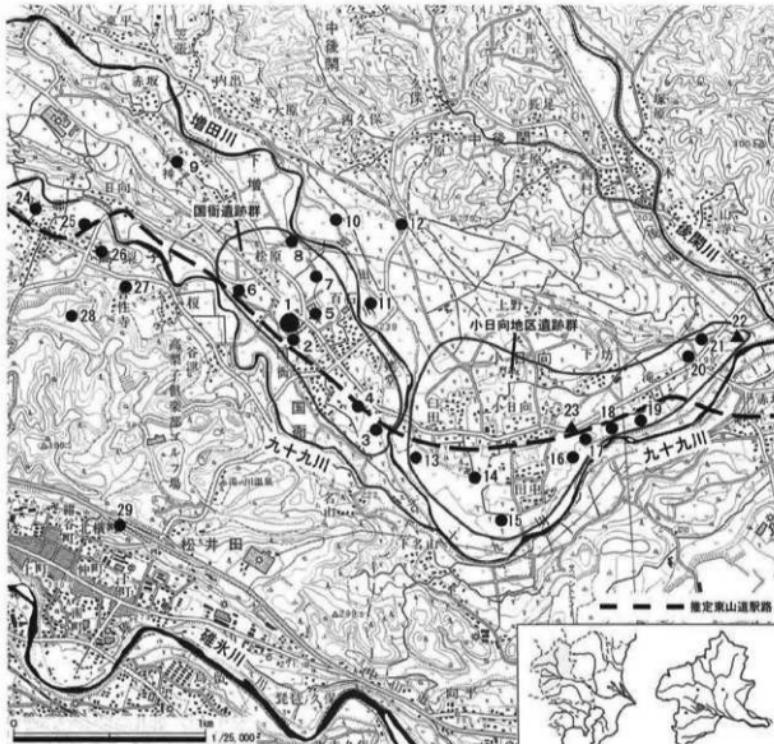
本遺跡は、この中位段丘面の国衙地内に位置する。調査区内の標高は北東隅で250.18mを測り、北東から南西側へのごくゆるやかな傾斜をもつていて。遺跡の南西には松井田丘陵越しに妙義山が偉容を示し、西には浅間山、北西から西にかけては長野県境の山々を一望できる。

第2節 歴史的環境

本遺跡(1)は国衙遺跡群を構成する遺跡のひとつである。国衙遺跡群ではこれまでに国衙遺跡群II(2)、国衙下辻遺跡(3)、国衙下辻II遺跡(4)、下増田松原遺跡(5)、国衙森浦・朝日遺跡(6)、下増田下田中遺跡(7)、下増田上田中遺跡(8)などが調査されている。ここでは本遺跡群の主体をなす縄文時代～奈良・平安時代を中心に、周辺の遺跡について概観する。

縄文時代 前期に集落が確認され始め、下増田松原遺跡で諸磯式期の堅穴住居址、増田川左岸の長者久保・上野丘陵上に位置する下増田下原遺跡(12)および、九十九川右岸に位置する高梨子三次郎遺跡(28)で関山式期の堅穴住居址が検出されている。中期加曾利E式期には国衙遺跡群IIで埋甕、下増田上田中遺跡で柄鏡形敷石住居址が検出されている。本遺跡群の東方に展開する小日向地区遺跡群においても、小日向丁田II遺跡(17)で加曾利E式期の列石が検出されている。後期には、国衙遺跡群IIで称名寺式期の伏甕、小日向田中西遺跡(15)で堀之内式期～加曾利B式期の敷石住居址が検出されている。また、国衙森浦・朝日遺跡では遺構は認められないものの、前期から後期の遺物が一定量出土し、本遺跡の北西に位置する下増田天神原遺跡(9)では三角彫形土製品が採集されている。

弥生時代 中期後半の栗林II式期以降に遺構が検出され始める。栗林II式期の堅穴住居址は国衙遺跡群II・国衙下辻遺跡・小日向遠地谷戸遺跡(20)で数棟検出されるのみであり、小規模な集落であったと推測される。国衙下辻遺跡の堅穴住居址からは独鉛石状石器が出土している。これは長野県善光寺平



第2図 周辺の遺跡位置図

周辺地域の遺跡出土のものと酷似しており、当該期における両地域の交流を示唆するものである。続く後期樽式期になると、大規模な集落が営まれるようになる。本遺跡群では国衙遺跡群II・国衙下辻II遺跡で数棟の竪穴住居址を検出するに留まるが、小日向地区遺跡群においては小日向田中遺跡(16)・小日向老丁田II遺跡(17)・小日向老丁田遺跡(18)・小日向瀧遺跡(19)・小日向遠地谷戸遺跡で計178棟にも及ぶ竪穴住居址が検出されている。なお、当該期の墓制については不明な点が多いが、小日向田中西遺跡で後期の穀床墓が1基検出されている。

古墳時代 弥生時代後期の大集落は古墳時代に入ると姿を消す。前期には小規模な集落が小日向新浜遺跡(13)・小日向田中遺跡・小日向瀧遺跡・小日向遠地谷戸遺跡および、九十九川右岸の高梨子森下遺跡(24)で確認される。5世紀前半は国衙下辻遺跡で竪穴住居址1棟を確認するのみである。5世紀後半に入ると再び大規模な集落が営まれるようになる。国衙下辻遺跡・小日向田中西遺跡・小日向丸遺跡(21)・高梨子森下遺跡などがあり、これらの集落は6世紀～7世紀前半まで継続していく。6

No	遺跡名	所在地	調 査 文 件	你 生 古 墳 墓 中 世	近 代	備 考	参考文献	
1	『国衙下辻遺跡』	安中市松井田町国衙115-1他	*	○	△	本章報告書跡		
2	『国衙下辻跡群II』	安中市松井田町国衙40他	△	○	○	你生・古墳時代集落	1	
3	『国衙下辻遺跡』	安中市松井田町国衙329他	*	○	○	你生・古墳時代集落(1号古墳: 5c末~6初)	2	
4	『国衙下辻II遺跡』	安中市松井田町国衙348他	*	○	○	△	你生・古墳時代集落	3
5	『下増田松原遺跡』	安中市松井田町下増田447-1他	○	●	●	調査時代集落	4	
6	『国衙秦浦・朝日遺跡』	安中市松井田町国衙21-1他	*	○	○	昭和59~60年松井田町教育委員会公開会		
7	『下増田下田中遺跡』	安中市松井田町下増田甲560他	○	○	○	平成6年松井田町教育委員会調査		
8	『下増田上田中遺跡』	安中市松井田町下増田564他	○	○	○	調査文、平安時代集落、古墳2(1号古墳: 円墳、6c前、T字形石室、2号古墳: 圓墳、6c前、5号抽形石室)	5	
9	『下増田天神原遺跡』	安中市松井田町下増田996他	△	○	○	調査文、石碑	6	
10	『下増田下二半遺跡』	安中市松井田町下増田2599他	○	○	○	平成8年松井田町教育委員会調査		
11	『下増田苔石遺跡』	安中市松井田町下増田2763他	○	○	○	平成8年松井田町教育委員会調査		
12	『下増田下原遺跡』	安中市松井田町下原田2674-1他	○	○	○	調査文、奈良・平安時代集落	7	
13	『小日向山城遺跡』	安中市松井田町小日向522他	○	○	○	古墳時代集落	8	
14	『小日向白山遺跡』	安中市松井田町小日向456他	○	○	○	古墳・平安時代集落	8	
15	『小日向西中遺跡』	安中市松井田町小日向289他	○	○	○	調査文、古墳、奈良・平安時代集落、你生傳説古墳1	8	
16	『小日向中山遺跡』	安中市松井田町小日向116他	○	○	○	奈良・古墳時代集落、古墳1(複数層古墳: 6c前)	8	
17	『小日向西中田遺跡』	安中市松井田町小日向842他	△	○	○	調査文石、弥生・古墳時代集落、古墳4	8	
18	『小日向老了泊遺跡』	安中市松井田町小日向821他	○	○	△	古墳時代集落、古墳周囲1	8	
19	『小日向高梨子遺跡』	安中市松井田町小日向943-2他	○	○	△	弥生・古墳時代集落、六墳2(1号古墳: 5c末、2号古墳: 不明)	8	
20	『小日向遠地谷戸遺跡』	安中市松井田町小日向1155-1他	○	○	○	奈良・古墳時代集落	8-9	
21	『小日向東丸遺跡』	安中市松井田町小日向1262他	*	○	○	古墳時代集落	8	
22	『天皇坂遺跡』	安中市松井田町小日向1188他	○	○	○	彫刻埴輪(馬・人物等)出土、6c前後	8	
23	『諏平山古墳』	安中市松井田町小日向857他	○	○	○	前方後円墳、6c初~前、右見鹿頭出土	8	
24	『高梨子塚下遺跡』	安中市松井田町高梨子409他	△	○	○	古墳、平安時代集落	10	
25	『高梨子塚下遺跡』	安中市松井田町高梨子447-1他	○	○	○	As-B下水田	10	
26	『高梨子人木田遺跡』	安中市松井田町人木田	*	*	*	施設跡古跡		
27	『高梨子中日ノ瀬遺跡』	安中市松井田町高梨子中日瀬	*	*	*	複数段階		
28	『高梨子三次郎遺跡』	安中市松井田町高梨子甲117他	○	○	△	調査文、奈良・平安時代集落	11	
29	『愛宕山遺跡』	安中市松井田町松井田1068他	*	*	○	古墳~平安時代集落(萬年通賀出土)	12	

◎: 大規模な遺跡(集落址・古墳等) ○: 中規模な遺跡(住居址・土塁等)

△: 小規模な遺跡(土坑・溝等) *: 遺物が出土した遺跡

第1表 周辺の遺跡一覧表

(参考文献)

- 『国衙遺跡群II』 1992 松井田町教育委員会
- 『国衙下辻遺跡』 2010 安中市教育委員会
- 『国衙下辻II遺跡』 2014 安中市教育委員会
- 『下増田松原遺跡』 2006 松井田町教育委員会
- 『下増田上田中遺跡』 2012 安中市教育委員会
- 『下増田天神原遺跡』 1993 松井田町埋蔵文化財調査会
- 『下増田下原遺跡』 2001 松井田町下増田下原遺跡調査会
- 『小日向地区遺跡群』 2010 安中市教育委員会
- 『小日向遠地谷戸遺跡』 1994 松井田町教育委員会
- 『高梨子池遺跡群』 2008 安中市教育委員会
- 『高梨子三次郎遺跡』 1998 松井田町埋蔵文化財調査会
- 『愛宕山遺跡』 2000 群馬県教育委員会・御群馬県埋蔵文化財調査事業

世紀代に新たに形成される集落としては国衙遺跡群II・小口向白山遺跡（14）・小日向遠地谷戸遺跡がある。本遺跡でも6世紀および7世紀後半の堅穴住居址が検出されている。

古墳については、国衙遺跡群と小口向地区遺跡群で多数の存在が確認されている。国衙遺跡群では、国衙下辻遺跡で5世紀末～6世紀初頭に比定される国衙下辻1号古墳の周囲を調査している。下増田上山中遺跡では「T字形石室」を有する6世紀初頭の下増田上山中1号古墳があり、その隣りに「無袖形石室」を有する6世紀前半の下増田上山中2号古墳が存在する。小日向地区遺跡群では全体で10基の古墳が調査されている。5世紀末の小日向瀬1号古墳・6世紀前半と推測される天皇塚古墳（22）、小日向田中遺跡に所在する6世紀前半の椿現塚古墳、古墳後期の小日向瀬2号古墳などがある。国衙下辻1号古墳および小日向瀬1号古墳は、九十九川流域においては最古級のものと考えられおり、本流域の古墳出現期を検討していく上で重要な資料である。また、琴平山古墳（23）は6世紀初頭～前半の前方後円墳で、全長50m強を割り、安中市内においては築造二子塚古墳に次ぐ規模を誇る。築造二子塚古墳は碓氷川左岸の安中台地に位置し、安中市域に初めて登場した6世紀初頭の大型前方後円墳である。加えて、群馬県地域で最初に横穴式石室を採用した古墳である。規模は群馬県地域で当時としては最大級に属する。7世紀になると、本遺跡の北東方向にある秋間丘陵に古墳が形成される。同地では7～8世紀にかけて須恵器・瓦を生産する窯が操業されるようになり、秋間丘陵の古墳はこの集団との関係で捉えることができるだろう。

奈良・平安時代に入っても引き続き集落が営まれるが、古墳時代後期のような大規模な集落は確認されない。奈良時代の集落は九十九川右岸に集中し、本道跡の立地する九十九川左岸には少ない傾向がみられる。8世紀の堅穴住居址は下増田下原遺跡・小日向田中西遺跡・高梨子森下遺跡・高梨子三次郎遺跡で数棟ずつ検出されている。9～10世紀の集落は、国衙遺跡群II・下増田上山中遺跡・下増田下原遺跡・小日向白山遺跡・小日向田中西遺跡・高梨子森下遺跡・高梨子三次郎遺跡などで確認されている。本遺跡でも9世紀後半～10世紀初頭および、10世紀後半の堅穴住居址が検出されている。なお、11世紀の堅穴住居址は高梨子森下遺跡で1棟を確認している。また、九十九川の南に対峙する松井田丘陵上に位置する愛宕山遺跡（29）は、7世紀後半～9世紀初頭の小規模集落であるが、9世紀初頭の焼失家屋から鏡・鑑・鎌・斧・小刀・紡錘車などの鉄製品、腰帯具、萬年通寶、石製品、木製品、布、建築部材など非常に良好な資料が出土していることで特筆される。

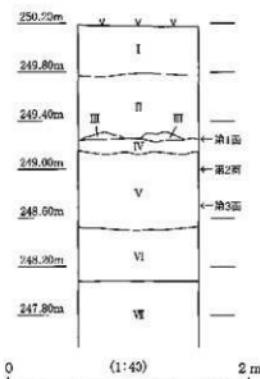
この時期の牛廻遺跡としては、国衙遺跡群IIでAs-B下の鉛状遺構が、高梨子柳下遺跡（25）でAs-B下の水田塙が検出されている。高梨子柳下遺跡の水田塙は九十九川右岸の緩やかな北斜面上に位置し、地形の制約を受けた比較的小区画なものである。九十九川上流方向より上位段丘下に沿うような大規模な溝も検出され、As-B下水田への導入路の可能性が指摘されている。

国衙地区尻辺は「国衙」という官衙に関連したことや、古代律令体制期の官道である東山道駿路の推定ルートであることから從来より注目を集めてきた。これまでに官衙に関連する遺構は検出されていないが、本遺跡および国衙遺跡群IIで布目瓦が出土していることを記しておく。東山道駿路については九十九川沿いに造られ、本遺跡の南側を通していたと考えられている。国衙遺跡群IIの調査原因となった町道国衙・朝日線にその可能性が求められたが、東山道駿路と判断される遺構は検出されなかった。ただし、国衙下辻遺跡において顕著な硬化面を有するAs-B混上層が、現農道下に数百mにわたって検出された。現存する地割りと併せると、中世以降の道路の可能性が高いと考えられる。

第4章 基本層序

基本層序は調査区北東隅の東面で観察した。大きく以下の7層に分層される(第3図、P.L. 15)。遺構確認は、第1面をIV層上面、第2面をIV層上面より25cm下の面、第3面をさらに30cm下の面で行った。

- I層 暗褐色土7.5YR3/3:現耕作土。As-Aを多量に含む。しまり・粘性弱い。
II層 黒色土7.5YR2/1: As Bを多量に含む。しまり・粘性弱い。
III層 As-B一次堆積層
IV層 黒褐色土7.5YR3/1:白色粒(As-Cカ)・黄橙色粒(As-YP)を少量含む。しまり・粘性ややあり。
V層 黒褐色土7.5YR3/1:白色粒を多量、黄橙色粒(As-YP)を少量含む。しまりあり・粘性ややあり。
VI層 灰黃褐色土10YR4/2:白色粒・黄橙色粒(As-YP)・同ブロックを多量に含む。しまり弱い・粘性ややあり。
VII層 明褐色土7.5YR5/8:しまり弱い、粘性ややあり。ローム層。



第3図 基本層序

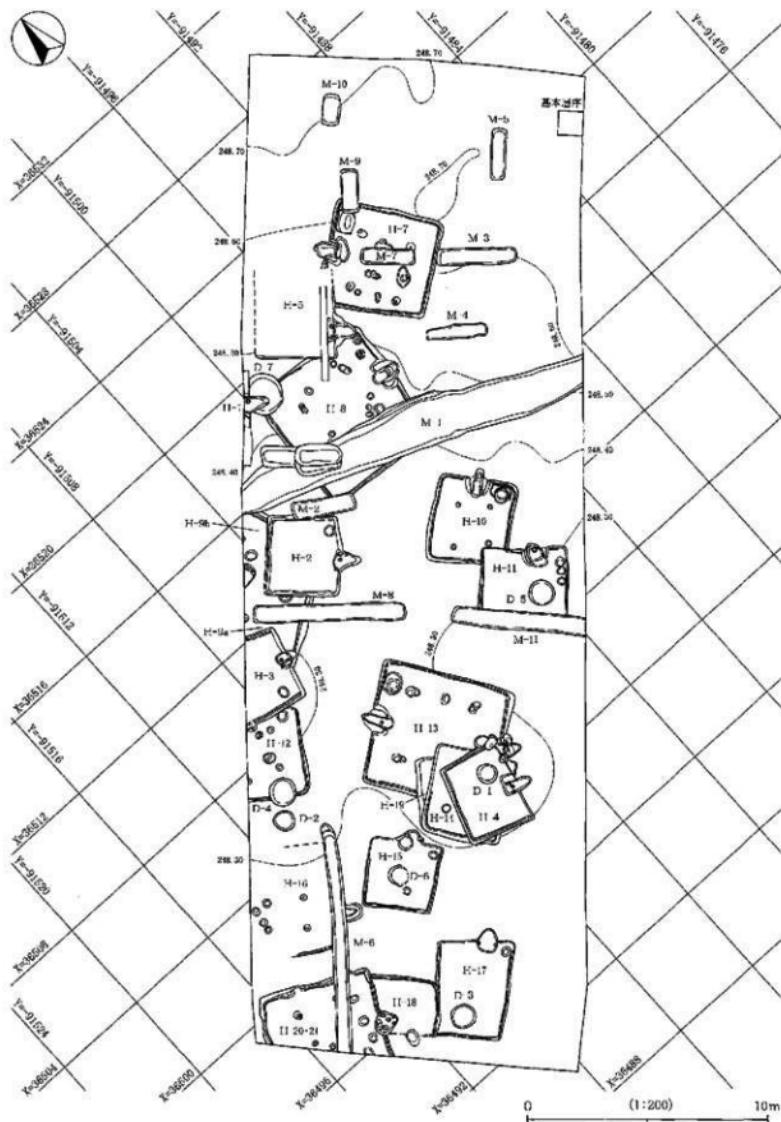
第5章 遺構と遺物

第1節 概要

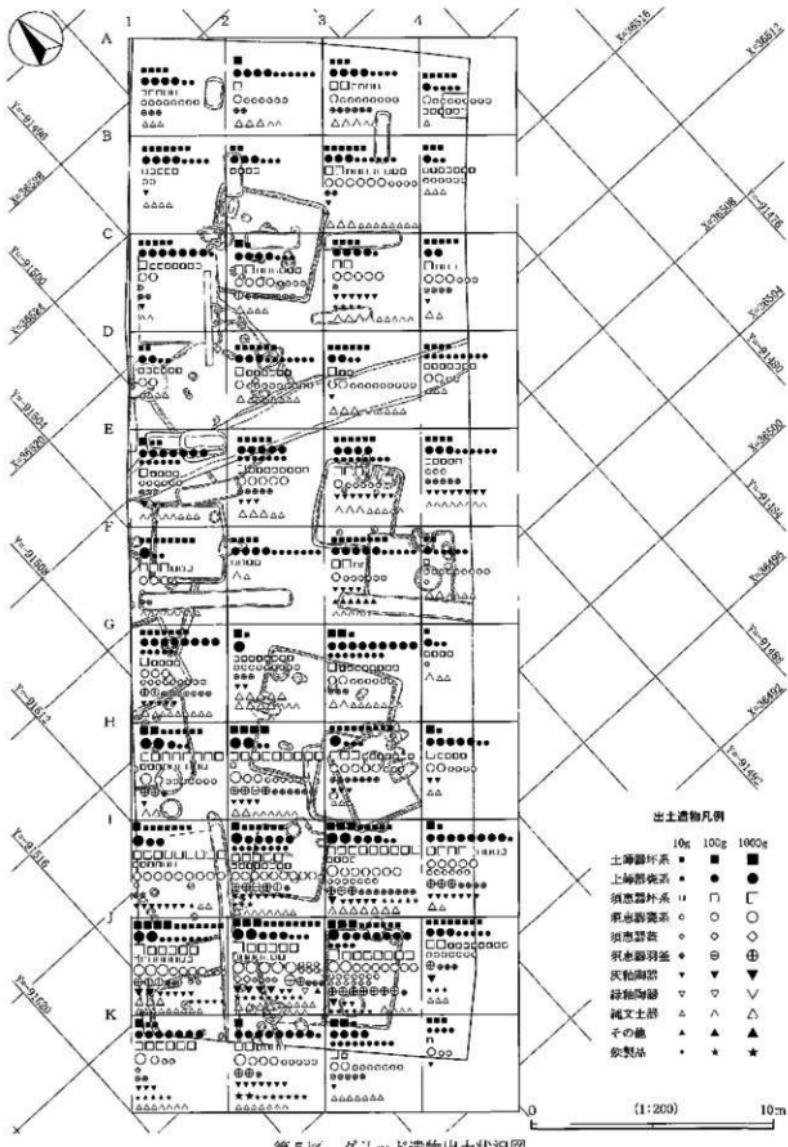
国衙中創遺跡は、九十九川左岸の中位段丘面上に営まれた集落遺跡である。検出された遺構は、堅穴住居址21棟、溝11条、土坑7基である。なお、H-6号住居址については、発掘調査段階でH-5号住居址と同一遺構であることが判明していたため、資料整理時に欠番とした。

堅穴住居址の時期は古墳時代後期と平安時代の2時期に大別される。古墳時代は6世紀初頭が1棟(H-7号住居址)、6世紀中頃が1棟(H-9a号住居址)、6世紀後半が3棟(H-10・13・20号住居址)、7世紀後半が2棟(H-8・9b号住居址)である。特筆されるのはH-20号住居址より出土した鹿形土製品で、石製模造品の破片とともに床面直上で出土した。平安時代は9世紀後半が1棟(H-12号住居址)、9世紀末～10世紀初頭が1棟(H-21号住居址)、10世紀後半が12棟(H-1～5・11・14～19号住居址)である。出土土器には土師器、須恵器、灰釉陶器、綠釉瓦器があり、須恵器等の内には墨書きが数点認められる(H-3・11・19・21号住居址)。土器以外では砥石、鉄製品、羽口、鉄滓などがみられ、H-11号住居址からは風字硯が出土している。

構および上坑は基本的に中世の掃属と考えられ、D-7号土坑のみ古墳時代と推測される。遺構外出土の遺物は、堅穴住居址に比する時期のものが多い。鉄滓の出土が目立ち、住居址から羽口が出土していることを併せると、周辺に小鎌治遺構が存在する可能性が指摘される。また、小破片ではあるが銅製品も確認されている。それ以外の時期では、縄文時代後期中葉の加曾利B式期に比定される深鉢の突起、7世紀末～8世紀の上野地域に特徴的な技法をもつ須恵器、布日住痕のある平瓦がある。



第4回 全体図

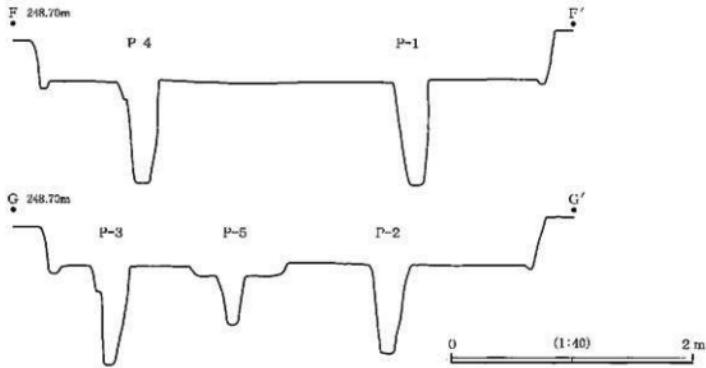


第2節 古墳時代

(1) 積穴住居址

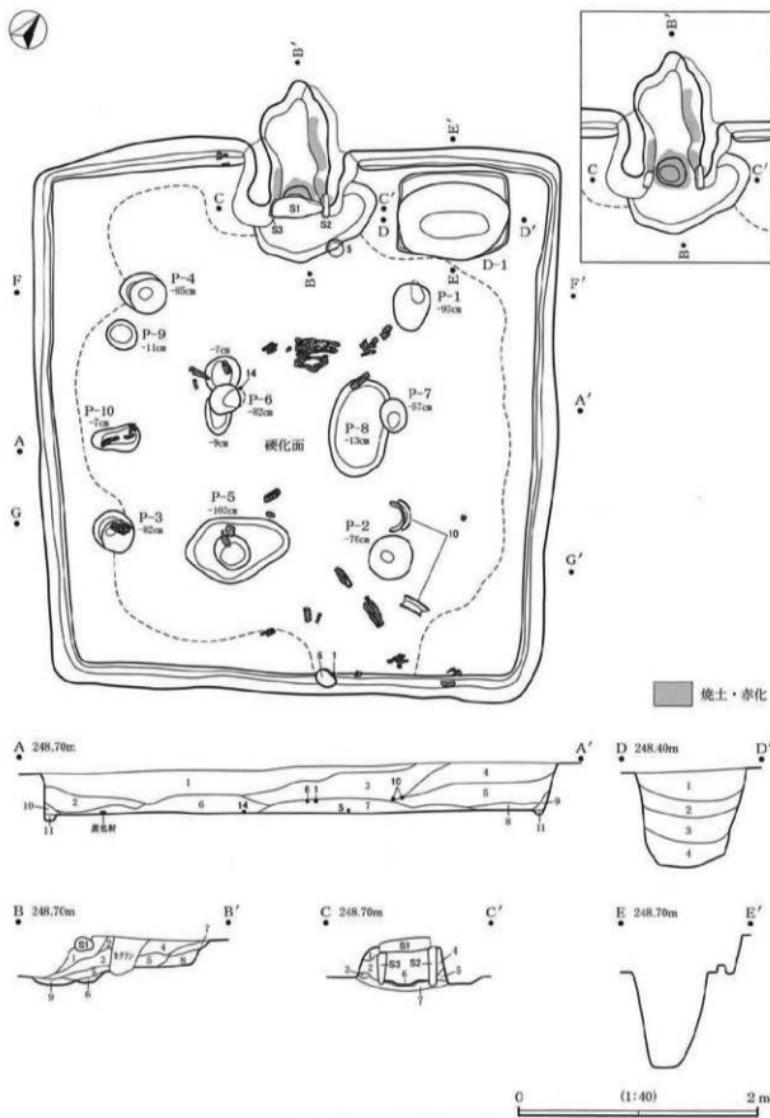
①H-7号住居址(第6・7・8図、第2表、PL. 2・16)

位置 B-1~2、C-1~2グリッド。重複 H-5号住居址およびM-7・9号溝となる。平面形態 方形。規模 長軸4.38 m × 短軸4.34 m × 深さ 0.41 m。主軸方位 N-38° - W。覆土 自然堆積と推測される。AS-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。覆土下層から床面直上にかけて炭化材が多数出土する。カマド 北西壁の中央に位置する。全長 1.16 m。焚口部の鳥居状石組みと袖が残存する。

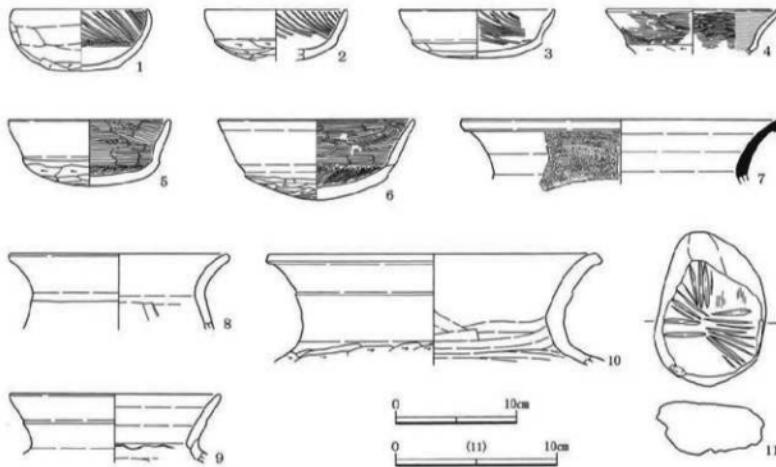


母地名	番号	寸法	土性	種性	流入地	標示
H-7号	1	馬頭塗上層7.03m/1	ややあり	ややかわら	11号溝・As-YP・炭化物粒を少含む。	
	2	馬頭塗上層7.03m/3	ややあり	ややかわら	自然層・As-YPを含む。土色・土質とも少含む。	
	3	馬頭塗上層7.03m/1	やや多い	ややかわら	自然層・As-YPを含む。炭化物粒を少含む。	
	4	使田塗上層7.03m/1	ややあり	ややかわら	自然層・As-YPを含む。土色・土質とも少含む。	
	5	馬頭塗上層7.03m/2	ややあり	ややかわら	自然層・As-YPを含む。土色・土質とも少含む。	
	6	馬頭塗上層7.03m/2	ややあり	ややかわら	自然層・As-YPを含む。土色・土質とも少含む。	
	7	馬頭塗上層7.03m/2	ややあり	ややかわら	自然層・As-YPを含む。土色・土質とも少含む。	
	8	使田塗上層7.03m/1	あり	ややあり	炭化物粒・土・自然層・As-YPを含む。	
	9	使田塗上層7.03m/1	ややあり	ややかわら	自然層・As-YPを含む。土色・土質とも少含む。	
	10	馬頭塗上層7.03m/1	ややあり	ややかわら	自然層・As-YPを含む。土色・土質とも少含む。	
	11	馬頭塗上層7.03m/1	なし	ややかわら	馬頭塗上層多量・山林地を含む。自然層を含む。	
カマド 付帯	1	馬頭塗上層7.03m/1	あり	ややかわら	馬頭塗上層多量。袖子土を含む。土色・土質とも少含む。	
	2	使田塗上層7.03m/1	ややあり	ややかわら	使田塗上層多量。土色・土質とも少含む。	
C-C	3	使田塗上層7.03m/1	あり	ややあり	土色・土質とも少含む。土色・土質とも少含む。	
	4	使田塗上層7.03m/1	あり	ややあり	土色・土質とも少含む。土色・土質とも少含む。	
D-1	5	馬頭塗上層7.03m/1	ややあり	ややかわら	馬頭塗上層多量。土色・土質とも少含む。	カマド掘り方
	6	使田塗上層7.03m/1	なし	なし	使田塗上層多量。土色・土質とも少含む。	カマド掘り方
	7	使田塗上層7.03m/1	ややあり	ややかわら	馬頭塗上層多量。土色・土質とも少含む。	
	8	使田塗上層7.03m/1	あり	ややあり	馬頭塗上層多量。土色・土質とも少含む。	
	9	使田塗上層7.03m/1	ややあり	ややかわら	馬頭塗上層多量。土色・土質とも少含む。	
	10	使田塗上層7.03m/1	やや多い	ややかわら	馬頭塗上層多量。土色・土質とも少含む。	
	11	使田塗上層7.03m/1	ややあり	ややかわら	馬頭塗上層多量。土色・土質とも少含む。	

第6図 H-7号住居址(1)



第7図 H-7号住居址 (2)



第8図 H-7号住居址出土遺物

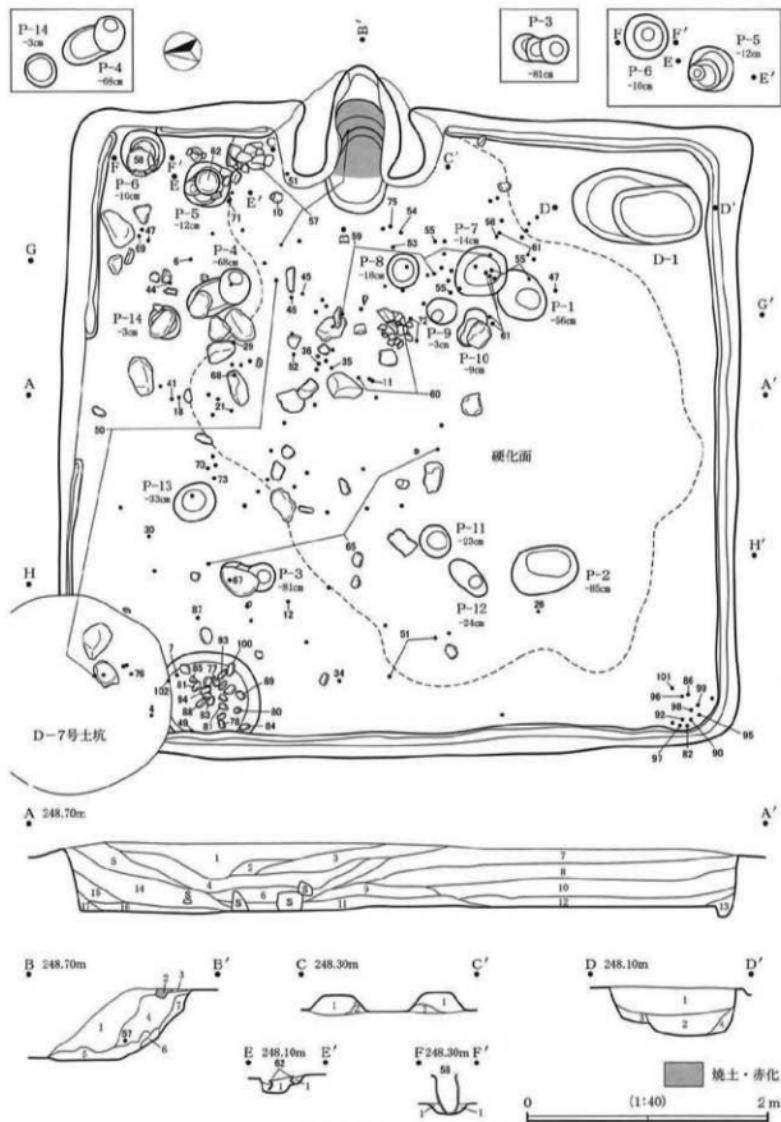
番号	器種	出土位置	法量(cm)	成・整形技法の特徴			
				①焼成	②色調	③粉土	④残存
1	土師器 壺	N-5, 3区	口径 11.2 底径 5.1 器高 5.1	①良好 ②褐色 ③白色粒、黒色 粒、褐色粒 ④ほぼ完形	外面部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内面部ヨコナデの後、口縁部へ体部上位に放射状のミガキ。		
2	土師器 壺	1区	口径 (11.8) 底径 (4.8) 器高 (4.2)	①普通 ②褐色 ③角閃石、白色 粒、褐色粒 ④口縁部~体部1/4	外面部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内面部ヨコナデの後、口縁部へ放射状のミガキ。		
3	土師器 壺	3区	口径 (13.0) 底径 (4.0) 器高 4.0	①良好 ②褐色 ③角閃石、白色 粒、褐色粒 ④1/5	外面部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。 内面部ヨコナデの後、口縁部へ放射状のミガキ。		
4	土師器 壺	3・4区	口径 (14.6) 底径 (5.7) 器高 (3.7)	①良好 ②明赤褐色 ③白色粒、 黒色粒、小種 ④口縁部~体部上位 1/5	外面部ヨコナデの後、横・斜方向のミガキ。体部ヘラケズリ。 内面部ヨコナデの後、横・斜方向のミガキ。		
5	土師器 壺	N-1	口径 (13.4) 底径 5.5 器高 5.5	①良好 ②明赤褐色 ③白色粒、 黒色粒、小種 ④口縁部1/2欠損	外面部ヨコナデ。体部~底底ヘラケズリ。 内面部ヨコナデの後、口縁部に横方向のミガキ、底面に一方向の ミガキ。		
6	土師器 壺	N-4	口径 16.4 底径 6.6 器高 6.6	①良好 ②明赤褐色 ③白色粒、 褐色粒 ④ほぼ完形	外面部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。 内面部ヨコナデの後、口縁部に横方向のミガキ、底面にV状のミ ガキ。		
7	灰陶器 壺	C3 ドリッド 2面	口径 (20.4) 底径 (5.3) 器高 (5.3)	①覆光脂 ②灰色 ③白色粒 ④口縁部 1/2	外面部ヨコナデ。口縁部上位に5本1単位の櫛削状工具による 波状紋。 内面部ヨコナデ。		
8	土師器 壺	2区	口径 (18.3) 底径 6.2 器高 (6.2)	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白色 ④口縁部~胴部上位 1/5	外面部ヨコナデ。胴部上位ヘラケズリ。 内面部ヨコナデ。胴部上位に横方向のヘラナダ。 外面部は器表面剥離。		
9	土師器 壺	2区	口径 (17.6) 底径 5.6 器高 (5.6)	①良好 ②浅黄褐色 ③白色粒、 黒色粒 ④口縁部 1/5	外面部ヨコナデ。 内面部ヨコナデ。胴部横方向のヘラナダ。		
10	土師器 壺	N-2・3	口径 27.8 底径 9.9 器高 (8.9)	①良好 ②褐色 ③片岩、白色粒、 黒色粒 ④口縁部上位	外面部ヨコナデ。胴部上位に横方向のヘラケズリ。 内面部ヨコナデ。胴部~胴部上位に横方向のヘラナダ。		
番号	器種	出土位置	法量(cm, g)	②材質	③残存	④成・整形技法の特徴	⑤備考
11	砾石	3区	長さ 9.6、幅 7.1、厚さ 3.2、重量 175.38	②軽石			④上面を砥面として使用
12	磨礲石	3区	長さ 12.15、幅 5.30、厚さ 3.13、重量 302.05	②灰岩	③完形	④-	⑤写真のみ
13	種子	D-1	長さ 2.2、幅 1.25、厚さ 1.02	②モモ	③一部欠損	④-	⑤写真のみ
14	種子	N-6	長さ 2.1、幅 1.3、厚さ 1.05、重量 0.50	②モモ	③一部欠損	④-	⑤写真のみ

第2表 H-7号住居址出土遺物観察表

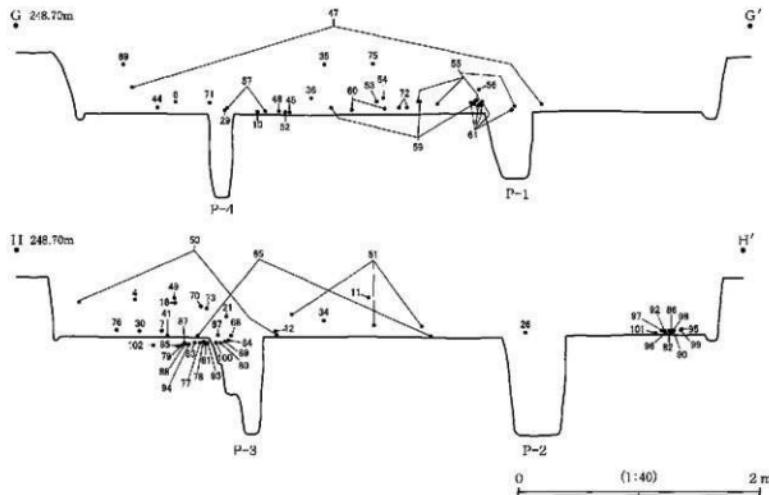
焚口部は幅 36 cm、高さ 28 cm を測る。袖石には両側面の平らな厚さ 6 cm の安山岩を使用している。S2 は取り上げ時に割れるほど、非常に脆くなっていた。袖構築土には黄橙色粘質土と黒褐色土の混土が用いられる。下部が黒褐色土主体、上部が黄橙色粘質土主体となる。内壁および火床面は焼土化が顕著である。燃焼の中央に小ピット（径 25 × 23 cm、深さ 4 cm）が検出される。**柱穴** 主柱穴を 4 基検出した。P-1 は径 38 × 32 cm、深さ 93 cm、P-2 は径 37 × 36 cm、深さ 76 cm、P-3 は径 35 × 32 cm、深さ 82 cm、P-4 は 40 × 32 cm、深さ 85 cm を測る。**貯蔵穴** カマドの右側に位置する (D-1)。平面形は梢円形を呈し、径 95 × 64 cm、深さ 82 cm を測る。一回り外側には長方形の浅い溝みが検出され、蓋の痕跡と推測される。**ピット** 6 基を検出した (P-5 ~ 10)。このうち、P-5 ~ 7 は深さ 57 ~ 103 cm で主柱穴と同程度の深さをもち、P-2 と併せると方形に組むことができる。のことから、先に P-2・5 ~ 7 を主柱穴とする小形の竪穴があり、その後 P-1 ~ 4 を主柱穴とする竪穴に拡張したものと推測される。**床面の状態** 全体的に縮まっており、特にカマド前から竪穴中央にかけて強く硬化している。南東壁下に幅狭い硬化面がみられ、出入り口部分と推測される。貼床で黒褐色土を主体とする。**壁溝** 全周する。幅 6 ~ 10 cm、深さ 3 ~ 5 cm。**遺物** 土師器壺・甕・壺、須恵器甕、砥石、薺編石、炭化種子などが出土した。概ね覆土中層へ下層へ、出土量は少ない。5 の壺はカマドの手前に位置する。口縁部が半分欠けていたが、床から 3 cm 上、正位の状態で出土した。13 の種子は貯蔵穴下層から、14 の種子は P-6 脇の床面直上から出土した。**時期** 6 世紀第 1 四半期と推定される。**備考** 焼失住居。P-3 の上面から炭化材が出土しており、柱を除去した後に火をかけたと推測される。

②H-8号住居址 (第 9 ~ 14 図、第 3 ~ 6 表、PL. 2・3・16 ~ 18)

位置 C ~ E-1 ~ 2 グリッド。**重複** H-5号住居址、M-1・2 号構、D-7号土坑と重複する。新旧關係は古い方から D-7 号土坑 < 本遺構 < H-5 号住居址 < M-1・2 号構となる。**平面形態** 南北にやや長い横長長方形。**規模** 長軸 5.39 m × 短軸 4.99 m × 深さ 0.57 m。**主軸方位** N-94° - E。**覆土** 自然堆積と推測される。白色粒・黄橙色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。**カマド** 東壁の北寄りに位置する。全長 1.22 m。袖が残存しており、構築土には黄色ローム土と黒褐色土の混土が用いられる。火床面は焼土化が顕著である。**柱穴** 主柱穴を 4 基検出した。P-1 は径 47 × 37 cm、深さ 56 cm、P-2 は径 57 × 39 cm、深さ 85 cm、P-3 は 45 × 23 cm、深さ 81 cm、P-4 は 56 × 29 cm、深さ 68 cm を測る。**貯蔵穴** カマドの右側に位置する (D-1)。平面形は梢円形を呈し、径 107 × 59 cm、深さ 38 cm を測る。**ピット** 9 基を検出した (P-5 ~ 13)。P-5・6 はカマドの左脇に位置する。P-5 からは土師器甕 (62) の口縁部が正位で出土し、土器台としての使用が推測される。P-6 には土師器長胴甕 (58) が正位で据えられていた。底部が半分ほど欠けており、東から西へや傾いた状態であった。外面にスス、内面に明瞭なコゲが付着しており、カマドで使用された甕と推測される。**床面の状態** 全体的に縮まっており、特にカマド前から竪穴中央にかけて強く硬化している。貼床で黒褐色土を主体とする。**壁溝** 全周するが、北壁中央部および東壁北隅で途切れる。幅 5 ~ 11 cm、深さ 3 ~ 7 cm。**遺物** 土師器壺・高杯・甕・壺、須恵器壺・蓋・高杯・甕・甕・壺・平瓶・提瓶、鉄製品、薺編石などが多く量に出土した。薺編石は竪穴の南西隅と北西隅の大きく 2 カ所にまとまっていた。南西隅は坂ね床面直上、北西隅は床面より 6 cm ほど浅く窪む範囲から出土した。床面直上の遺物としては、カマド左脇に位置する逆位の土師器壺 (10)、横位の土師器甕 (57) がある。24 の土師器鉢は内底面に布目圧痕が認められる。鉄製品は刀子や鐵鏃などである。**時期** 7 世紀第 3 四半期と推定される。

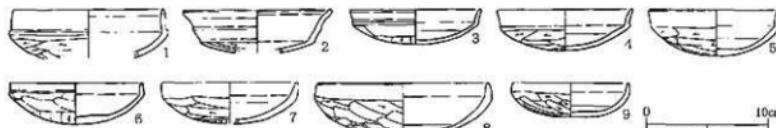


第9図 H-8号住居址 (1)

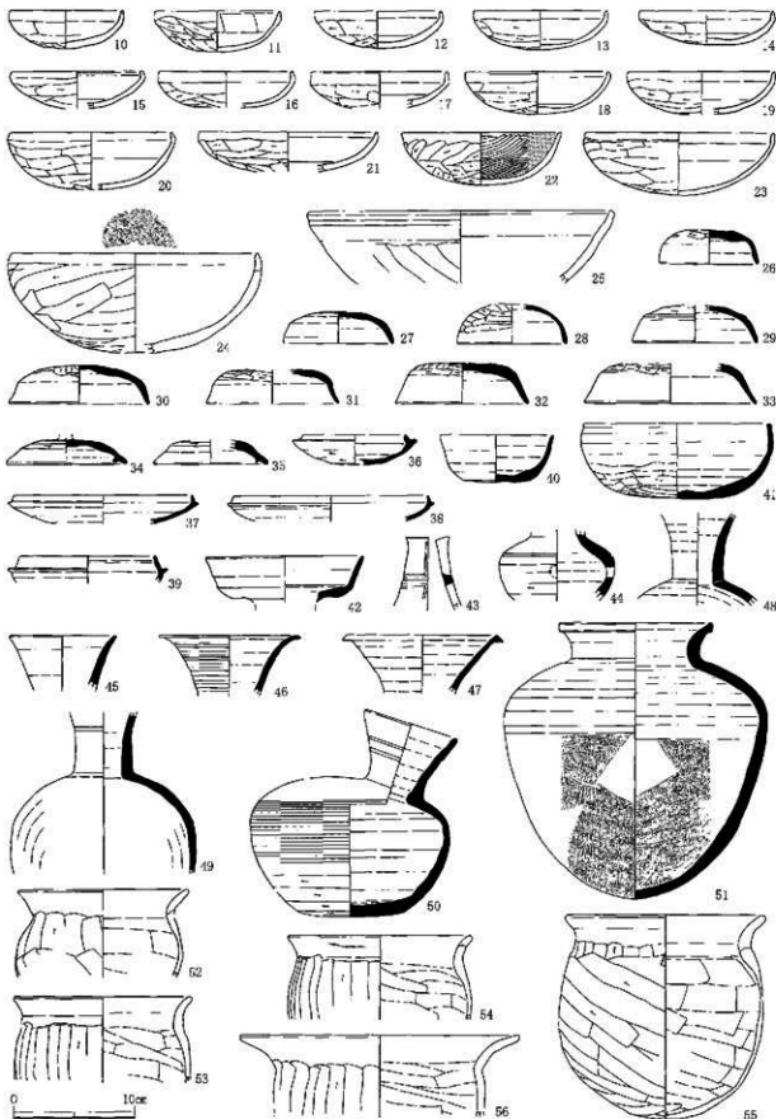


層名	番号	層名	層厚	土性
H-1階				
1	泥炭土上層	H-1/1	~4.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。
2	泥炭土中層	H-1/2	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。An-TPを微量含む。
3	泥炭土下層	H-1/3	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。An-TPを微量含む。
4	泥炭土上層	H-2/1	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。An-TPを微量含む。
5	泥炭土	H-2/2	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。An-TPを微量含む。
6	泥炭土下層	H-2/3	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。An-TPを微量含む。
7	泥炭土上層	H-3/1	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。An-TPを微量含む。
8	泥炭土中層	H-3/2	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。An-TPを微量含む。
9	泥炭土下層	H-3/3	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。An-TPを微量含む。
10	泥炭土上層	H-3/4	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。An-TPを微量含む。
11	泥炭土中層	H-3/5	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。
12	泥炭土下層	H-3/6	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。An-TPを微量含む。
13	泥炭土上層	H-3/7	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。
14	泥炭土中層	H-3/8	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。
15	泥炭土下層	H-3/9	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。An-TPを微量含む。
16	泥炭土上層	H-3/10	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。An-TPを微量含む。
17	泥炭土中層	H-3/11	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。An-TPを微量含む。
H-2階				
1	泥炭土上層	H-2/1	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。An-TPを微量含む。
2	泥炭土中層	H-2/2	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。
3	泥炭土下層	H-2/3	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。
4	泥炭土上層	H-2/4	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。
5	泥炭土中層	H-2/5	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。
6	泥炭土下層	H-2/6	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。An-TPを微量含む。
7	泥炭土上層	H-2/7	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。An-TPを微量含む。
8	泥炭土中層	H-2/8	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。
9	泥炭土下層	H-2/9	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。An-TPを微量含む。
D-1				
1	泥炭土上層	D-1/1	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。An-TPを微量含む。
2	泥炭土中層	D-1/2	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。
3	泥炭土下層	D-1/3	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。An-TPを微量含む。
4	泥炭土上層	D-1/4	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。An-TPを微量含む。
F-3-6				
1	泥炭土上層	F-3-6/1	~1.5	中砂土 泥炭物質を多く含む。An-TPを微量含む。

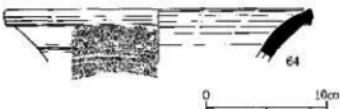
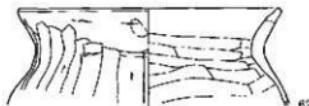
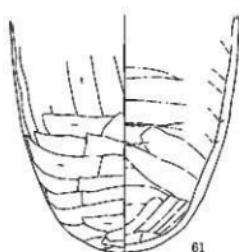
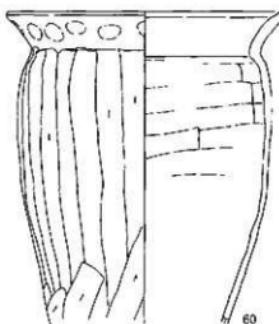
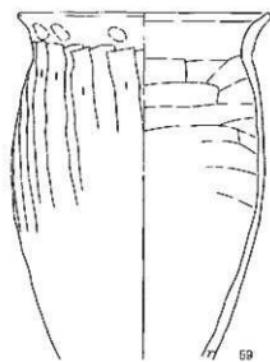
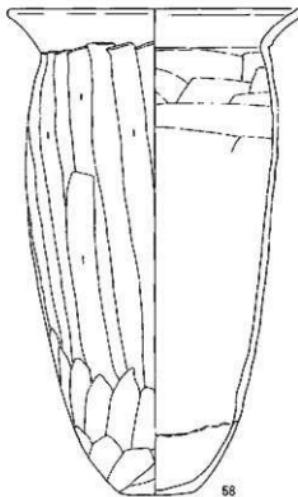
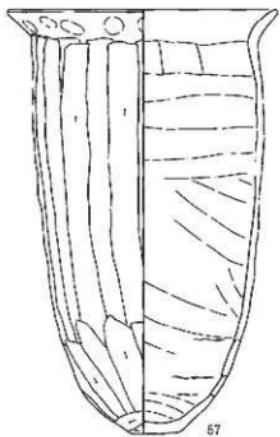
第10図 H-8号住居址 (2)



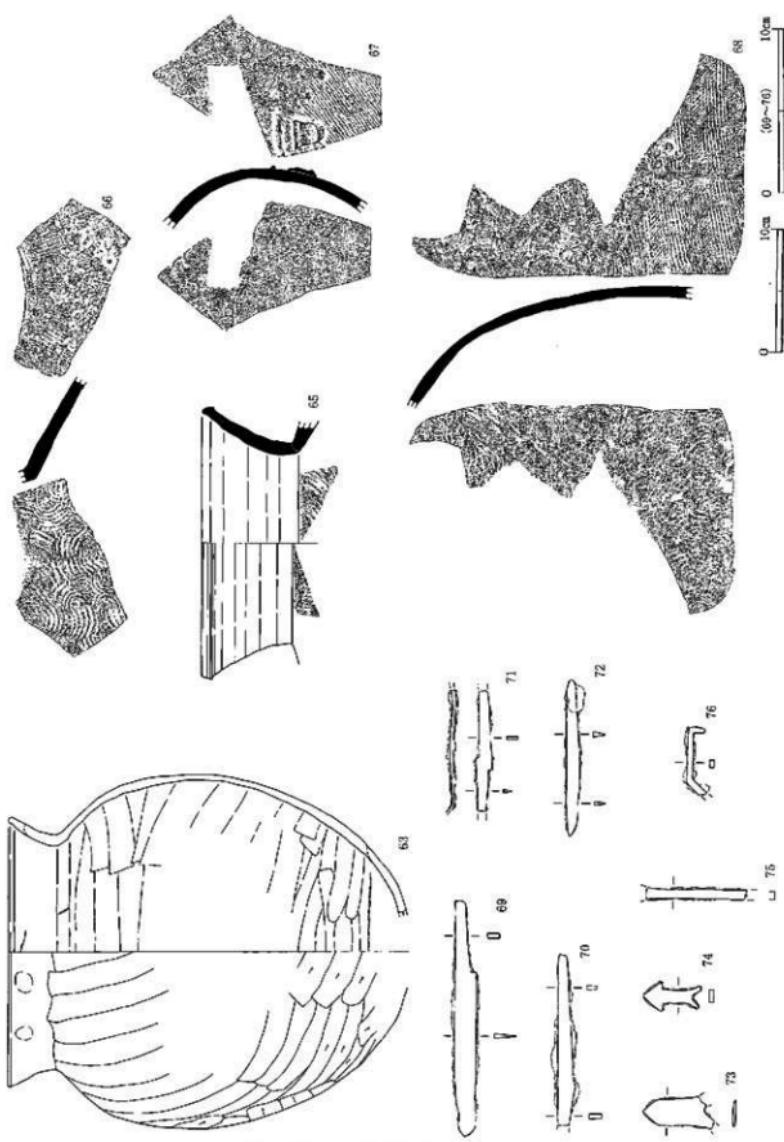
第11図 H-8号住居址出土遺物 (1)



第12図 H-8 沙住居址出土遺物 (2)



第13区 II 8号住居址出土遺物 (3)



第14図 II-8号住居址出土遺物(4)

番号	器種	出土位置	法皇(cm)	成・整形技法の特徴			
				①焼成	②色刷	③鉛上	④窓合
1	上部器 外	3・4区	口径(12.0) 底径 - 高さ(4.0)	①良好 ②褐色 ③白色粒、黒色 ④口縁部～体部1/5 窓合<3.5>	外面 内面	口縁部ヨコナヂ。体部ヘラケズリ。 口縁部～体部ヨコナヂ。	
2	上部器 外	1・4区	口径(12.0) 底径 - 高さ(3.5)	①良好 ②褐色 ③白色粒、黒色 ④口縁部～体部1/3	外面 内面	口縁部ヨコナヂ。体部ヘラケズリ。 口縁部～体部ヨコナヂ。	
3	上部器 外	4区	口径(10.9) 底径 - 高さ(2.8)	①良好 ②褐色 ③白色粒、黒色 ④3/4	外面 内面	口縁部ヨコナヂ。体部～底部ヘラケズリ。 口縁部～体部ヨコナヂ。底部ヘラケズリ。	
4	上部器 外	No. 22, 4区	口径(11.3) 底径 - 高さ(3.4)	①良好 ②褐色 ③白色粒、黒色 ④ほぼ完形	外面 内面	口縁部ヨコナヂ。体部～底部ヘラケズリ。 口縁部～体部ヨコナヂ。底部ヘラケズリ。	
5	上部器 外	1・4区	口径(10.9) 底径 - 高さ(3.8)	①良好 ②褐色 ③白色粒、黒色 ④底部1/2欠損	外面 内面	口縁部ヨコナヂ。体部～底部ヘラケズリ。 口縁部～体部ヨコナヂ。底部ヘラケズリ。	
6	上部器 外	No. 115, 1区	口径(11.0) 底径 - 高さ(3.4)	①良好 ②に五い褐色 ③角閃石、白色 ④ほぼ完形	外面 内面	口縁部ヨコナヂ。体部～底部ヘラケズリ～体部上段カヅ。 口縁部～体部ヨコナヂ。底部ヘラケズリ。	
7	上部器 外	No. 23	口径(11.3) 底径 - 高さ(3.4)	①良好 ②褐色 ③石英、白色粒、 黑色粒 ④1/2	外面 内面	口縁部ヨコナヂ。体部～底部ヘラケズリ。 口縁部ヨコナヂ。体部～底部ヘラケズリ。	
8	上部器 外	2区	口径(14.2) 底径 - 高さ(4.3)	①良好 ②に五い褐色 ③白色粒、 黑色粒 ④口縁部～体部1/3	外面 内面	口縁部ヨコナヂ。体部～底部ヘラケズリ。 口縁部～体部ヨコナヂ。底部ヘラケズリ。	
9	上部器 外	1区	口径(9.7) 底径 - 高さ(2.8)	①良好 ②褐色 ③石英、白色粒、 黑色粒 ④1/3	外面 内面	口縁部ヨコナヂ。体部～底部ヘラケズリ。 口縁部～体部ヨコナヂ。底部ヘラケズリ。	
10	上部器 外	No. 136	口径(9.6) 底径 - 高さ(3.2)	①良好 ②褐色 ③白色粒、黑色 粒 ④2/3	外面 内面	口縁部ヨコナヂ。体部～底部ヘラケズリ。 口縁部～体部ヨコナヂ。底部ヘラケズリ。	
11	上部器 外	No. 41, 1区	口径(10.5) 底径 - 高さ(3.4)	①良好 ②褐色 ③角閃石、白色 ④1/3	外面 内面	口縁部ヨコナヂ。体部～底部ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。 口縁部ヨコナヂ。体部～底部ヘラケズリ。	
12	上部器 外	No. 16, 4区	口径(10.0) 底径 - 高さ(3.1)	①良好 ②褐色 ③角閃石、白色 ④口縁部1/2欠損	外面 内面	口縁部ヨコナヂ。体部～底部ヘラケズリ。 口縁部～体部ヨコナヂ。底部ヘラケズリ。	
13	上部器 外	2・4区	口径(11.0) 底径 - 高さ(3.5)	①良好 ②褐色 ③角閃石、白色 ④口縁部1/3欠損	外面 内面	口縁部ヨコナヂ。体部～底部ヘラケズリ。 口縁部～体部ヨコナヂ。底部ヘラケズリ。	
14	上部器 外	1区	口径(11.1) 底径 - 高さ(2.8)	①良好 ②褐色 ③角閃石、白色 ④2/3	外面 内面	口縁部ヨコナヂ。体部～底部ヘラケズリ。 口縁部～体部ヨコナヂ。底部ヘラケズリ。	
15	上部器 外	2区	口径(10.9) 底径 - 高さ(3.1)	①良好 ②褐色 ③白色粒、黑色 粒 ④1/3	外面 内面	口縁部ヨコナヂ。体部～底部ヘラケズリ。 口縁部～体部ヨコナヂ。底部ヘラケズリ。	
16	上部器 外	3区	口径(10.9) 底径 - 高さ(3.1)	①良好 ②褐色 ③白色粒、黑色 粒 ④1/3	外面 内面	口縁部ヨコナヂ。体部～底部ヘラケズリ。 口縁部～体部ヨコナヂ。底部ヘラケズリ。	
17	上部器 外	3区	口径(11.5) 底径 - 高さ(3.0)	①良好 ②褐色 ③白色粒、黑色 粒 ④口縁部～体部1/2	外面 内面	口縁部ヨコナヂ。体部～底部ヘラケズリ。 口縁部～体部ヨコナヂ。底部ヘラケズリ。	
18	上部器 外	No. 32, 3区	口径(12.0) 底径 - 高さ(3.5)	①良好 ②に五い褐色 ③白色粒 ④1/2	外面 内面	口縁部ヨコナヂ。体部～底部ヘラケズリ。 口縁部～体部ヨコナヂ。底部ヘラケズリ。	
19	上部器 外	4区	口径(12.0) 底径 - 高さ(3.5)	①良好 ②褐色 ③白色粒、黑色 粒 ④2/3	外面 内面	口縁部ヨコナヂ。体部～底部ヘラケズリ。 口縁部～体部ヨコナヂ。底部ヘラケズリ。	
20	上部器 外	1・4区	口径(13.4) 底径 - 高さ(4.7)	①良好 ②褐色 ③白色粒 ④1/3	外面 内面	口縁部ヨコナヂ。体部～底部ヘラケズリ。 口縁部～体部ヨコナヂ。底部ヘラケズリ。	
21	上部器 外	No. 96	口径(15.0) 底径 - 高さ(3.5)	①良好 ②に五い黄褐色 ③白母、 黑色粒 ④口縁部～体部 1/3	外面 内面	口縁部ヨコナヂ。体部ヘラケズリ。 口縁部～体部ヨコナヂ。	
22	上部器 外	2区	口径(13.3) 底径 - 高さ(4.3)	①普通 ②に五い黄褐色 ③石英、 角閃石、白色粒 ④3/4	外面 内面	口縁部ヨコナヂ。体部～底部ヘラケズリ。 口縁部～体部に横・斜方向のミガキ。底部に一方向のミガキ。 内面に局部処理。	
23	上部器 外	1・4区	口径(15.9) 底径 - 高さ(5.2)	①良好 ②褐色 ③白色粒、黑色 粒 ④1/2	外面 内面	口縁部ヨコナヂ。体部～底部ヘラケズリ。 口縁部～体部ヨコナヂ。体部下位～底部ヘラケズリ。	
24	上部器 外	2区	口径(20.6) 底径 - 高さ(6.2)	①良好 ②褐色 ③角閃石、白色 粒 ④1/4	外面 内面	口縁部ヨコナヂ。体部～底部ヘラケズリ。 口縁部～体部ヨコナヂ。底部に布目出現。	

第3表 H 8号住居址出土遺物観察表(1)

番号	器種	出土位置	高さ(cm)	成・整形技術の特徴		
				①焼成	②色調	③脚
25	土師器 軸	4区	口径(25.7) 底径(6.0) 高さ(6.0)	①普通 ②灰褐色 ③片付 ④白色釉 ⑤口縁部～体部 1/4	外面 山根部ヨコナギ。体部に斜方内のヘラクズリ。 内面 口縁部ヨコナギ。体部ヘラナギ。 内面は無地。	
26	須恵器 蓋	No.139	口径(8.3) 底径(2.8)	①還元焰 ②灰色 ③白色釉	外面 ロクロナギ。天井部手持ちヘラケズリ。 内面 ロクロナギ。 外面口縁部に自然釉付着。	
27	須恵器 蓋	3・4区	口径(9.1) 底径(2.6) 高さ(2.6)	①還元焰 ②灰色 ③白色釉	外面 ロクロナギ。天井部は回転ヘラケズリ。 内面 ロクロナギ。	
28	須恵器 蓋	4区	口径(9.2) 底径(2.6) 高さ(3.0)	①還元焰 ②灰色 ③白色釉、裏 板 ④2/3	外面 ロクロナギ。天井部手持ちヘラケズリ。 内面 ロクロナギ。 外側大井部に自然釉付着。	
29	須恵器 蓋	No.129, 4区	口径(10.4) 底径(3.1) 高さ(3.1)	①還元焰(やや灰質) ②灰色 ③白色釉 ④1/2	外面 ロクロナギ。天井部は回転ヘラケズリ。口縁部と天井部の 境に横位比線が3条めぐる。 内面 ロクロナギ。	
30	須恵器 蓋	No.28, 3区	口径(11.6) 底径(3.2) 高さ(3.2)	①還元焰 ②灰色 ③白色釉	外面 ロクロナギ。天井部は手持ちヘラケズリ。 内面 ロクロナギ。 外面に自然釉が付着。	
31	須恵器 蓋	1・4区	口径(11.0) 底径(2.8)	①焼成ガス気泡 ②灰黄色 ③白色 ④小窓 ⑤1/4	外面 ロクロナギ。天井部手持ちヘラケズリ。 内面 ロクロナギ。	
32	須恵器 蓋	4区	口径(11.0) 底径(3.3)	①還元焰(やや灰質) ②灰黄色 ③白色釉 ④1/4	外面 ロクロナギ。天井部手持ちヘラケズリ。 内面 ロクロナギ。	
33	須恵器 蓋	1・4区	口径(14.4) 底径(3.0) 高さ(3.0)	①複数排气孔 ②に点い黄褐色 ③白色釉 ④1/3	外面 ロクロナギ。天井部手持ちヘラケズリ。 内面 ロクロナギ。	
34	須恵器 蓋	No.13, 4区	口径(10.0) 底径(2.1) 高さ(2.1)	①還元焰 ②灰色 ③黑色釉 ④抹み、口縁部一部欠損	外面 ロクロナギ。天井部は回転ヘラケズリ。 内面 ロクロナギ。 外面に自然釉が付着。	
35	須恵器 蓋	No.55	口径(9.5) 底径(2.9)	①還元焰 ②灰色 ③白色釉	外面 ロクロナギ。天井部回転ヘラケズリ。 内面 ロクロナギ。	
36	須恵器 軸	No.127, 1・4区	口径(8.6) 底径(2.6)	①還元焰 ②灰白色 ③白色釉 ④3/4	外面 ロクロナギ。体部～底が凹部へラケズリ。 内面 ロクロナギ。 たらあがりは内腹、受部はほぼ水平。	
37	須恵器 軸	2区	口径(14.9) 底径(2.3)	①還元焰 ②灰白色 ③白色釉 ④口縁部～体部1/8	外面 ロクロナギ。 内面 ロクロナギ。 たらあがりは内腹、受部はほぼ水平。唇厚は薄い。	
38	須恵器 軸	1区、カマド	口径(16.3) 底径(2.3)	①還元焰 ②灰白色 ③白色釉 ④口縁部～体部1/8	外面 ロクロナギ。 内面 ロクロナギ。 たらあがりは内腹、受部はほぼ水平。唇厚は薄い。	
39	須恵器 軸	1区	口径(14.4) 底径(2.2)	①還元焰 ②灰白色 ③白色釉 ④口縁部1/4	外面 ロクロナギ。 内面 ロクロナギ。 たらあがりは内腹、受部はほぼ水平。	
40	須恵器 軸	1・4区	口径(9.4) 底径(3.0)	①還元焰 ②灰白色 ③白色釉 ④口縁部～体部1/3欠損	外面 ロクロナギ。受部へラケズリ。 内面 ロクロナギ。	
41	須恵器 軸	No.33	口径(11.0) 底径(5.7)	①還元焰 ②灰白色 ③白色釉 ④1/3	外面 ロクロナギ。体部下位～底部手持ちヘラケズリ。 内面 ロクロナギ。 内面に自然釉が付着。	
42	須恵器 軸外	1・4区	口径(13.1) 底径(3.8)	①還元焰(やや灰質) ②灰白色 ③白色釉 ④杯縁部1/4	外面 ロクロナギ。 内面 ロクロナギ。	
43	須恵器 軸外	4区	口径(16.1) 底径(5.9)	①還元焰 ②灰白色 ③白色釉 ④脚部2/1	外面 ロクロナギ。中位に横位比線が2条めぐる。 内面 ロクロナギ。 横位比線を抉りたてし上に方形の透孔。	
44	須恵器 軸	No.63	口径(16.1) 底径(5.9)	①還元焰 ②灰白色 ③白色釉 ④体部1/3	外面 ロクロナギ。後、体部下半に回転ヘラケズリ。肩部に横位 比線が先めぐる。 内面 ロクロナギ。 体部中位に円形外面上に自然釉が付着。	
45	須恵器 軸	No.65, 1・2区	口径(8.9) 底径(4.5)	①還元焰(やや灰質) ②灰白色 ③白色釉 ④山根部のみ	外面 ロクロナギ。 内面 ロクロナギ。	
46	須恵器 軸	3・4区	口径(11.9) 底径(5.1)	①還元焰 ②灰白色 ③白色釉 ④山根部1/5	外面 ロクロナギの後、横方向のカキメ。 内面 ロクロナギ。	
47	須恵器 軸	No.62・88, 1・4区	口径(11.6) 底径(4.9)	①還元焰 ②灰白色 ③白色釉 ④山根部3/4	外面 ロクロナギ。 内面 ロクロナギ。	
48	須恵器 軸底	2・3・4区	口径(7.6) 底径(7.6)	①還元焰 ②灰白色 ③白色釉 ④底部2/3、肩部1/5	外面 ロクロナギ。 内面 ロクロナギ。 頂部内面に自然釉が付着。	

第4表 H-8号住居址出土遺物観察表(2)

番号	器種	出土位置	深度(cm)	①焼成 ②色調 ③断面 ④残存	成・整形技術の特徴	
					外表面	内表面
49	須志型 他瓶	N. 21, 1区	口径 底径 高さ(13.4)	①運元胎 ②灰色 ③白色粒 ④口縁部～胴部上半1/3	ロクロナダ。底部に横付沙綿が、条めぐる。 ロクロナダ。	
50	須志型 平瓶	N. 26 - 112 3 - 4区	口径 底径 高さ(8.8) 基部(12.1)	①運元胎 ②灰色 ③石英、白色 ④口縁部/1/3、胴部1/3、底部 光沢	外表面 ロクロナダ。口縫付横付鉄2条。胴部上半に横付カキメ。 内表面 横付鉄下半部、底部は右回転ヘラケズリ。 ロクロナダ。円錐部は指すア。 口縫付底の内底面に自然焼付。	
51	須志型 甕	N. 8 - 10 · 11 - 15 · 27 - 109, 1 - 2 - 4区	口径(12.8) 底径 高さ(22.8)	①運元胎 ②灰色 ③白色波 ④口縁部1/3、胴部3/4	外表面 ロクロナダ。胴部下半～底部平行タタキ。 内表面 ロクロナダ。胴部下下～底部同心円の当て具底。	
52	上海器 小形	N. 14, 3 2 - 4区	口径 底径 高さ(7.3)	①運元胎 ②にぶい赤褐色 ③片岩、 白色粒 ④口縁部～胴部上半1/2	外表面 口縫付ヨコタガ。胴部に底方側～斜方側のヘラケズリ。 内表面 ロクロナダ。胴部上位に斜方側のヘラケズリ。	
53	土器瓶 小形甕	N. 74, 1 - 3区	口径(14.8) 底径 高さ(7.1)	①普通 ②にぶい褐色 ③片岩、 白色粒 ④口縁部～胴部上位1/3	外表面 口縫付ヨコタガ。胴部上位に斜方側のヘラケズリ。 内表面 ロクロナダ。胴部上位に斜方側のヘリナダ。	
54	土器瓶 小形甕	N. 76, 2区	口径(16.4) 底径 高さ(7.0)	①普通 ②にぶい褐色 ③片岩、 白色粒 ④口縁部～胴部上位1/3	外表面 口縫付ヨコタガ。胴部上位に斜方側のヘラケズリ。 内表面 ロクロナダ。胴部上位に斜方側のヘリナダ。	
55	土器瓶 小形甕	N. 79 · 85 - 93 · 94 - 97, 1 - 2 - 4区	口径 16.7 底径 高さ(16.0)	①普通 ②にぶい褐色 ③片岩、 白色粒、黑色粒 ④1/2	外表面 口縫付ヨコタガ。胴部上位に底方側のヘラケズリ～胴部中 へト位に斜方側のヘラケズリ。底部ヘラケズリ。 内表面 ロクロナダ。胴部に横方向のヘリナダ。底部ヘリナダ。	
56	土器甕 甕	N. 96	口径(23.3) 底径 高さ(6.6) 上位17.6	①普通 ②にぶい褐色 ③片岩、 白色粒、黑色粒 ④口縁部～胴部	外表面 口縫付ヨコタガ。胴部上位に斜方側のヘラケズリ。 内表面 ロクロナダ。胴部上位に斜方側のヘラナダ。	
57	土器甕 甕	N. 108 · 110 - 136, 1 - 4区	口径 22.4 底径 3.7 高さ(35.0)	①良好 ②にぶい褐色 ③片岩、 白色粒、褐色粒 ④2/3	外表面 ロクロナダ。布頭压痕、底部紙方向、下端は斜方向の ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。 内表面 ロクロナダ。底部横～斜方向のヘリナダ。底部ヘリナダ。	
58	土器甕 甕	N. 138, 1区	口径 24.3 底径(6.2) 高さ(40.1)	①良好 ②にぶい褐色 ③片岩、 白色粒、褐色粒 ④底部1/2欠損	外表面 口縫付ヨコタガ。胴部上～中位は斜方側、下端は斜方側の ヘラケズリ。 内表面 ロクロナダ。底部ヘラケズリ。	
59	土器甕 甕	N. 70 · 82 - 91 · 122, 2 - 4区	口径(21.0) 底径 高さ(28.6) 1/4、胴部3/4	①良好 ②にぶい褐色 ③片岩、 白色粒、黑色粒 ④口縁部	外表面 口縫付ヨコタガ。椎形压痕。胴部紙方向のヘラケズリ。 内表面 ロクロナダ。底部横方向のヘリナダ。	
60	土器甕 甕	N. 124 - 130 - > 134 2 - 4区	口径 23.0 底径 高さ(28.8)	①良好 ②にぶい褐色 ③片岩、 石英、白色粒、褐色粒 ④口縁部 光沢、底部1/2	外表面 口縫付ヨコタガ。椎形压痕、斜部横方向のヘラケズリ～下 位斜方側のヘラケズリ。 内表面 口縫付ヨコタガ。底部横方向のヘリナダ。	
61	土器甕 甕	N. 86 · 87 - 92 · 95 - 100 · 152, 2区	口径 底径 高さ(19.5)	①良好 ②褐色 ③片岩、石英、 白色粒 ④底部中位～底 部3/4	外表面 口縫付中位は斜方側～下位は横方向のヘラケズリ。底部ヘラ ケズリ。 内表面 植根痕、斜方側のヘリナダ。底部ヘリナダ。 外表面 葵形压痕、粘土付着。	
62	土器甕 甕	N. 165	口径 21.8 底径 高さ(8.2)	①良好 ②にぶい褐色 ③片岩、 石英、白色粒 ④口縁部	外表面 口縫付ヨコタガ。指断压痕、胴部上位紙方向のヘラケズリ。 内表面 口縫付ヨコタガ。胴部上位横方向のヘラナダ。	
63	上海器 甕	N. 26 · 31 - 34 · 38 - 39 · 120 - 121, 4区	口径(22.0) 底径 高さ(33.0)	①良好 ②褐色 ③片岩、チャー ト、白色粒、褐色粒 ④口縁部 1/4、胴部1/2	外表面 口縫付ヨコタガ。指断压痕、底部紙方向のヘラケズリ。 内表面 口縫付ヨコタガ。底部横方向のヘリナダ。	
64	須志器 甕	4区	口径(25.7) 底径 高さ(4.4)	①運元胎 ②暗灰灰 ③白色粒 ④口縁部1/8	外表面 ロクロナダ。2条の横位沈縫を施した上位に、11本1單 位の横位状工法による波状文を施す。 内表面 ロクロナダ。	
65	須志器 甕	N. 20 - 51, 4区	口径(22.5) 底径 高さ(4.5)	①運元胎 ②褐色 ③褐色 ④口縁部～胴部1/2	外表面 ロクロナダ。底部平行タタキ。 内表面 ロクロナダ。底部横方向のヘリナダ。 外表面 底部壓痕および底部内臼輪部に自然焼付。	
66	須志器 甕	N. 28	口径 底径 高さ	①運元胎 ②灰色 ③白色粒 ④口縁部	外表面 平行タタキ。自然焼付。 内表面 内心円の当て具底。	
67	須志器 甕	N. 19, E 4区	口径 底径 高さ	①運元胎 ②暗灰灰 ③白色粒 ④胴部破片	外表面 平行タタキ・強力側のカキメ。 内表面 強力側のヘラケズリ。 外表面 自然焼付。蓋の口縫付横片が残存。	
68	須志器 横板	N. 160, 1区、 造り方 高さ	口径 底径 高さ	①運元胎 ②暗灰灰 ③白色粒 ④胴部破片	外表面 平行タタキを横板格子状に施した後、横方側のカキメ。 内表面 同心円の当て具底～横方向のヘリナダ。 外表面 自然焼付。	
69	須志器 刀子	N. 1	○全長 16.7、 身長 10.1、 身幅 1.3、 底厚 0.2、 茎長 5.5、 茎幅 0.7、 茎厚 0.3、 重量 25.96 光沢	①法形(cm, g) ②材質 ③成形 ④成形・整形技術の特徴 ⑤備考		
70	須志器 刀子	N. 2	○全長 10.7、 茎長 7.9、 茎幅 1.0、 茎厚 0.25、 重量 15.35 光沢	①法形 ②材質 ③成形 ④成形・整形技術の特徴 ⑤備考		

第5表 II 8号住居址出土遺物觀察表(3)

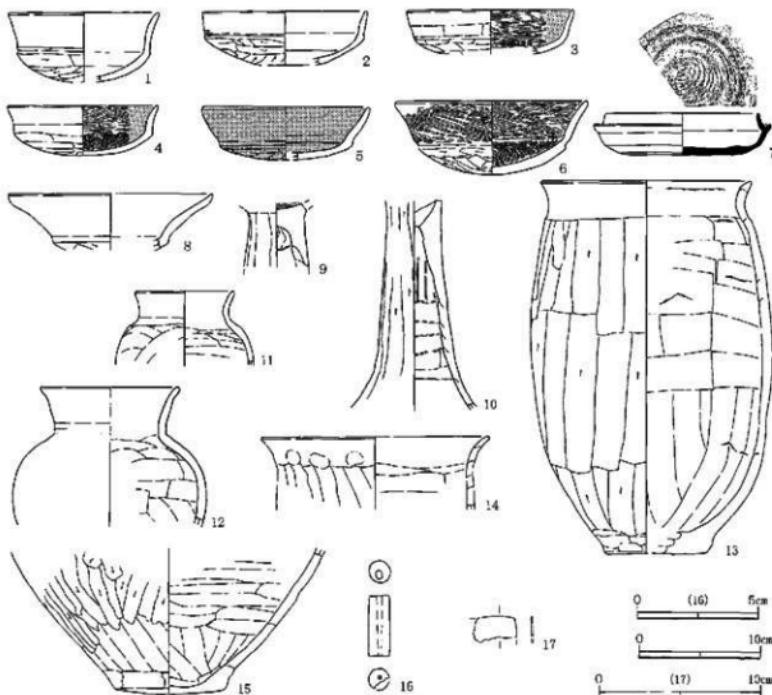
番号	器種	出土位置	○法量(cm, g) ○材質 ○残存 ○成・整形技法の特徴 ○備考
71	鉄製品 刀子	No.117	①長さ<7.5cm、幅1.0、厚さ0.2、重量6.12 ②鉄製 ③柄身欠損 ④刃部あり
72	鉄製品 刀子	No.5・6	①長さ9.7cm、幅0.9、厚さ0.3、重量9.38 ②鉄製 ③ほぼ完形 ④刃部あり
73	鉄製品 鉗子	No.3	①鉗身長4.5cm、鉗子幅<2.1cm、鉗身厚0.2、重量5.08 ②鉄製 ③鉗身端のみ、逆側毎欠損 ④鉛削形
74	鉄製品 鉗子	1区	①鉗子長3.5cm、鉗子幅1.9、鉗子厚0.3、重量4.39 ②鉄製 ③鉗子端のみ ④-
75	鉄製品 鉗子	No.7	①長さ6.3cm、幅0.7、厚さ0.3、重量5.11 ②鉄製 ③鉗子のみ、端部欠損 ④断面切方形
76	鉄製品 不明	No.120	①長さ<4.2cm、幅1.3、厚さ0.3、重量4.13 ②鉄製 ③端部欠損 ④断面丸方形
77	磨礫石	No.155	①長さ8.27cm、幅5.35cm、厚さ8.27cm、重量182.93 ②安山岩 ③光形 ④- ⑤年真的み
78	磨礫石	No.148	①長さ7.41cm、幅4.74cm、厚さ4.06cm、重量206.20 ②安山岩 ③光形 ④- ⑤年真的み
79	磨礫石	No.153	①長さ9.33cm、幅5.12cm、厚さ3.40cm、重量208.15 ②安山岩 ③光形 ④- ⑤年真的み
80	磨礫石	No.142	①長さ7.96cm、幅4.05cm、厚さ3.22cm、重量185.28 ②安山岩 ③光形 ④- ⑤年真的み
81	磨礫石	No.145	①長さ8.60cm、幅4.42cm、厚さ3.44cm、重量177.02 ②安山岩 ③光形 ④- ⑤年真的み
82	磨礫石	No.176	①長さ9.01cm、幅4.88cm、厚さ3.11cm、重量179.47 ②安山岩 ③光形 ④- ⑤年真的み
83	磨礫石	No.119	①長さ9.91cm、幅5.61cm、厚さ2.03cm、重量158.38 ②安山岩 ③光形 ④- ⑤年真的み
84	磨礫石	No.141	①長さ7.72cm、幅4.20cm、厚さ4.71cm、重量235.43 ②砂岩 ③光形 ④- ⑤年真的み
85	磨礫石	No.159	①長さ10.59cm、幅5.46cm、厚さ2.47cm、重量174.78 ②安山岩 ③光形 ④- ⑤年真的み
86	磨礫石	No.158	①長さ9.91cm、幅5.51cm、厚さ3.18cm、重量212.87 ②安山岩 ③光形 ④- ⑤年真的み
87	磨礫石	No.179	①長さ9.31cm、幅3.98cm、厚さ2.48cm、重量137.57 ②安山岩 ③光形 ④- ⑤年真的み
88	磨礫石	No.150	①長さ9.52cm、幅4.73cm、厚さ5.22cm、重量313.39 ②安山岩 ③光形 ④- ⑤年真的み
89	磨礫石	No.143	①長さ8.54cm、幅5.64cm、厚さ4.90cm、重量268.87 ②砂岩 ③光形 ④- ⑤年真的み
90	磨礫石	No.173	①長さ8.84cm、幅4.78cm、厚さ4.02cm、重量233.15 ②安山岩 ③光形 ④- ⑤年真的み
91	磨礫石	2区	①長さ9.47cm、幅5.43cm、厚さ3.31cm、重量22.72 ②安山岩 ③光形 ④- ⑤年真的み
92	磨礫石	No.174	①長さ9.51cm、幅4.59cm、厚さ3.56cm、重量192.04 ②安山岩 ③光形 ④- ⑤年真的み
93	磨礫石	No.157	①長さ10.73cm、幅5.13cm、厚さ2.74cm、重量165.37 ②安山岩 ③光形 ④- ⑤年真的み
94	磨礫石	No.152	①長さ9.59cm、幅5.87cm、厚さ2.57cm、重量165.22 ②安山岩 ③光形 ④- ⑤年真的み
95	磨礫石	No.171	①長さ10.60cm、幅5.59cm、厚さ3.20cm、重量273.47 ②安山岩 ③光形 ④- ⑤年真的み
96	磨礫石	No.157	①長さ11.12cm、幅6.20cm、厚さ4.25cm、重量371.01 ②砂岩 ③光形 ④- ⑤年真的み
97	磨礫石	No.175	①長さ10.70cm、幅5.76cm、厚さ3.79cm、重量265.58 ②安山岩 ③光形 ④- ⑤年真的み
98	磨礫石	No.172	①長さ10.60cm、幅5.61cm、厚さ4.40cm、重量339.41 ②砂岩 ③光形 ④- ⑤年真的み
99	磨礫石	No.170	①長さ10.82cm、幅6.57cm、厚さ3.82cm、重量383.58 ②安山岩 ③光形 ④- ⑤年真的み
100	磨礫石	No.158	①長さ11.10cm、幅5.52cm、厚さ3.49cm、重量296.80 ②安山岩 ③光形 ④- ⑤年真的み
101	磨礫石	No.166	①長さ11.12cm、幅4.94cm、厚さ4.16cm、重量326.26 ②砂岩 ③光形 ④- ⑤年真的み
102	磨礫石	No.178	①長さ12.15cm、幅6.00cm、厚さ3.93cm、重量610.62 ②安山岩 ③光形 ④- ⑤年真的み
103	磨礫石	2区	①長さ13.06cm、幅5.89cm、厚さ3.67cm、重量487.95 ②安山岩 ③光形 ④- ⑤年真的み

第6表 H 8号住居址出土遺物概観表(4)

(3)H-9a号住居址(第15~17図、第7・8表、Pl. 4・19)

位置 F-1、G-1グリッド。重複 H-2・3・9b号住居址、M-8号溝と重複する。新旧関係は古い方から木造構・H-9b号住居址・H-2・3・9b号住居址・M-8号溝となる。平面形態 北側が調査区外となり全容は不明である。規模 長軸5.00m×短軸2.84m以上×深さ0.40m。主軸方位 N-57°E。覆土 自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を上体とする。カマド 未検出。柱穴 主柱穴を2基検出した。P-1は径56×55cm、深さ95cm、P-2は径51×34cm、深さ77cmを測る。貯蔵穴 カマドの右側に位置する(D-1)。平面形は隅丸方形を呈し、下端の東側はオーバーハングする。径81×79cm、深さ97cmを測る。ピット 1基を検出した(P-3)。径60×34cm以上、深さ53cmを測る。床面の状態 全体的に縋まっており、特に豊穴中央部は強く硬化している。豊穴で黒褐色土を主体とする。硬化部分は黄褐色土を主体とした黒褐色土との混土である。壁溝 南・西壁下にめぐる。幅6~16cm、深さ8~10cm。遺物 上師器壺・高杯・壺・壺・須恵器壺・蓋・壺・壺・管玉・鉄製品・齒鑿石などが多く出土した。貯蔵穴の下層から上師器の壺(5)・小形壺(12)・甕(14)の破片が、P-1の最下層から上師器壺・高杯の破片が、

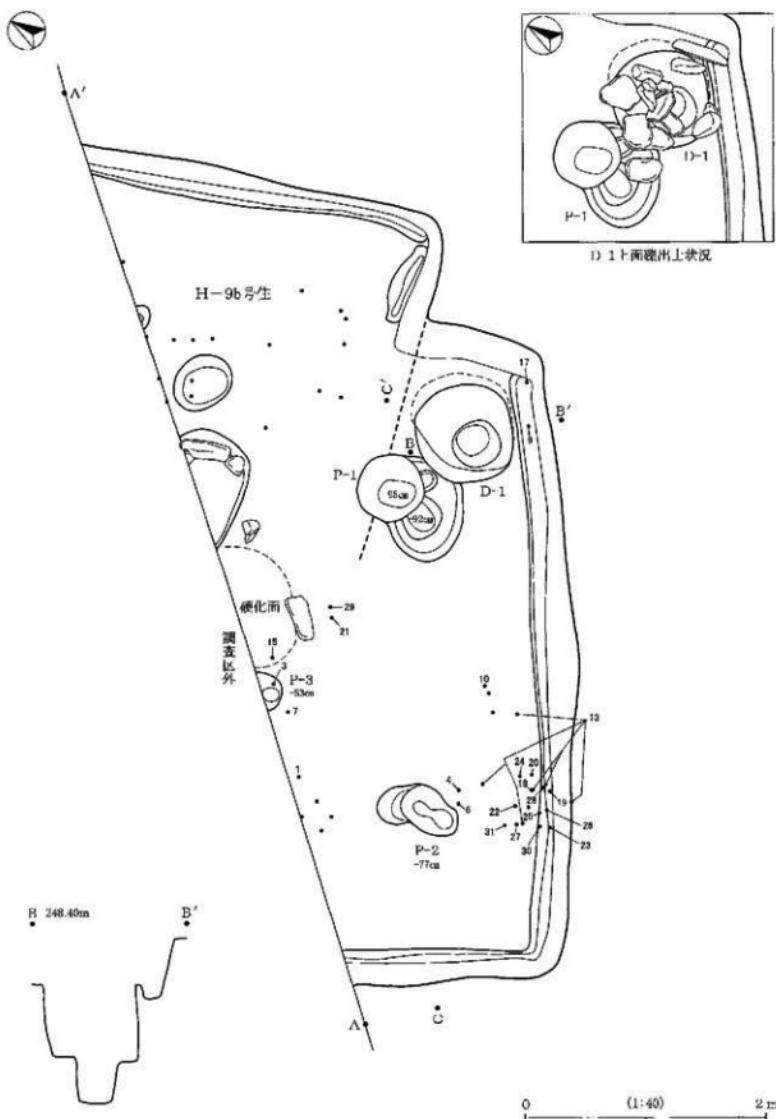
P-2 の下層から土器の坏 (2)・高坏 (8) の破片が出土した。16の菅玉は4区下層の出土である。薔薇石は概ね床面直上である。略穴の南東隅、貯藏穴の上からは、大振りの安山岩が上層から流れ込んだ状態で出土した。床面直上の遺物は1・3・6・7・15がある。時期 6世紀中頃と推定される。

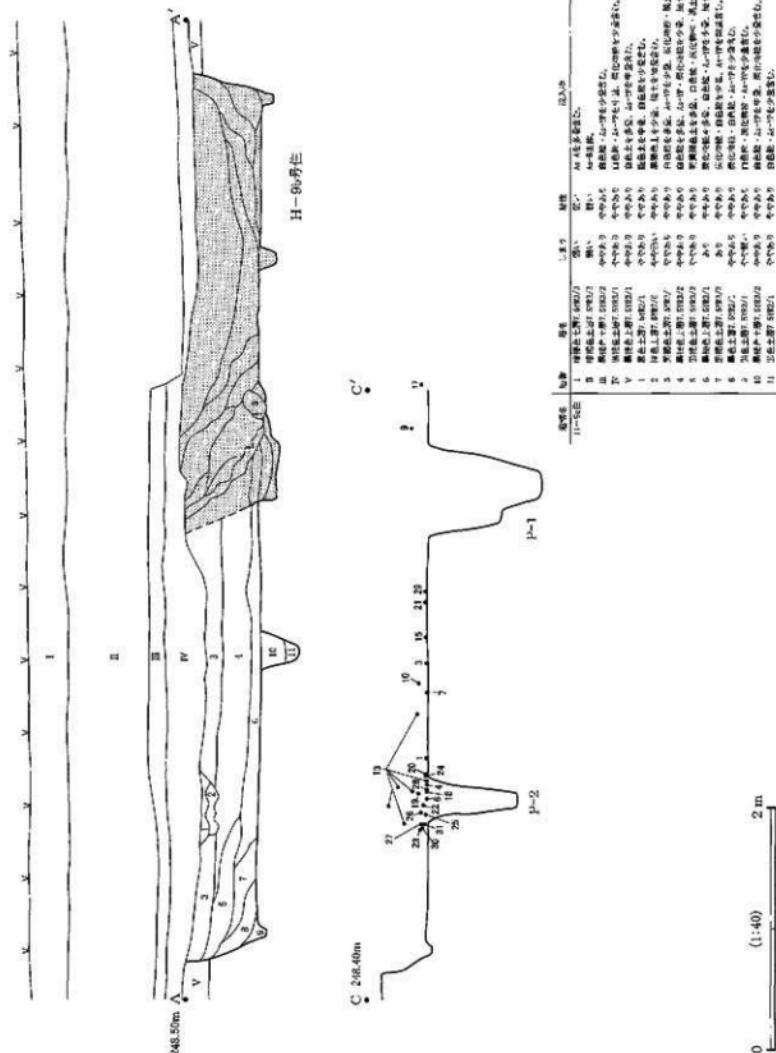


第15図 H-9a号住居址出土遺物

番号	器種	出土位置	法長(cm)	①焼成 ②色調 ③粒状 ④残存	成・発形技法の特徴
1	上部器 坏	No. 17	口径(13.6) 底径(5.7)	①良好 ②明褐色 ③石炭、白色 粒 ④1/3	外表面 薔薇部ココナツ。体部～底部ヘラケズリ。 内表面 薔薇部～体部ヨコナグ。底部ヘジナグ。
2	上部器 坏	P-2 下層	口径(13.7) 底径(4.4)	①良好 ②明褐色 ③白色粒、青 色粒 ④口縁部～体部1/3	外表面 薔薇部ココナツ。体部ヘラケズリ。 内表面 薔薇部～体部ヨコナグ。
3	上部器 坏	No. 20	口径(14.0) 底径(3.6)	①良好 ②褐色 ③黑色粒、褐色 粒 ④口縁部～体部1/4	外表面 薔薇部ココナツ。体部ヘラナグ。 内表面 薔薇部～体部に横・斜方向のミガキ。 内面に黑色処理。
4	上部器 坏	No. 7, 1+1	口径(12.6) 底径(4.1)	①良好 ②褐色 ③白色粒 ④口 縁部1/3欠損	外表面 薔薇部ヨコナグ。体部～底部ヘラケズリ。 内表面 薔薇部横方向のミガキ。体部～底部に横・斜方向のミガキ。 内面に黑色処理。
5	上部器 坏	0-1	口径(13.6) 底径(4.4)	①良好 ②にぼい褐色 ③石炭、 白色粒 ④2/3	外表面 薔薇部ヨコナグ。体部～底部ヘラケズリ。 内表面 薔薇部ヨコナグ。体部～底部ヘラナグ。 内外面に黑色処理。

第7表 II-9a号住居址山上遺物観察表(1)





第17回 H-9a号住居址(2)

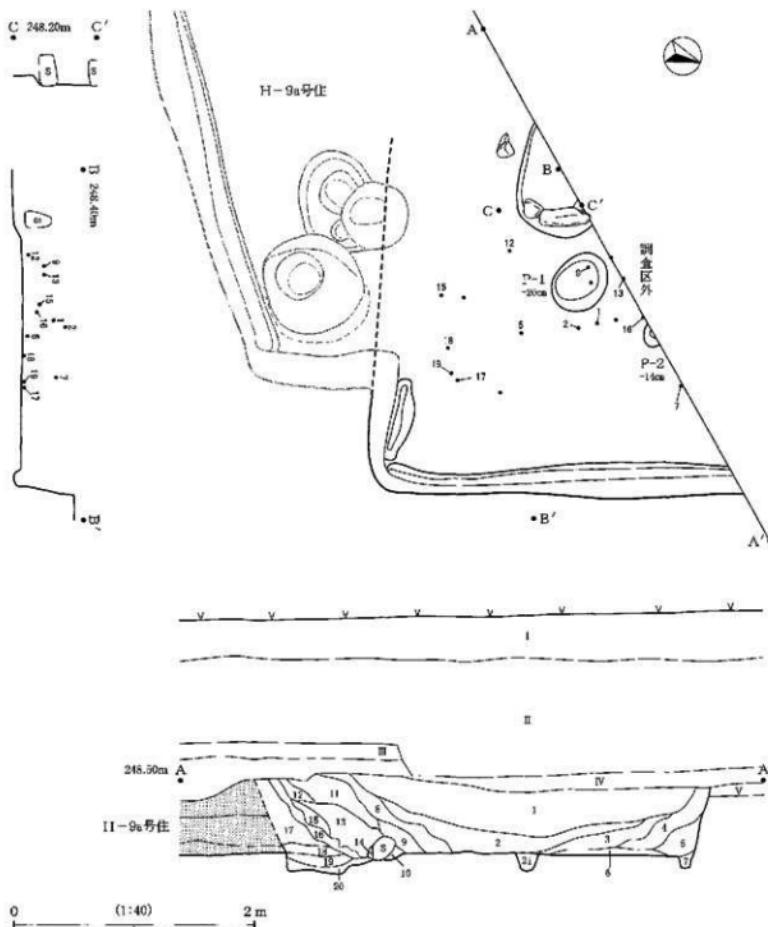
番号	器種	出土位置	法尺 (cm)	特徴					成・形態技術の特徴
				①素面	②陶質	③胎土	④焼成		
6	土師器 外	N-8-5a, 活	口径 (16.0) 底径 5.0	①良好 ②褐色 ③白色粒 ④口縁部 1/2 欠損	外 内面	口縁部ココナツ→斜方向のミガキ。体部一底面へラケズリ。 口縁部ココナツ→横・斜方向のミガキ。体部へ底面に横・斜方向のミガキ。			
7	土師器 外	N-19	口径 (12.8) 底径 3.4	①良好 ②灰色 ③白色 ④1/4	外 内面	レクランジ。体部下部へ底面回転へラケズリ。 ロクロナフ。底面に同心円の当て具ね。			
8	土師器 内	P-2 下層	口径 (17.0) 底径 4.6	①良好 ②明黄褐色 ③白色粒 ④口縁部 1/8 窓高 (4.6)	外 内面	口縁部ココナツ。底面へラタズリ。 口縁部ココナツ。窓部上部へラナフ。			
9	土師器 内	N-32	口径 — 底径 (5.2)	①良好 ②にぶい黄褐色 ③白色 ④耳部底面へ脚部上半	外 内面	脚部底面方向のヘラナフ。 耳部底面へ方向のミガキ、黑色施墨。脚部上位指ナフ。			
10	土師器 内	N-11	口径 — 底径 (17.1)	①良好 ②褐色 ③灰青、石英、 白閃石、白色粒 ④脚部	外 内面	脚部底面方向のヘラケズリ。 脚部上部に縱方向のヘラナフ、下部に横方向のヘラナフ。			
11	土師器 内	- 括	口径 (9.2) 底径 - 窓高 (6.1) 1/3	①良好 ②にぶい黄褐色 ③白色 ④白色粒 ⑤耳部底面へ脚部上半	外 内面	口縁部ココナツ。脚部斜方向のヘラナフ。 口縁部ココナツ。脚部横方向のヘラナフ。			
12	土師器 小形瓶	D-1	口径 (11.0) 底径 1/3	①良好 ②褐色 ③白色 ④白色粒 ⑤耳部底面	外 内面	口縁部ココナツ。脚部は堅純のため不明。 口縁部ココナツ。脚部横・斜方向のヘラナフ。			
13	土師器 内	N-1 ~ 4, 8-9, 4 区, - 括	口径 (17.4) 底径 (8.4) 窓高 (30.7)	①良好 ②褐色 ③チャート、 白色 ④白色粒、黑色粒 ⑤3/4	外 内面	口縁部ココナツ。脚部斜方向のヘラケズリ → 下端横方向の ヘラナフ。底面へラケズリ。 口縫部ココナツ。脚部下半横方向のヘラナフ、上半横方向 のヘラナフ。			
14	土師器 内	D-1	口径 (19.0) 底径 1/7	①良好 ②にぶい黄褐色 ③白色 ④白色粒 ⑤耳部底面	外 内面	口縁部ココナツ。指印压痕。脚部上位に縱方向のヘラケズリ。 口縫部ココナツ。脚部上位に横方向のヘラナフ。			
15	土師器 内	N-21, 1-2 区, - 括	口径 9.1 底径 (12.0) 2/3	①良好 ②にぶい黄褐色 ③白色 ④白色粒 ⑤耳部底面	外 内面	脚部下半側方向のヘラナフ → 縦方向のヘラケズリ、下端は 底面へのシナフ。底面ヘラナフ。 脚部下半側方向 → 橫方向のシナフ。底面ヘラナフ。			
番号	器種	出土位置	法尺 (cm, g)	①法尺 (cm, g)	②材質	③焼成	④焼成	⑤焼成	成・形態技術の特徴
16	石器品 骨質	4 区	—	①長さ 2.5、幅 0.9、厚さ 0.85、重量 3.31	②白色 ③白色 ④—	⑤—	⑥—	⑦—	⑧—
17	鉄製品 不明	N-54	—	①長さ <1.6、幅 <2.8、厚さ 0.1、重量 1.89	②鉄質	③—	④—	⑤—	⑥—
18	瑪瑙石	N-44	—	①長さ 12.15、幅 0.37、厚さ 4.91、重量 511.52	②安山岩	③丸形	④—	⑤平真のみ	—
19	瑪瑙石	N-43	—	①長さ 12.95、幅 0.65、厚さ 5.73、重量 624.50	②安山岩	③丸形	④—	⑤平真のみ	—
20	瑪瑙石	N-42	—	①長さ 12.12、幅 0.50、厚さ 4.46、重量 683.82	②安山岩	③丸形	④—	⑤平真のみ	—
21	瑪瑙石	N-35	—	①長さ 13.45、幅 0.20、厚さ 5.37、重量 651.43	②安山岩	③丸形	④—	⑤平真のみ	—
22	瑪瑙石	N-40	—	①長さ 13.80、幅 7.28、厚さ 5.78、重量 782.85	②安山岩	③丸形	④—	⑤平真のみ	—
23	瑪瑙石	N-33	—	①長さ 13.30、幅 7.45、厚さ 4.99、重量 738.02	②安山岩	③丸形	④—	⑤平真のみ	—
24	瑪瑙石	N-41	—	①長さ 14.23、幅 7.10、厚さ 6.27、重量 931.64	②安山岩	③丸形	④—	⑤平真のみ	—
25	瑪瑙石	N-45	—	①長さ 14.15、幅 8.45、厚さ 5.59、重量 793.51	②安山岩	③丸形	④—	⑤平真のみ	—
26	瑪瑙石	N-39	—	①長さ 14.38、幅 5.41、厚さ 5.04、重量 606.71	②安山岩	③丸形	④—	⑤平真のみ	—
27	瑪瑙石	N-60	—	①長さ 14.85、幅 7.0、厚さ 5.46、重量 449.96	②安山岩	③丸形	④—	⑤平真のみ	—
28	瑪瑙石	N-45	—	①長さ 15.15、幅 7.75、厚さ 4.95、重量 902.55	②安山岩	③丸形	④—	⑤平真のみ	—
29	瑪瑙石	N-51	—	①長さ 15.15、幅 6.61、厚さ 6.15、重量 765.02	②安山岩	③丸形	④—	⑤平真のみ	—
30	瑪瑙石	N-37	—	①長さ 16.85、幅 6.51、厚さ 6.85、重量 1,019.4	②砂岩	③丸形	④—	⑤平真のみ	—
31	瑪瑙石	N-36	—	①長さ 15.58、幅 8.37、厚さ 7.39、重量 1,288.89	②安山岩	③丸形	④—	⑤平真のみ	—

第8表 II-9a号住居跡出土遺物観察表(2)

(4) H-9b 号住居址(第18~20図、第9・10表、PL. 4・19・20)

位置 E-1, F-1グリッド。重複 H-2・2a号住居址、M-1号構と重複する。新旧関係は古い方からH-9a号住居址<本遺構<H-2号住居址<M-1号構となる。平面形態 北側が調査区外となり全容は不明である。規模 南北約 2.75 m以上、深さ 0.46 m。主軸方位 N-111° - W。覆土 自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。カマド 西壁に位置する。全長 0.96 m以上。焚口部の鳥居状石組みが残存する。焚口幅は 28 cmを測る。壁断面に明黄褐色粘土と黒褐色土の混土がみられ、構築土に使用されたものと推定される。柱穴 未検出。貯蔵穴 未検出。ピット 2基を検出した。P-1は径 52 × 42 cm、深さ 20 cmを測り、中層から半分

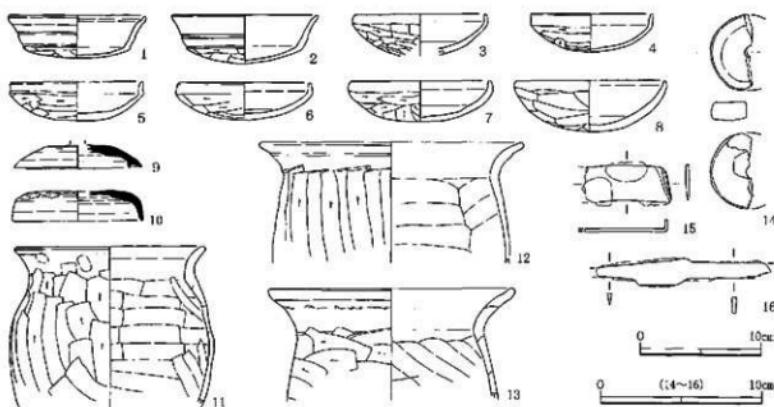
に割れた土製紡錘車（14）が出土した。 床面の状態 全体的に締まっている。貼糞で黒褐色土を主とする。 豊溝 東・南壁下にめぐり、南東隅は途切れる。幅8～14cm、深さ4～6cm。 遺物 士師器壺・壺・壺、須恵器壺・壺・壺、土製紡錘車、鉄製品、薦絆石などが少量出土した。薦絆石は床面直上での州土である。なお、重複するH-2号生垣址出土の遺物で古墳時代に比定されるもの（3・4・6・10・11）については、本住居址に伴う遺物として扱った。 時期 7世紀第3四半期と推定される。



第18図 H-9b号住居址 (1)

遺物名	品番	種類	寸法	特徴	組入物
H-9b	1	陶器底土器	7.000/3	薄い 幅15cm	A-4を参考
	2	陶器底土器	7.000/2	薄い 幅15cm	A-4を上記
	3	陶器底土器	7.000/2	ややあり 幅15cm	白色地 A-3Pを少しあげた。
	4	陶器底土器	7.000/1	ややあり 幅15cm	白色地 A-3Pを少し下げる。
	5	陶器底土器	7.000/1	ややあり 幅15cm	白色地 A-3Pを少し下げる。
	6	陶器底土器	7.000/2	ややあり 幅15cm	白色地 A-3Pを少し下げる。
	7	陶器底土器	7.000/1	ややあり 幅15cm	白色地 A-3Pを少し下げる。
	8	陶器底土器	7.000/1	ややあり 幅15cm	白色地 A-3Pを少し下げる。
	9	陶器底土器	7.000/1	ややあり 幅15cm	白色地 A-3Pを少し下げる。
	10	陶器底土器	7.000/1	ややあり 幅15cm	白色地 A-3Pを少し下げる。
	11	陶器底土器	7.000/1	薄い 幅15cm	白色地 A-3Pを少し下げる。
	12	陶器底土器	7.000/1	あり 幅15cm	白色地 A-3Pを少し下げる。
	13	陶器底土器	7.000/1	あり 幅15cm	白色地 A-3Pを少し下げる。
	14	陶器底土器	7.000/1	あり 幅15cm	白色地 A-3Pを少し下げる。
	15	陶器底土器	7.000/2	あり 幅15cm	白色地 A-3Pを少し下げる。
	16	陶器底土器	7.000/1	あり 幅15cm	白色地 A-3Pを少し下げる。
	17	陶器底土器	7.000/1	あり 幅15cm	白色地 A-3Pを少し下げる。
	18	陶器底土器	7.000/2	あり 幅15cm	白色地 A-3Pを少し下げる。
	19	陶器底土器	7.000/1	あり 幅15cm	白色地 A-3Pを少し下げる。
	20	陶器底土器	7.000/1	あり 幅15cm	白色地 A-3Pを少し下げる。
	21	陶器底土器	7.000/1	ややあり 幅15cm	白色地 A-3Pを少し下げる。

第19図 H-9b号住居址(2)



第20図 H-9b号住居址出土遺物

番号	部種	出土位置	数量(cm)	①焼成 ②色調 ③断面 ④残存	成・整形技術の特徴
1	土器器 片	H-27	口径(11.3) 底径(一) 高さ 3.5	①良好 ②明褐色 ③白色粒、白灰 ④1/4	外側 口縁部ヨコナデ。体部へ底部ヘラケズリ。 内面 口縁部へ体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。
2	土器器 片	H-26, 1区	口径 12.2 底径 4.0	①良好 ②褐色 ③角閃石、白灰 ④2/3	外側 口縁部ヨコナデ。体部へ底部ヘラケズリ。 内面 口縁部へ体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。 内面ともに堅密。
3	土器器 片	H-2住 15	口径(11.0) 底径(3.4)	①良好 ②褐色 ③不透、白色粒 ④口縫部へ体部1/4	外側 口縫部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内面 口縫部へ体部ヨコナデ。
4	土器器 片	H-2住 15	口径 10.1 底径 3.1	①良好 ②褐色 ③不透、白色粒 ④1/2	外側 口縫部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内面 口縫部へ体部ヨコナデ。底部ヘナナデ。

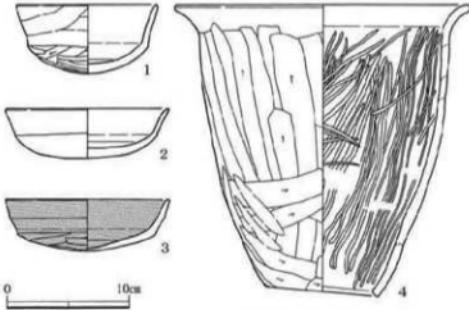
第9表 H-9b号住居址出土遺物観察表(1)

番号	器種	出土位置	法量 (cm)	①施成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
5	土師器 壺	No. 24	口径 (11.0) 底径 — 器高 3.2	①良好 ②明褐色 ③白色粒 ④1/3	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。
6	土師器 壺	H-2 住	口径 (11.0) 底径 — 器高 3.0	①良好 ②褐色 ③角閃石、白色粒 ④1/3	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。 外面摩耗。
7	土師器 壺	No. 62	口径 11.7 底径 — 器高 3.3	①良好 ②褐色 ③白色粒、黒色粒 ④2/3	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。
8	土師器 壺	I 区	口径 (12.4) 底径 — 器高 4.2	①良好 ②明褐色 ③角閃石、白色粒 ④2/3	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。
9	須恵器 蓋	No. 30	口径 (10.6) 底径 — 器高 (1.9)	①還元焰 ②灰褐色 ③白色粒 ④1/4、柄部欠損	外面 ロクロナデ。天井部倒転ヘラケズリ。 内面 ロクロナデ。
10	須恵器 蓋	H-2 住 No. 3 区	口径 (10.8) 底径 — 器高 2.4	①還元焰 ②灰褐色 ③白色粒 ④1/3	外面 ロクロナデ。天井部手持ちヘラケズリ。 内面 ロクロナデ。
11	土師器 甕	H-2 住 No. 19 + 4 区	口径 15.8 底径 — 器高 <13.3> 中位 2/3	①良好 ②褐色 ③片岩、雲母、 白色粒、鵝卵石 ④口縁部～胴部 内面	外面 口縁部ヨコナデ。掛焼圧痕。肩部傾方向のヘラケズリ。 内面 口縁部ヨコナデ。胴部傾斜方向のヘラナデ。
12	土師器 甕	No. 22	口径 (22.0) 底径 — 器高 <10.0> 上位 1/6	①良好 ②に深い褐色 ③雲母、 白色粒、小礫 ④口縁部～胴部上位	外面 口縁部ヨコナデ。深い段を有する。胴部上位に縱方向のヘラケズリ。 内面 口縁部ヨコナデ。胴部上位に横方向のヘラナデ。
13	土師器 甕	No. 53	口径 20.5 底径 — 器高 <9.3> 上位	①良好 ②に深い黄褐色 ③雲母、 白色粒、鵝卵石 ④口縁部～胴部	外面 口縁部ヨコナデ。肩部上位に横方向のヘラケズリ。 内面 口縁部ヨコナデ。胴部上位に横方向のヘラナデ。
番号	器種	出土位置	法量 (cm, g)	②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考	
14	土製品 劫鉗車	P-1 中層	①直径 (4.8 × 4.0)、孔径 (0.75 × 0.75)、厚さ 1.1、重量 <16.90> ②焼成：良好、色調：淡黃褐色、胎土：白色 ③1/2 ④全面に穿孔ナデ。上面は非常に平滑。		
15	鉄製品 錠	No. 33	①長さ 6.77、幅 2.7、厚さ 0.2、重量 15.38 ②鉄製 ③刃部欠損 ④柄装着部は折り曲がる。		
16	鉄製品 刀子	No. 34	①全長 11.1、茎幅 8.5、茎厚 0.25、刃身幅 0.8、刃身厚 0.25、重量 16.58 ②鉄製 ③両端部欠損 ④—		
17	鶴鱈石	No. 48	①長さ 12.10、幅 6.16、厚さ 3.66、重量 369.03 ②安山岩 ③完形 ④— ⑤写真のみ		
18	鶴鱈石	No. 47	①長さ 13.35、幅 5.97、厚さ 5.24、重量 627.83 ②安山岩 ③完形 ④— ⑤写真のみ		
19	鶴鱈石	No. 49	①長さ 16.15、幅 8.93、厚さ 4.79、重量 650.00 ②安山岩 ③完形 ④— ⑤写真のみ		

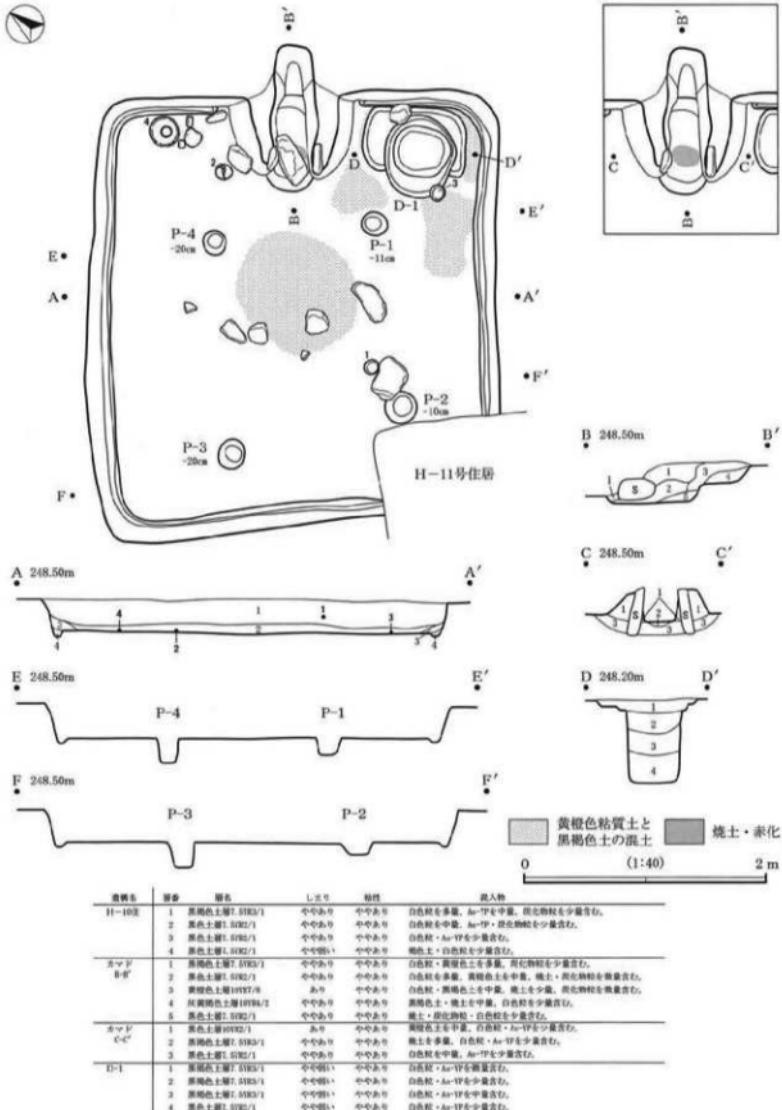
第 10 表 H-9b 号住居址出土遺物観察表 (2)

④H-10 号住居址 (第 21・22 図、第 11 表、PL. 4・5・20)

位置 E-2～3、F-2～3 グリッド。重複 H-11 号住居址と重複し、本遺構が古い。平面形態方形。規模 長軸 3.50 m × 短軸 3.19 m × 深さ 0.30 m。主軸方位 N-54° - E。覆土自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。カマド北東壁の中央に位置する。全長 1.10 m。焚口部の石組みと袖が残存する。焚口幅 28 cm を測る。袖石には両側面の平らな厚さ 6～9 cm の安山岩を使用している。燃焼部からは天井石が落ちた状態で出土した。袖構築土は黒色土を主体とした黄褐色粘質土との混土が用いられる。火床面は焼土化が顕著である。柱穴 主柱穴を 4 基検出した。P-1 は径 21 × 19 cm、深さ 11 cm、P-2 は径 27 × 26 cm、深さ 10 cm、P-3 は径 25 × 21 cm、



第 21 図 H-10 号住居址出土遺物



第22図 H-10号住居址

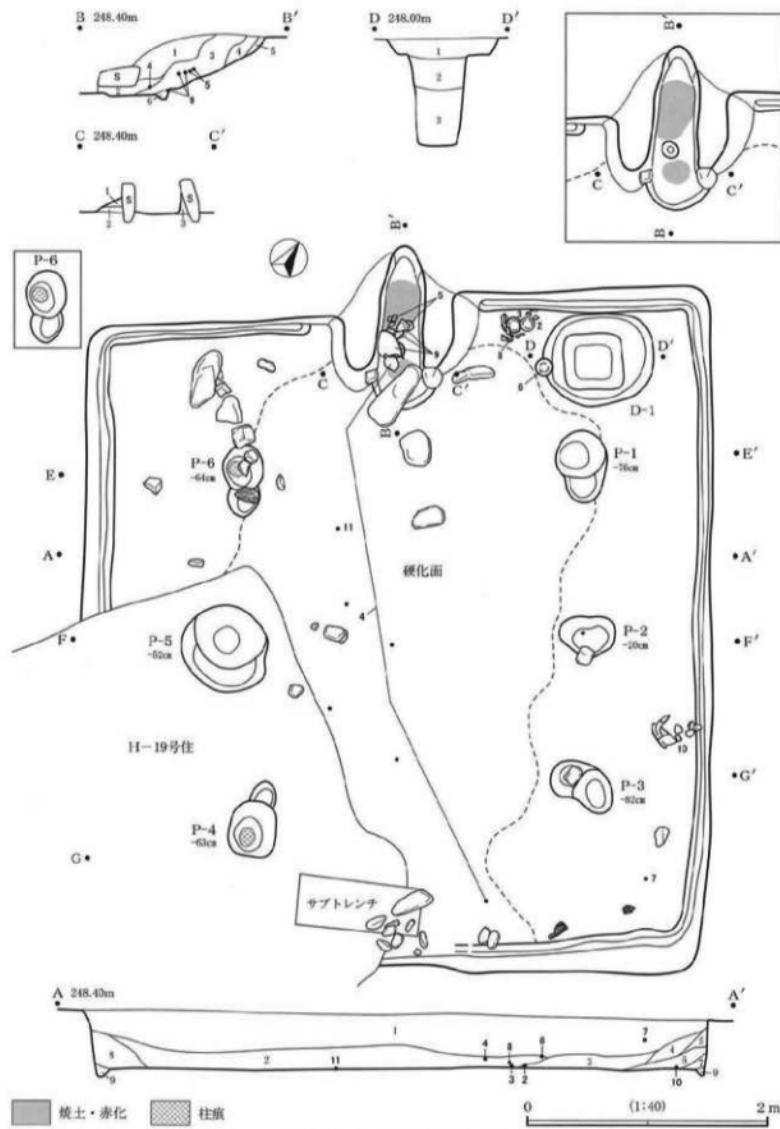
深さ 20 cm、P-4は径 20 × 19 cm、深さ 20 cmを測る。貯蔵穴 カマドの右側に位置する (D-1)。平面形は橢円形を呈する。径 58 cm × 49 cm、深さ 69 cmを測る。貯蔵穴の外側には長径 85 × 短径 53 cm、深さ 6 cmの浅い長方形の窪みが検出され、蓋の痕跡と推定される。床面の状態 全体的に縮まっている。黒褐色土を主体とした貼床で、竪穴中央部と貯蔵穴周辺には黄橙色粘質土との混土が認められる。壁溝 全周する。幅 6 ~ 9 cm、深さ 4 ~ 5 cm。遺物 土師器壺・甕・瓶、須恵器甕などが少量出土した。床面直上の遺物は 2・3・4 があり、ほぼ完形である。2 の壺・4 の瓶はカマドの左脇から逆位の状態で、3 の壺は貯蔵穴の南脇から正位の状態で出土した。竪穴中央にまとまる大形礫は覆土中層の出土で、1 の完形の壺は疊と同レベルから正位の状態で出土した。時期 6 世紀後半と推定される。

番号	器種	出土位置	法量 (cm)	成・整形技法の特徴			
				①施成	②色調	③粘土	④残存
1	土師器 壺	No.1	口径 11.7 底径 一 器高 5.7	①普通 ②にい黄褐色 白色粒 ④ほぼ完形	外面 口縁部ヨコナギ。 内部 口縁部ヨコナギ。	底面へラケズリ。 底部へラナダ。	
2	土師器 壺	No.4	口径 13.5 底径 一 器高 4.1	①普通 ②にい黄褐色 白色粒、褐色粒 ④口縁部一部欠	外面 口縁部ヨコナギ。 内部 口縁部一部ヨコナギ。 底部へラナダ。	底面へラケズリ。 底部内面の表面は小円形の剥離多数あり。	
3	土師器 壺	No.3	口径 13.6 底径 一 器高 4.3	①普通 ②黒褐色 白色粒、黒 ④ほぼ完形	外面 口縁部ヨコナギ。 内部 口縁部一部ヨコナギ。	底面へラケズリ。 底部へラナダ。	内外面に黑色処理。外面底部へ底部に小円形の剥離多数あり。
4	土師器 瓶	No.5	口径 24.6 底径 9.2 器高 23.9	①真珠 ②にい黄褐色 白色粒、褐色粒、小窓 ④ほぼ完形	外面 口縁部ヨコナギ。 内部 口縁部ヨコナギ。	胴部綫方向へラケズリ→下横・斜方 向へラケズリ。一部へラナダ。	口縁部ヨコナギ。 胴部横方向へラナダ→縦・斜方向のミ ガキ。下端部へラケズリ。

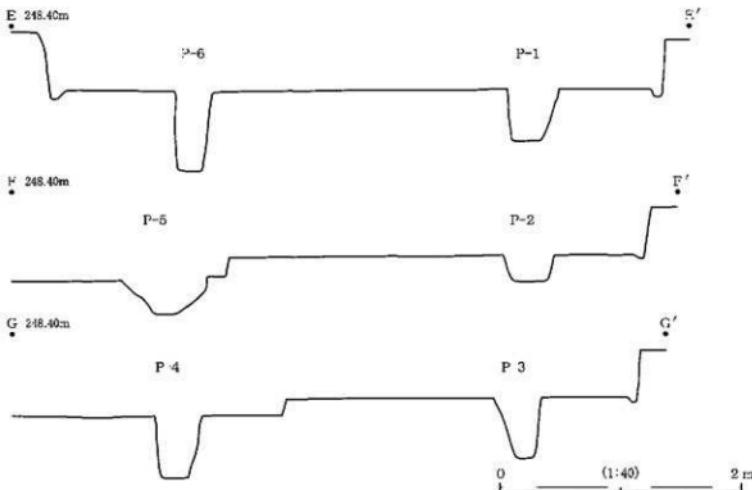
第 11 表 H-10 号住居址出土遺物観察表

⑤H-13 号住居址 (第 23 ~ 26 図、第 12・13 表、PL. 5・6・20・21)

位置 G-2~3、H-2~3グリッド。重複 H-4・14・19 号住居址と重複し、本遺構が最も古い。平面形態 北西 - 南東方向にやや長い縦長方形。規模 長軸 5.42 m × 短軸 5.08 m × 深さ 0.47 m。主軸方位 N-34° - W。覆土 自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。下層から床面付近には炭化材が散在している。カマド 北西壁の中央に位置する。全長 1.35 m。焚口部の石組みと袖が残存する。焚口幅は 37 cm を測る。袖石には両側面の平らな厚さ 10 cm の安山岩を使用している。焚口部には天井石が落ちた状態で出土した。袖構築土は黒褐色土を主体とした黄褐色粘質土との混土が用いられる。火床面および煙道底面は焼土化が顕著である。燃焼部には支脚の痕跡とみられる小ピット (径 15 × 12 cm、深さ 5 cm) が検出される。柱穴 主柱穴を 6 基検出した。P-1 は径 59 × 42 cm、深さ 76 cm、P-2 は径 46 × 33 cm、深さ 20 cm、P-3 は径 57 × 40 cm、深さ 82 cm、P-4 は径 64 × 39 cm、深さ 63 cm、P-5 は 72 × 71 cm、深さ 52 cm、P-6 は 59 × 33 cm、深さ 64 cm を測る。P-4・6 は底に柱のアタリが確認された。貯蔵穴 カマドの右側に位置する (D-1)。平面形は床面では橢円形を呈し、中層以下は方形となる。径 93 × 76 cm、深さ 88 cm を測る。床面の状態 全体的に縮まっている。特にカマド手前から竪穴中央、カマド対面の壁下まで強く硬化している。貼床で黒褐色土を主体とする。壁溝 全周する。幅 6 ~ 14 cm、深さ 2 ~ 4 cm。遺物 土師器壺・甕・須恵器甕、石製紡錘車、薬臼石などが少量出土した。床面直上の遺物は 2・3・10 がある。2・3 の壺はカマド左脇から出土し、2 は逆位、3 は正位の状態であった。10 の甕は南東壁際から横位で出土した。11 の石製紡錘車は床面にめり込んだ状態であった。13 ~ 19 は時期が異なるもので、紛れ込みである。15 の灰釉陶器は大原 2 号窯式期に比定される。時期 6 世紀後半と推定される。備考 焼失住居。

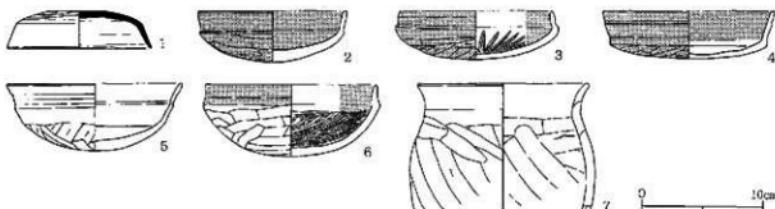


第23図 H-13号住居址(1)

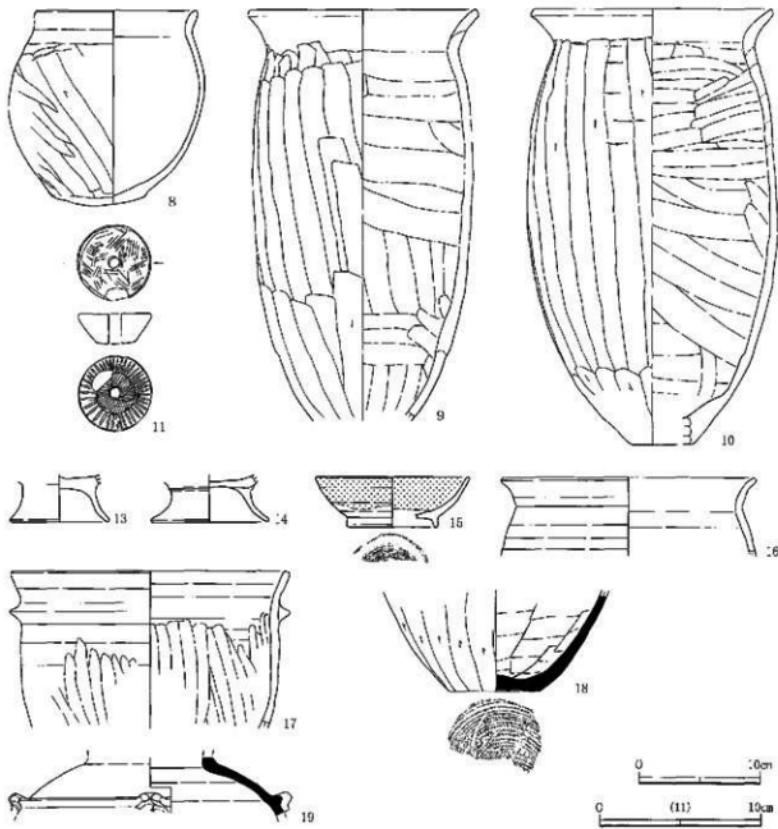


層構名	厚さ	層名	しきり	特徴	測定点
H-13a	1	砂利土層	やや多く	褐色帶・白色帶・火成岩・As-Feを少含む。	
	2	砂利土層	多く	白色帶・火成岩・As-Feを少含む。	
	3	泥炭土層	多く	白色帶・火成岩・As-Feを少含む。	
	4	砂利土層	やや多く	白色帶・火成岩・As-Feを少含む。	
b	5	砂利土層	やや多く	白色帶・火成岩・As-Feを少含む。	
	6	砂利土層	やや多く	白色帶・火成岩・As-Feを少含む。	
	7	泥炭土層	やや多く	白色帶・火成岩・As-Feを少含む。	
	8	泥炭土層	多く	白色帶・火成岩・As-Feを少含む。	
	9	泥炭土層	多く	白色帶・火成岩・As-Feを少含む。	
カマド ホーロー	1	黒鉛土層	やや多く	黑色帶・火成岩・As-Feを少含む。	
	2	泥炭土層	やや多く	白色帶・火成岩・As-Feを少含む。	
	3	泥炭土層	やや多く	白色帶・火成岩・As-Feを少含む。	
	4	泥炭土層	やや多く	白色帶・火成岩・As-Feを少含む。	
	5	泥炭土層	やや多く	白色帶・火成岩・As-Feを少含む。	
	6	泥炭土層	やや多く	白色帶・火成岩・As-Feを少含む。	
カマド C-C	1	泥炭土層	多く	黑色帶・火成岩・As-Feを少含む。	
	2	泥炭土層	多く	白色帶・火成岩・As-Feを少含む。	
	3	泥炭土層	多く	白色帶・火成岩・As-Feを少含む。	
D-1	1	泥炭土層	やや多く	白色帶・As-Feを少含む。	
	2	泥炭土層	やや多く	白色帶・As-Feを少含む。	
	3	泥炭土層	やや多く	白色帶・As-Feを少含む。	

第24図 H-13 丹住居址(2)



第25図 H-13 丹住居址出土遺物(1)



第26図 H-13号住居址出土遺物(2)

番号	器種	出土位置	径長(cm)	①構成 ②色調 ③胎土 ④埋存	成・並形技法の特徴
1	乳頭器 壺	13区	口径(12.0) 底径(3.1)	①深丸輪 ②灰青 ③白色胎 底径 1/4	外面 ロクロナギ。大寸削に半持ちハシケズリ。 内面 ロクロナギ。ロ線部に横段比線が1条めぐる。
2	上部器 片	No.5	口径(12.4) 底径(4.3)	①浅波形 ②褐色 ③白色胎、 黑色胎 ④ほぼ光形	外面 ロ線部ヨコナギ。体部へ底面へラケメリ。 内面 口縁部へ底面ヨコナギ。 外外面に馬(ぬ)糞跡。
3	上部器 片	No.6	口径(12.6) 底径(4.0)	①良好 ②褐色 ③白色胎、褐色 胎 ④3/4	外面 口縁部ヨコナギ。体部上位ナギ。体部中位へ底面へシケズリ。 内面 口縁部ヨコナギ。体部へ底部に放射状のミガキ。 外外面に馬(ぬ)糞跡。
4	上部器 片	No.9	口径(14.2) 底径(3.9)	①良好 ②こぶい質褐色 ③白色 胎、褐色胎 ④1/2	外面 口縁部ヨコナギ。体部へ底面へラケメリ。有段口縁。 内面 口縁部ヨコナギ。体部へ底面へナギ。 外外面より内面山腹部に黑色糞跡。

第12表 H-13号住居址出土遺物観察表(1)

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②赤褐色 ③白色、褐色 ④灰化				成・難形技法の特徴			
				外表面	内表面	外表面	内表面	外表面	内表面	外表面	内表面
5	土師器 环	No. 28・29	口径 14.6 底径 7.9 高さ 5.5	①普通 ②赤褐色 ③白色、褐色 ④2/3	口部部ロコナゲ。体部上半～底部ヘラケズリ。 有段ロコ。	口部部ヘーブル上ヨコナゲ。体部下半～底部ヘシナゲ。	口部部ロコナゲ。体部～底部に横・無方向のミガキ。	口部部ロコナゲ。底部に横・無方向のヘラケズリ。	口部部ロコナゲ。底部ヘシナゲ。	口部部ロコナゲ。底部ヘシナゲ。	口部部ロコナゲ。底部ヘシナゲ。
6	土師器 环	No. 4	口径 14.6 底径 7.9 高さ 5.9	①良好 ②にぶい赤褐色 ③白色 褐色、褐色 ④ほぼ完形	外表面	内表面	外表面	内表面	外表面	内表面	外表面
7	土師器 小形瓶	No. 8	口径 (14.2) 底径 (10.5) 高さ 15.1	①普通 ②にぶい赤褐色 ③白色 褐色、褐色 ④口部部～胴部上半 1/5	口部部ロコナゲ。底部～底部ヘラケズリ。 内面および外面口部部上半墨色化斑。	口部部ロコナゲ。底部に横・無方向のミガキ。	口部部ロコナゲ。底部ヘシナゲ。	口部部ロコナゲ。底部に横・無方向のヘラケズリ。	口部部ロコナゲ。底部ヘシナゲ。	口部部ロコナゲ。底部ヘシナゲ。	口部部ロコナゲ。底部ヘシナゲ。
8	土師器 小形瓶	No. 7・23・30	口径 (13.6) 底径 7.9 高さ 15.1	①普通 ②赤褐色 ③白色、小縫 ④口部部～胴部 2/3 有段	外表面	内表面	外表面	内表面	外表面	内表面	外表面
9	土師器 瓶	No. 24・26・31	口径 (19.1) 底径 (5.1) 高さ (32.9)	①普通 ②にぶい赤褐色 ③外端、 白色、小縫 ④口部部～胴部 1/2	口部部ロコナゲ。肩部に斜方向のヘラケズリ。底部ヘラケズリ。 内面	口部部ロコナゲ。底部ヘシナゲ。	外表面	内面	口部部ロコナゲ。頭部に横・無方向のヘラケズリ。	口部部ロコナゲ。頭部に横・無方向のヘラケズリ。	口部部ロコナゲ。頭部に横・無方向のヘラケズリ。
10	土師器 瓶	No. 2・4区	口径 29.2 底径 (5.1) 高さ 35.9	①良好 ②にぶい赤褐色 ③白色、 褐色、小縫 ④胴部～底部 1/2 有段	外表面	内面	外表面	内面	外表面	内面	外表面
番号	器種	出土位置	法量(cm)	①法量(cm・g) ②材質 ③焼成 ④成・難形技法の特徴 ⑤被者							
				①法量(cm・g)	②材質	③焼成	④成・難形技法の特徴	⑤被者	⑥	⑦	⑧
11	石器皿 防護壁	No. 17	上塗面 4.6 × 4.65, 下塗面 2.6 × 2.45, 厚さ 1.9, 重量 58.85	漆器	漆器	漆器	漆器	漆器	漆器	漆器	漆器
12	虎頭石	36区	長さ 38.8, 幅 5.42, 厚さ 2.47, 重量 87.90	①虎頭 ②虎頭	③虎頭	④虎頭のみ	成・難形技法の特徴	成・難形技法の特徴	成・難形技法の特徴	成・難形技法の特徴	成・難形技法の特徴
番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②赤褐色 ③白土 ④灰化							
				⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
13	須恵器 盆	H-13 住E 14	口径 16.0 底径 (5.1) 高さ (3.8)	①焼成化粧 ②にぶい黄褐色 ③白 色、褐色 ④高台部 3/4	外表面	内面	外表面	内面	外表面	内面	外表面
14	須恵器 鏡	H-13 住E	口径 19.6 底径 9.6 高さ 3.9	①焼成化粧 ②にぶい黄褐色 ③白 色、褐色 ④高台部 1/3	高台部ロコナゲ。底面ナジ痕。	高台部ロコナゲ。底面ナジ痕。	高台部ロコナゲ。	高台部ロコナゲ。	高台部ロコナゲ。	高台部ロコナゲ。	高台部ロコナゲ。
15	灰陶器 器	H-13 住E	口径 (22.8) 底径 (7.3) 高さ 4.1	①還元焰 ②軸子：灰白色、輪裏： 灰オリ・ゾ ③白白色 ④1/4	外表面	内面	外表面	内面	外表面	内面	外表面
16	ロクロ等	H-13 住E	口径 (21.2) 底径 (6.5) 高さ 6.5	①焼成化粧 ②根脚部 ③筒丸柱 ④口部部～胴部上半 1/4	ロクロナゲ。底面に横方向のヘリナゲ、鉢脚付。	ロクロナゲ。底面に横方向のヘリナゲ、鉢脚付。	ロクロナゲ。	ロクロナゲ。	ロクロナゲ。	ロクロナゲ。	ロクロナゲ。
17	須恵器 利莖	H-13 住E	口径 (23.2) 底径 一 高さ (12.9)	①酸化焰 ②にぶい黄褐色 ③白 色、小縫 ④口部部～胴部上半 1/4	外表面	内面	外表面	内面	外表面	内面	外表面
18	須恵器 盤	H-13 住E 11	口径 17.6 底径 7.6 高さ (8.3)	①還元焰 ②灰白色 ③石英、白色 ④胴部下位～底部 2/3	軸子：位に斜方向のヘリケズリ、底面四脚余切付。 軸子下位に横方向のヘリナゲ。底面ヘリナゲ。						
19	須恵器 盤	H-13 住E 82 ダリッ ド 3 西	口径 17.6 底径 7.6 高さ (8.3)	①還元焰 ②灰白色 ③石英、白色 ④軸子下位～底部 2/3	軸子：位に斜方向のヘリケズリ、底面四脚余切付。 軸子下位に横方向のヘリナゲ。底面ヘリナゲ。						
20	須恵器 盤	H-13 住E 82 ダリッ ド 3 西	口径 23.2 底径 7.6 高さ (8.3)	①還元焰 ②灰白色 ③白白色 ④軸子破片	外表面	内面	外表面	内面	外表面	内面	外表面

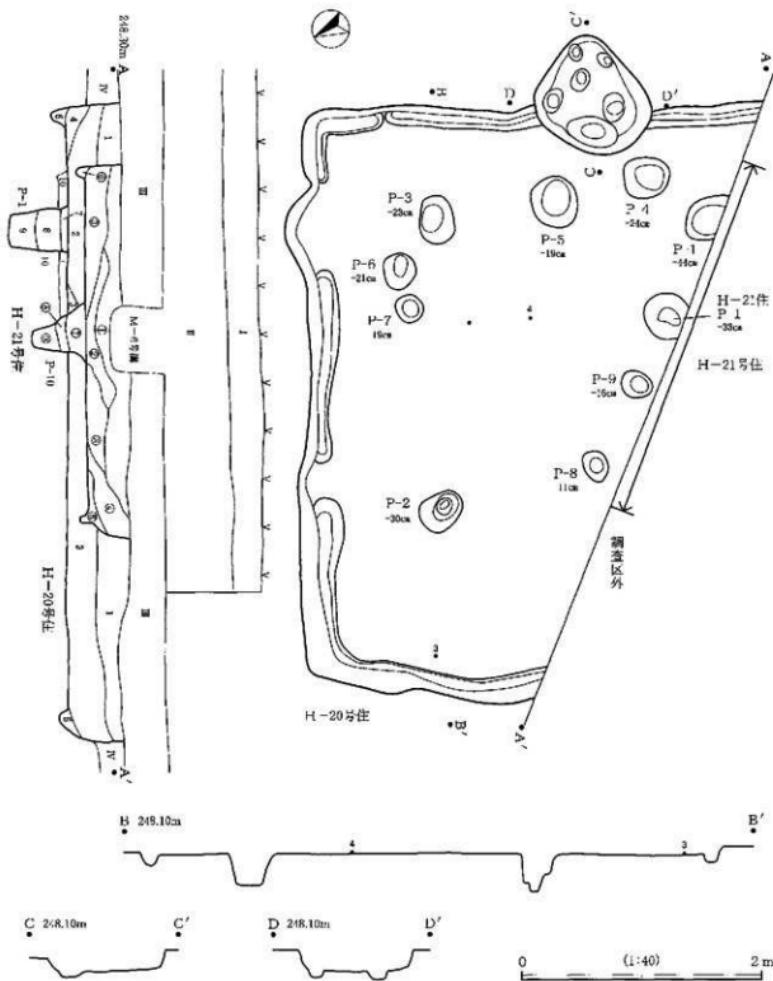
第13表 H-13号住居址出土遺物解説表(2)

⑥H-20号住居址(第27~29図、第14表、PL. 6・7・21)

位置 J-1~2、K-1~2グリッド。重複 H-18・21号住居址、M-6号溝と重複する。新旧関係は古い方から本遺構<II-18・21号住居址<M-6号溝となる。平面形態 南西側が調査区外となり全容は不明である。規模 長軸 4.72 m × 短軸 3.55 m 以上 × 深さ 0.26 m。主軸方位 N-119° - E。覆土 自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。カマド 東壁に敷設される。全長 0.95 m。掘り方での検出となり、小ビットが数ヶ所検出される。このうちセクションD-D'にかかるビットは釉石を設置した痕跡の可能性がある。柱穴 4本中柱穴と想定され、3基を検出した。P-1は径 34 × 30 cm 以上、深さ 44 cm、P-2は径 38 × 30 cm、深さ 30 cm、P-3は径 40 × 28 cm、深さ 23 cm を測る。貯蔵穴 未検出。ビット 6基を検出した(P-4~9)。P-4は径 39 × 34 cm、深さ 24 cm、P-5は径 43 × 39 cm、深さ 19 cm、P-6は径 30 × 26 cm、深さ 21 cm、P-7は径 23 × 22 cm、深さ 19 cm、P-8は径 26 × 20 cm、深さ 11 cm、P-9は径 27 × 22 cm、深さ 16 cm を測る。床面の状態 全体的に締まっている。カマド周辺に褐色土を主体とした貼床が確認され

た。壁溝 全周すると推測され、北・東壁下では部分的に途切れる。幅7~22cm、深さ3~9cm。

遺物 上師器壺、須恵器壺、動物型土製品、石製模造品、玉などが出た。床面直上の遺物として3・4がある。3の動物形土製品は西壁際で、横位の状態で出土した。頭部から首部分のみ

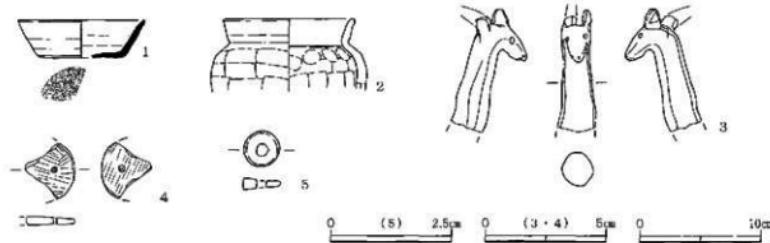


第27図 H-20・21号住居址 (1)

遺物名	形名	番号	しまり	性状	成人物
H-20	1 砂漠色土器	STB-2/3	30cm	無い	アヒル多量む。
2	褐色砂漠色土器	STB-2/3	無い	無	無。
3	黒褐色土器	STB-2/1	やや多く	褐色物質、白口部。白口部を少量含む。	
4	黒褐色土器	STB-2/1	多く	褐色物質、白口部。白口部を少量含む。	
5	黒褐色土器	STB-2/1	やや多く	褐色物質、白口部。白口部を少量含む。	
6	黒褐色土器	STB-2/1	やや多く	褐色物質、白口部。白口部を少量含む。	
7	黒褐色土器	STB-2/1	やや多く	褐色物質、白口部。白口部を少量含む。	
8	黒褐色土器	STB-2/1	多く	褐色物質、白口部。白口部を少量含む。	
9	黒褐色土器	STB-2/1	やや多く	褐色物質、白口部。白口部を少量含む。	
10	黒褐色土器	STB-2/1	無い	無	アヒル多量む。白口部を少量含む。成人物。
H-21	1	三段階土器	STB-1/1	やや多く	褐色物質を含む。白色部。アヒル多量含む。
2	黒褐色土器	STB-1/1	やや多く	褐色物質を含む。褐色上に灰白色の斑点。白色部を少量含む。	
3	黒褐色土器	STB-1/1	多く	褐色物質を含む。褐色上に灰白色の斑点。白色部を少量含む。	
4	黒褐色土器	STB-1/1	やや多く	褐色物質を含む。褐色上に灰白色の斑点。白色部を少量含む。	
5	黒褐色土器	STB-1/1	やや多く	褐色物質を含む。褐色上に灰白色の斑点。白色部を少量含む。	
6	黒褐色土器	STB-1/1	多く	褐色物質を含む。褐色上に灰白色の斑点。白色部を少量含む。	
7	黒褐色土器	STB-1/1	やや多く	褐色物質を含む。褐色上に灰白色の斑点。白色部を少量含む。	
8	黒褐色土器	STB-1/1	やや多く	褐色物質を含む。褐色上に灰白色の斑点。白色部を少量含む。	
9	黒褐色土器	STB-1/1	やや多く	褐色物質を含む。褐色上に灰白色の斑点。白色部を少量含む。	
10	黒褐色土器	STB-1/1	やや多く	褐色物質を含む。褐色上に灰白色の斑点。白色部を少量含む。	
11	黒褐色土器	STB-1/1	やや多く	褐色物質を含む。褐色上に灰白色の斑点。白色部を少量含む。	
12	黒褐色土器	STB-1/1	やや多く	褐色物質を含む。褐色上に灰白色の斑点。白色部を少量含む。	
13	黒褐色土器	STB-1/1	やや多く	褐色物質を含む。褐色上に灰白色の斑点。白色部を少量含む。	

第28図 H-20・21号住居址(2)

で、耳の後ろに角があることから雄鹿と判斷した。割れ口は水平で、何かから剥離したものと考えられる。4の石製模造品は堅穴中央部で出土した。有孔円板とみられ、破片1片のみであった。5の白玉はP-5の覆土中から、2の小形甕の破片はP-1の覆土中から出土した。1の須恵器壺は8世紀代に比定されるもので、紛れ込みである。時期 古墳時代後期(6世紀後半)と推測される。



第29図 H-20号住居址出土遺物

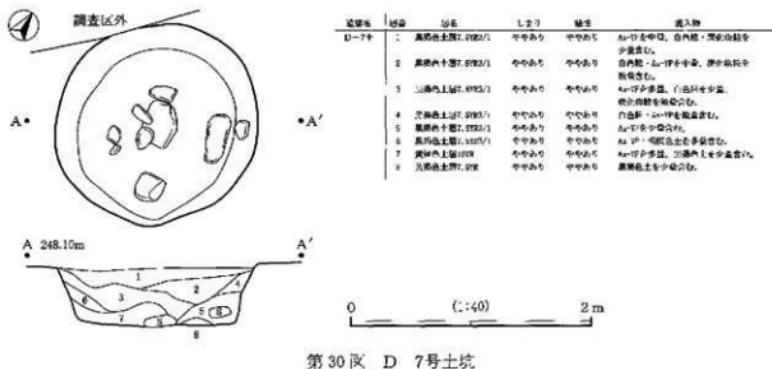
番号	器種	出土位置	計量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④保存	成・観形技法の特徴
1	須恵器壺	-柄	口径(0.6) ①褐色 ②灰色 ③白色粘土 ④保存	外側 ロクロナゲ。底面右側斜め切り。	
			底径(0.8) ②/1	内面 ロクロナゲ。	
		蓋部 3.1			
2	土師器 小形甕	F-1	口径(0.6) ①普通 ②褐色 ③白色粘土、黑色 ④保存	外側 ロクロニナゲ。腹部上に横方向のヘラナゲ。	
			底径 - ②ロクロニナゲ。腹部上に横方向のヘラナゲ、腹頭直傾。	内面 ロクロコナガ。腹部上に横方向のヘラナゲ、腹頭直傾。	
		蓋部 5.9			
3	動物形 模造品	No.2	①高さ(5.0)、長さ3.1、厚さ1.4、重さ1.21 ②施用: 良好、色調: に長い褐色、新土: 白色泥 ③頭部一部壊れ、右耳欠損、左耳の先端欠損 ④複数形、全体に丁寧なサザ。目と鼻は刺突により、口は切り込みにより作成される。首が長く作成される。	成形技術の特徴	
4	石製 模造品	No.1	①長さ(2.33)、幅さ(2.15)、厚さ(0.3)、重さ(0.2×0.2×0.2)、重量1.99 ②緑色岩質 ③破片 ④有孔円板。全体に丁寧な研磨。		
5	石製品	I-5	①幅0.7×0.7、厚さ0.2、孔径0.25×0.2、重さ1.19 ②黒岩 ③丸形 ④全面研磨		
	白玉				

第14表 H-20号住居址出土遺物観察表

(2) 上坑

① D-7号上坑 (第30図、PL. 14)

位置 D-1グリッド。重複 H-1・8号住居址と重複する。新旧関係は古い方から本遺構 < H-8 号住居址 < H-1号住居址となる。 **形態** 平面は円形、断面は逆台形状を呈する。 **規模** 長軸 1.69 m × 短軸 1.66 m × 深さ 0.47 m。 **覆土** 自然堆積と推測される。下層は黄褐色土、上層は黒褐色土を主体とする。 **遺物** 士器器の壺・甕、須恵器の壺・甕の破片が少量出土した。また、覆土下層から底面にかけて、大形の安白岩が上層から流れ込んだような状態で出土している。 **時期** 古墳時代と推定される。



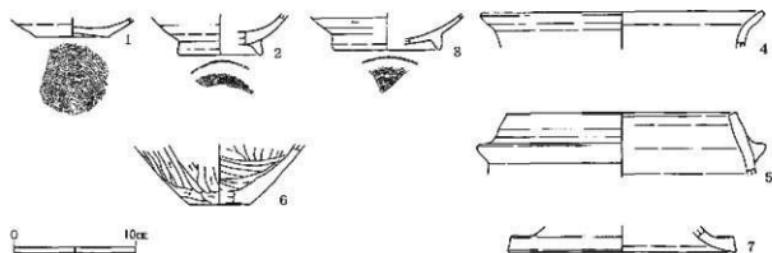
第30図 D-7号土坑

第3節 平安時代

(1) 塔穴住居址

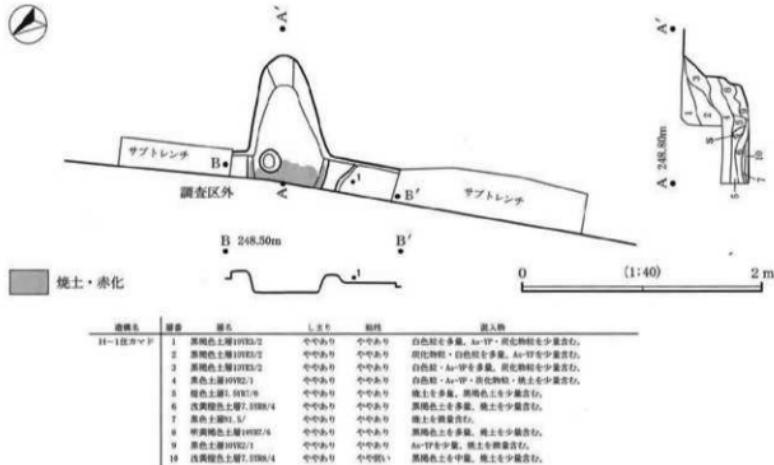
① H-1号住居址 (第31・32図、第15表、PL. 7・21)

位置 D-1、E-1グリッド。重複 D-7号七坑と重複し、本遺構が新しい。 **平面形態** カマド以外は調査区外となるため全容は不明である。 **規模** 深さ 0.44 m。 **主軸方位** N-127° - E。



第31図 H-1号住居址出土遺物

覆土 自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。カマド南東壁に位置する。袖が残存し、浅黄橙色粘質土と黒褐色土の混土で構築される。火床面および内壁は焼土化が顕著である。右袖内には須恵器壺・碗の底部破片が4点入れ込まれていた。煙道部先端に大振りの安山岩が2点落ち込んでいたことから、石組みの可能性が指摘される。底面北寄りに小ピット（径18×17cm、深さ3cm）が検出される。遺物 須恵器壺・碗・甕・瓶・羽釜、灰釉陶器碗などが少量出土した。5・6の羽釜の破片はカマド内からの出土である。時期 10世紀後半と推定される。



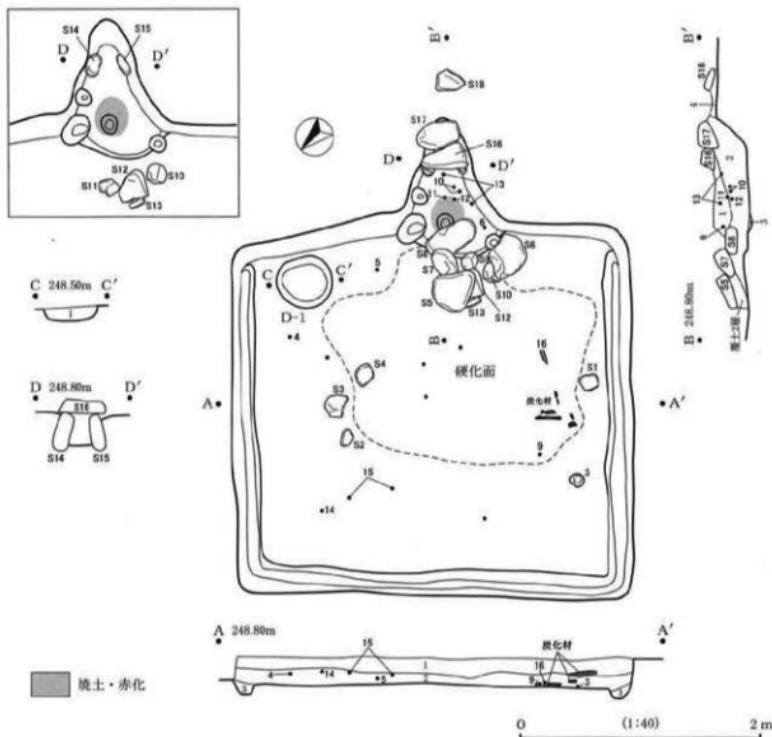
第32図 H-1号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③給土 ④残存				成・整形技法の特徴
				①酸化焰	②褐色	③石英・白色粒、黒色粒、赤褐色粒	④体部下位～底部1/3	
1	須恵器 壺	No.1	口径 底径 器高	(6.1) (6.1) <1.6	—	—	—	外表面 ロクロナダ。底面回転糸切り。
2	須恵器 瓶	2区	口径 底径 器高	(7.0) (7.0) <3.4	①酸化焰	②淡黄褐色	③石英、 黑色粒 ④体部下位～高台部1/8	外表面 ロクロナダ。底面回転糸切り。 内面 ロクロナダ。
3	灰釉陶器 瓶	2区	口径 底径 器高	— (8.8) <3.1	①還元焰	②灰白色	③白色粘土 ④体部下位～高台部1/8	外表面 ロクロナダ。底面回転ヘラケズリ。 内面 ロクロナダ。
4	ロクロ甕	2区	口径 底径 器高	(23.6) (18.8) <3.1	①普通	②にぶい椎色	③角閃石、 白色粒 ④口縁部1/8	外表面 ロクロノヨコナダ。 内面 ロクロノヨコナダ。
5	須恵器 羽釜	カマド	口径 底径 器高	(19.0) (19.0) <5.3	①酸化焰	②にぶい黄褐色	③石英、 黑色粒 ④口縁部1/8	外表面 ロクロナダ。鰐貼付。 内面 ロクロナダ。
6	須恵器 羽釜	カマド	口径 底径 器高	— (5.0) <5.0	①酸化焰	②にぶい黄褐色	③白色粒、 黑色粒、 褐色粒 ④脚部下位～底部1/4	外表面 ロクロナダの後、脚部下端に横方向のヘラケズリ→脚部下位に縱方向のヘラケズリ。 内面 ロクロナダの後、脚部下端に横・斜方向のヘラナダ→脚部下位に縱方向のヘラナダ。 底部ヘラナダ。
7	須恵器 甕	2区	口径 底径 器高	(18.0) (18.0) <2.2	①酸化焰	②褐色	③白色粒、 黑色粒 ④底部1/6	外表面 ロクロナダ。 内面 ロクロナダ。

第15表 H-1号住居址出土遺物観察表

②H-2号住居址（第33・34図、第16表、PL. 7・8・21）

位置 E-1、F-1～2グリッド。重複 H-9a・9b号住居址、M-2号溝と重複する。新旧関係は古い方からH-9a・9b号住居址<本遺構<M-2号溝となる。平面形態 方形。規模 長軸3.20m×短軸2.98m×深さ0.24m。主軸方位 N-133°-E。覆土 自然堆積と推測される。As-VP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。竪穴の西側では、覆土中層から底面にかけて炭化材が出土する。カマド 南東壁の中央に位置する。全長1.15m。石組みで、カマド手前には外された石が多数出土する。大半が安山岩で、凝灰岩質砂岩（S10・11）もみられる。石は被熱により変色し



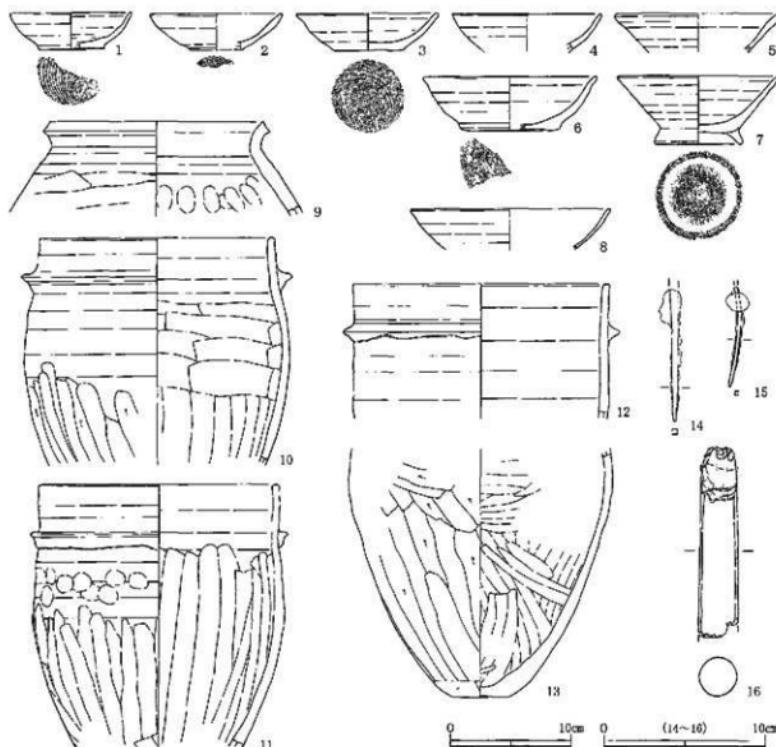
遺構名	番号	断面	上の方	下の方	特徴	測定値
H-2住	1	黒褐色土上層7.0m	ややあり	ややあり	白色粒を多量。Ar-VP・炭化物粒を少量含む。	
	2	黒褐色土上層7.0m	ややあり	ややあり	白色粒・Ar-VP・炭化物粒を多量。黒褐色土を少量含む。	
	3	黒褐色土上層7.0m	ややあり	ややあり	白色粒・Ar-VPを少量含む。	
カマド	1	黒褐色土上層7.0m	ややあり	ややあり	黒褐色土を多量。土中に、炭化物粒を少量含む。	
	2	黒褐色土上層7.0m	ややあり	ややあり	黒褐色土を多量。	
	3	黒褐色土上層7.0m	ややあり	ややあり	黒褐色土を多量。	
	4	黒褐色土上層7.0m	ややあり	ややあり	白色粒・Ar-VPを少量含む。	
D-1	1	黒褐色土上層7.0m	ややあり	ややあり	白色粒・Ar-VPを少量。炭化物粒を微量含む。	

第33図 H-2号住居址

脆くなっている。煙道部先端のみ原位置を保っており (S14～16)、幅 20 cm、底面から天井石までの高さ 26 cm を測る。天井石 (S16・17) は、長さ 36～39 cm、幅 22～23 cm、厚さ 10～11 cm である。カマド覆土中の黒褐色土と黄褐色粘質土の混土は構築土と推測される。火床面は焼土化が顕著で、その中央には支脚の痕跡とみられる小ピット (径 17 × 13 cm、深さ 3 cm) が検出される。柱穴 未検出。

貯蔵穴 カマドの左側に位置する (D-1)。平面形は円形を呈し、径 46 × 43 cm、深さ 11 cm を測る。

床面の状態 全体的に縮まっており、特にカマド前から竪穴中央にかけて強く硬化している。基本層序 V 層を地床とする。壁薄 カマド敷設面を除いて全周する。幅 11～18 cm、深さ 5～10 cm。遺物須恵器壺・瓶・壺・羽釜、灰釉陶器碗、鉄釘、石棒などが多く出土した。床面直上の遺物として 3 の須恵器壺、9 の須恵器壺がある。10 の羽釜はカマド出土で、H-4 号住居址出土の口縁部破片 1 点と接合した。同じく 13 の羽釜も別部の大形破片はカマドから出土し、胴部下位と底部の小破片 5 点は H-17 号住居址から出土したものである。時期 10 世紀第 4 四半期と推定される。備考 烧失住居。



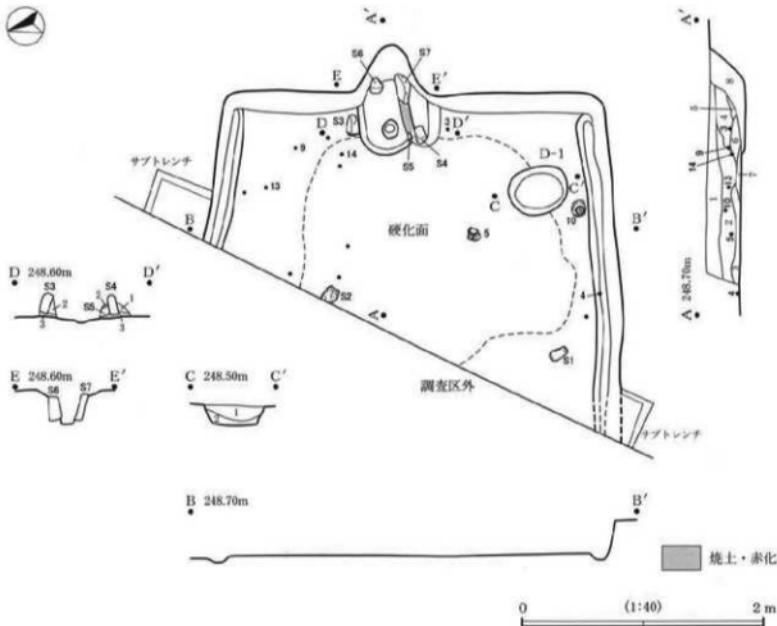
第 34 図 H-2号住居址出土遺物

番号	器種	山上位置	法益(cm)	①成形 ②色調 ③胎土 ④焼付	成・繊形技術の特徴	
					①液化焼 ②明黄色 ③赤色粒、外側 内面	コクロナダ。底面右側を切り。 ロクロナダ。
1	須恵器 环	一括	口径(16.1) 底径(5.4) 高さ 3.0	①液化焼 ②にふい黄褐色 ③角 円柱、白色粒、褐色粒 ④1/3	ロクロナダ。底面右側を切り。 ロクロナダ。	
2	須恵器 环	I区、 #17位	口径(11.0) 底径(4.2) 高さ 3.0	①液化焼 ②にふい黄褐色 ③角 円柱、白色粒、褐色粒 ④1/3	ロクロナダ。底面右側を切り。 ロクロナダ。	
3	須恵器 环	#15	口径 11.9 底径 5.8 高さ 3.1	①液化焼 ②にふい黄褐色 ③口 色粒、褐色粒 ④口縁部~体部1/3欠損	外表面 内面 内外面にススが付着。	ロクロナダ。底面右側を切り。 ロクロナダ。 ロクロナダ。
4	須恵器 环	#6	口径(12.4) 底径 5.8 高さ 3.2	①液化焼 ②にふい黄褐色 ③口 色粒 ④口縁部~体部1/3	外表面 内面	ロクロナダ。 ロクロナダ。
5	須恵器 环	#7	口径(13.8) 底径 一 高さ (3.2)	①液化焼 ②にふい黄褐色 ③口 色粒 ④口縁部~体部1/4	外表面 内面	ロクロナダ。 ロクロナダ。
6	須恵器 环	#10	口径(14.5) 底径(8.4) 高さ 4.0	①液化焼 ②にふい黄褐色 ③口 色粒、黑色粒 ④1/3	外表面 内面	ロクロナダ。底面右側を切りの後ナダ。 ロクロナダ。
7	須恵器 环	一括	口径(13.5) 底径 7.1 高さ 5.6	①液化焼 ②引鉄黄色 ③白色粒、外表面 黑色粒 ④口縁部~体部1/3欠損	外表面 内面	ロクロナダ。底面右側を切りの後ナダ。高台貼付時に回轉 回転ナダ。
8	灰陶輪馬 頭	2区	口径(16.6) 底径 一 高さ (3.4)	①透天焼 ②灰白色 ③白色粒 ④C脚部~体部1/8	外表面 内面	ロクロナダ。 ロクロナダ。
9	須恵器 环	#12	口径(17.7) 底径 一 高さ (7.8)	①液化焼 ②黄褐色 ③白色粒 ④口縁部~胴部上位1/4	外表面 内面	ロクロナダの後、胴部上位ナダ。 ロクロナダの後、胴部上位ナダ、指揮正直。
10	須恵器 羽釜	#20-22, カマド、 #1-17 位	口径(19.0) 底径(19.7) 高さ (3.7)	①液化焼 ②にふい黄褐色 ③口 色粒 ④口縁部~胴部1/2	外表面 内面	コクロナダの後、胴部中位にナダ~下平に縱方向のヘラク ズリ、鉛貼付。
11	須恵器 羽釜	#19	口径(20.0) 底径(22.0) 高さ (3.7)	①液化焼 ②褐色 ③白色粒、半 透明、褐色粒 ④口縁部~胴部1/3	外表面 内面	ロクロナダの後、胴部下平に縱方向のヘラナダ~上平に横 方向のヘリナダ。
12	須恵器 羽釜	#25, カマド	口径(21.3) 底径 一 高さ (3.1)	①液化焼 ②にふい褐色 ③白色粒、 黑色粒、褐色粒 ④口縁部~ 胴部下平 1/4	外表面 内面	ロクロナダの後、胴部上位に指揮正直、下平に縱方向のヘ ラナダ、鉛貼付。
13	須恵器 羽釜	#21-22, #17 位	口径 一 底径(4.8) 高さ (20.5) 半~底部 1/4	①液化焼 ②にふい黄褐色 ③口 色粒、黑色粒、褐色粒 ④胴部下 部高さ 11.5cm	外表面 内面	胴部は中位に斜方向、下平に縱方向、下端に横方向のヘ ラケズリ、底面ナダ。 胴部に半位~横方向、下平に斜方向のヘラナダ。底部ナダ。
番号	器種	山上位置	法益(cm)	①法益(cm, g) ②材質 ③焼付 ④成・繊形技術の特徴 ⑤備考		
14	鉢形 鉢	#1	①長さ(8.3)、幅0.5、厚さ0.5、重量0.09 ②軟鉢	③上端部欠損 ④断面方形		
15	鉢形 鉢	#2-3	①長さ(6.2)、幅1.5、厚さ0.3、重量3.59 ②軟鉢	③上端部欠損 ④断面方形		
16	石鍋 石棒	#14, 2区	①長さ(11.95)、幅(2.5)、厚さ2.4、重量117.36 ②鋸削片状	③内端部欠損 ④研磨による丁寧な加工。下端 部に鋸削痕あり。		

第 16 表 H-2号住居址出土遺物観察表

(3) H-3号住居址 (第 35・36 図、第 17・18 表、PL. 8・22)

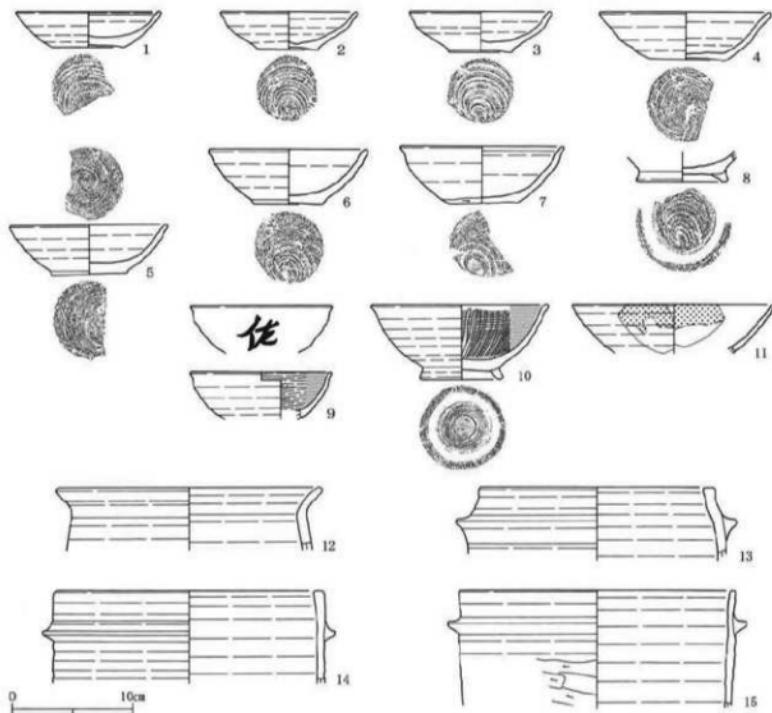
位置 F-1、G-1 グリッド。重複 H-9a・12 号住居址と重複し、本遺構が最も新しい。平面形態 西側が調査区外となるため全容は不明である。規模 南北幅 3.26 m × 東西軸 2.65 m 以上 × 深さ 0.28 m。主軸方位 N 102° E。覆土 自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。カマド 墓壙の中央北寄りに位置する。全長 0.91 m。焚口部の袖石(S3・4・5)と右袖、煙道部に据えられた石(S6・7)が残存する。石は全て安山岩で、被熱により赤く変色する。煙道部の S6 と S7 の幅は 12 cm を測る。袖構築土は下部に黒色土、上部に黄褐色土粘土土主体の黒褐色土との混土を用いている。内壁は焼成化が顕著である。底面には小ピット(径 16 × 13 cm、深さ 5 cm)が検出される。柱穴 未検出。貯蔵穴 カマドの右側に位置する(I-1)。平面形は端円形を呈し、径 50 × 39 cm、深さ 17 cm を測る。床面の状態 全体的に縮まっており、特にカマド前から窓穴中央にかけて強く硬化している。基本層序 V 層を地床とする。壁溝 カマド敷設面を除いて全周すると推



遺物名	層番	層名	L.E.N.	性質	埋入物
H-3住	1	黄褐色土層1.50cm/1	ややあり	ややあり	Ar-UTを多量。白色粒・黄褐色粒を少量含む。
	2	黄褐色土層1.50cm/1	ややあり	ややあり	Ar-UT・褐化物粒を多量。白色粒を少量含む。
	3	褐土土層1.50cm/1	ややあり	ややあり	Ar-UTを多量。白色粒・褐化物粒を少量。壤土を微量含む。
	4	黄褐色土層1.50cm/1	ややあり	ややあり	黄褐色土を多量。褐色・褐化物粒を少量。白色粒・Ar-UTを微量含む。
	5	黄褐色土層1.50cm/1	ややあり	ややあり	壤土を多量。白色物粒を少量。白色粒・Ar-UTを微量含む。
	6	黄褐色土層1.50cm/1	ややあり	ややあり	褐色土を多量。褐色物粒を多量。黄褐色土を少量。白色粒・Ar-UTを微量含む。
	7	褐土土層1.50cm/1	ややあり	ややあり	褐色土を多量。褐色物粒を少量。白色粒・Ar-UTを微量含む。
	8	黄褐色土層1.50cm/1	ややあり	ややあり	褐色土を少量。白色粒・Ar-UTを微量含む。
カマド	1	黄褐色土層1.50cm/1	ややあり	やや多い	黄褐色土を多量含む。
	2	黄褐色土層1.50cm/1	ややあり	やや多い	褐色土を多量含む。
	3	褐土土層1.50cm/1	ややあり	ややあり	白色粒を少量含む。
D-1	1	黄褐色土層1.50cm/1	ややあり	ややあり	Ar-UTを多量。白色粒・褐化物粒を少量含む。
	2	褐土土層1.50cm/1	ややあり	ややあり	Ar-UTを多量。白色粒を少量。褐化物粒を微量含む。

第35図 H-3号住居址

定される。幅10~13cm、深さ4~6cm。遺物 須恵器壺・碗・羽釜、灰釉陶器碗・壺、ロクロ甕などが少量出土した。床面直上の遺物は4の須恵器壺のみで、外底面に「×」の線刻がある。それ以外は概ね床面から5~20cm上で出土した。3・5・10の須恵器壺は逆位の状態であった。9は内面黒色処理の須恵器碗で、外面に墨書きが認められた。「佐」ととて判読できる。カマド内からは6の須恵器壺と12のロクロ甕が出土した。なお、3はH-2号住居址出土の破片と接合した。時期 10世紀後半と推定される。



第36図 H-3号住居址出土遺物

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①施成 ②色調 ③胎土 ④残存 ①焼化焰 ②にごり・黄褐色 ③角 閃石。白色粒 ④1/4	成・整形技法の特徴	
					外面	内面
1	須恵器 环	1区	口径(12.0) 底径(6.0) 器高 2.9	①焼化焰 ②にごり・黄褐色 ③角 閃石。白色粒 ④1/4	ロクロナデ。底面回転糸切り。 ロクロナデ。	
2	須恵器 环	2区	口径(11.8) 底径 5.2 器高 3.3	①焼化焰 ②灰褐色 ③石英 白色粒 ④口縁部・体部3/4欠損	ロクロナデ。底面右回転糸切り。 ロクロナデ。	
3	須恵器 环	No.5、 1・2区、 H-2住	口径(11.4) 底径 5.0 器高 3.1	①焼化焰 ②暗灰色 ③白色粒 ④口縁部・体部1/3欠損	ロクロナデ。底面右回転糸切り。 ロクロナデ。	
4	須恵器 环	No.3、 2区	口径(14.2) 底径 6.0 器高 4.0	①還元焰 ②灰白色 ③白色粒 ④2/3	ロクロナデ。底面右回転糸切り、「×」の刻書あり。 ロクロナデ。	
5	須恵器 环	No.2、 2区	口径(13.1) 底径(6.3) 器高 4.1	①焼化焰 ②明黄褐色 ③白色粒、 黒色粒。褐色粒 ④1/2	ロクロナデ。底面回転糸切り。 ロクロナデ。見込み回転ヘラケズリ。	
6	須恵器 カマフ		口径(13.2) 底径 5.8 器高 4.5	①焼化焰 ②にごり・褐色 ③白色 粒、黑色粒、褐色粒 ④口縁部～ 体部2/4欠損	ロクロナデ。底面右回転糸切り。 ロクロナデ。 内外面にススが付着。	
7	須恵器 环	1区	口径(13.6) 底径(5.6) 器高 4.8	①焼化焰 ②褐灰色 ③白色粒、 黒色粒 ④1/2	ロクロナデの後、下端に横方向のヘラケズリ。底面回転糸 切りの後ナデ。 ロクロナデ。	

第17表 H-3号住居址出土遺物観察表(1)

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
8	須恵器 碗	2区	口径 一 底径 (7.5) 器高 (2.5)	①酸化焰気味 ②灰白色 ③白色粒 ④高台部3/4	外面 ロクロナダ。底面回転系切り。高台貼付時に周縁回転ナダ。 内面 ロクロナダ。
9	須恵器 碗	No.12, 1区	口径 11.8 底径 6.5 器高 (3.9)	①酸化焰 ②灰黄色 ③白色粒、 褐色粒 ④口縁部～体部2/3	外面 ロクロナダ。体部に「佐」の墨書きあり。 内面 ロクロナダの後、横方向のミガキ。 内面に黒色処理。
10	須恵器 碗	No.1	口径 (14.7) 底径 6.5 器高 6.2	①酸化焰 ②明黄褐色 ③白色粒、 黑色粒 ④口縁部～体部2/3欠損	外面 ロクロナダ。底面回転系切り。高台貼付時に周縁回転ナダ。 内面 ロクロナダの後、横方向のミガキ～放射状のミガキ。 内面に黒色処理。
11	灰陶器 瓶	一括	口径 (16.8) 底径 一 器高 (4.0)	①還元焰 ②胎土：灰白色／釉裏： 灰オーバー色 ③白色粒 ④口縁 部～体部1/8	外面 ロクロナダ。 内面 ロクロナダ。 外表面に黒色処理跡。
12	ロクロ窯	カマド	口径 (22.2) 底径 一 器高 (5.2) 1/8	①酸化焰 ②に似い黄褐色 ③白 色粒、小瘤 ④口縁部～腹部上位	外面 ロクロナダ。 内面 ロクロナダ。
13	須恵器 羽釜	No.13	口径 (19.5) 底径 一 器高 (9.0)	①酸化焰 ②に似い黄褐色 ③白 色粒、黑色粒、小瘤 ④口縁部1/3	外面 ロクロナダ。脚貼付。 内面 ロクロナダ。
14	須恵器 羽釜	No.6	口径 (22.3) 底径 7.6 器高 (9.6)	①酸化焰気味 ②灰白色 ③白色 粒、黑色粒 ④口縁部1/8	外面 ロクロナダ。脚貼付。 内面 ロクロナダ。
15	須恵器 羽釜	2区	口径 (22.9) 底径 一 器高 (9.6)	①酸化焰 ②に似い黄褐色 ③白 色粒 ④口縁部～胴部上位 1/8	外面 ロクロナダ。脚部に横方向のヘラケズリ。脚貼付。 内面 ロクロナダ。

第18表 H-3号住居址出土遺物観察表(2)

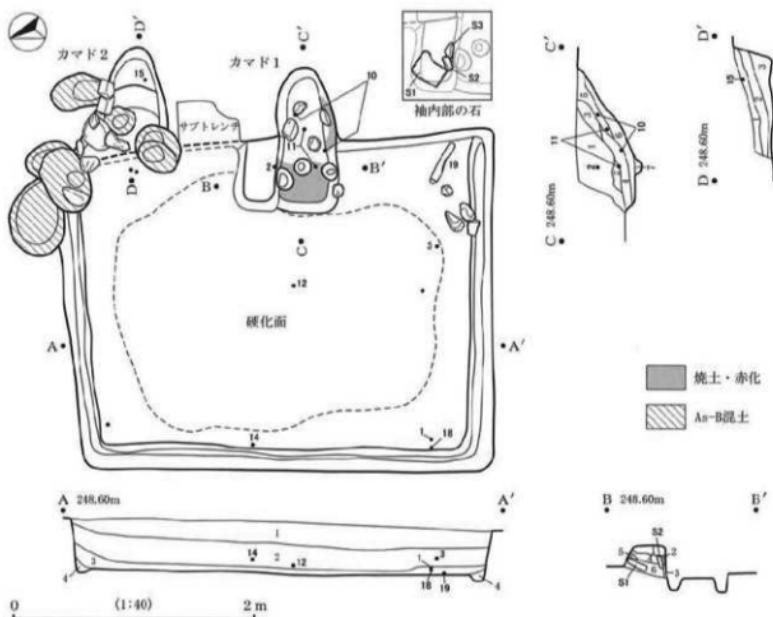
(4)H-4号住居址 (第37・38図、第19・20表、PL. 8・9・22)

位置 H-3、I-3グリッド。重複 H-13・14・19号住居址、D-1号土坑と重複する。新旧関係は古い方からH-13・14・19号住居址<本遺構<D-1号土坑となる。平面形態 南北にやや長い横長長方形。規模 長軸 3.40 m × 短軸 2.62 m × 深さ 0.43 m。主軸方位 N-108° - E。覆土 自然堆積と推測される。As-Yp・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。カマド 東壁の中央(カマド1)および北隅(カマド2)に位置する。カマド2に構築材が残存していないことから、カマド2からカマド1への作り替えが想定される。カマド1は全長 1.21 m である。左袖が残存し、構築土は下部が黒褐色土、上部が浅黄褐色粘土質で、内部には安山岩(S1～3)が埋め込まれる。火床面および内壁は焼土化が顕著である。底面には小ピットが3ヵ所検出される。中央のピット(径 15 × 15 cm、深さ 5 cm)は支脚の痕跡とみられる。カマド2は全長 0.92 m である。カマド覆土中には黄褐色粘土質土がみられ、構築土と推定される。As-B混入土のピットにより搅乱を受ける。柱穴 未検出。貯蔵

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 外	No.2	口径 11.3 底径 5.4 器高 3.3	①酸化焰気味 ②灰黄色 ③白色 粒 ④完形	外面 ロクロナダ。底面回転系切り。 内面 ロクロナダ。
2	須恵器 碗	No.13、湖 り方	口径 (14.6) 底径 (5.2) 器高 (4.5)	①酸化焰気味 ②灰白色 ③海藻 滑滞、白色粒、褐色粒 ④口縁部 ～体部1/5	外面 ロクロナダ。 内面 ロクロナダ。
3	須恵器 碗	No.4	口径 一 底径 7.9 器高 (4.3)	①酸化焰気味 ②灰白色 ③石英、 白色粒 ④或底部	外面 ロクロナダ。底面回転系切りの後、ナダ消し。高台貼付時 に周縁回転ナダ。 内面 ロクロナダ。
4	須恵器 碗	-5	口径 (14.0) 底径 一 器高 (4.5)	①酸化焰 ②灰黄褐色 ③白色粒 ④口縁部～体部1/6	外面 ロクロナダの後、体部上半に横方向のミガキ。 内面 ロクロナダの後、横方向のミガキ～放射状のミガキ。 内面に黒色処理。
5	須恵器 杯	I区、 H-13住址 15	口径 (13.0) 底径 一 器高 (4.0)	①酸化焰 ②に似い黄褐色 ③白 色粒、褐色粒 ④口縁部～体部1/3	外面 ロクロナダ。口縁部に横方向のミガキ。 内面 ロクロナダ。口縁部～体部に横方向～放射状のミガキ。 内面に黒色処理。
6	須恵器 碗	I区、一括	口径 一 底径 一 器高 (3.5)	①酸化焰 ②に似い黄褐色 ③白 色粒、褐色粒 ④体部～高台部上 縁	外面 ロクロナダ。底面回転系切り。高台貼付時に周縁回転ナダ。 内面 ロクロナダの後、放射状のミガキ。 内面に黒色処理。

第19表 H-4号住居址出土遺物観察表(1)

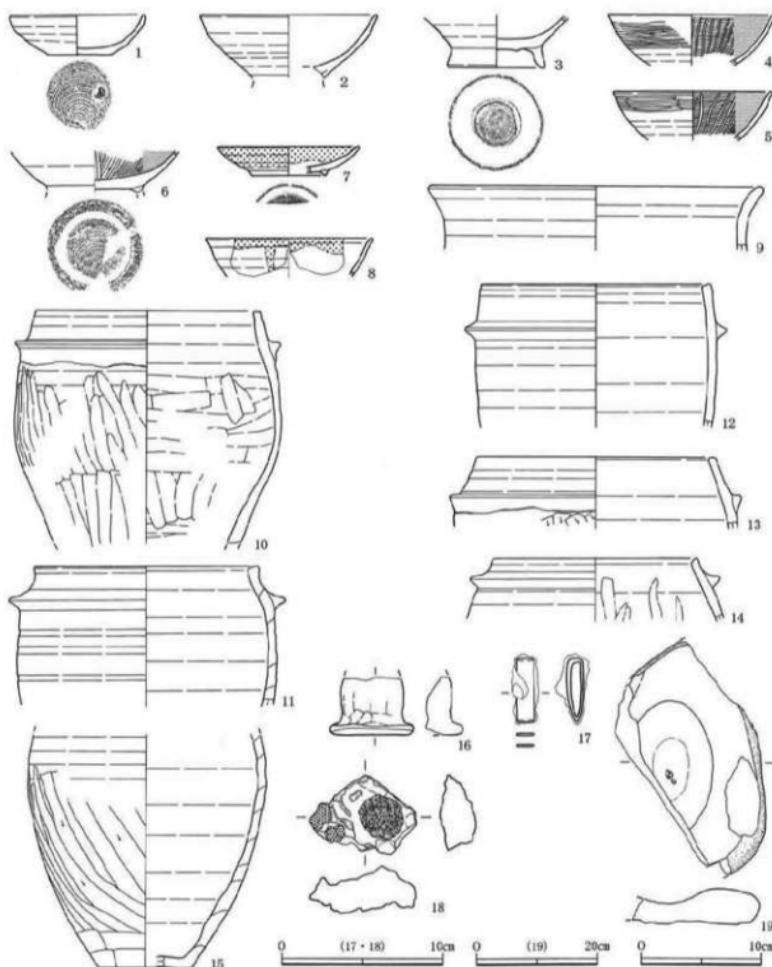
穴 未検出。 床面の状態 全体的に縮まっており、特にカマド前から竪穴中央にかけて強く硬化している。基本層序V層を地床とする。壁溝 カマド敷設面を除いて全周する。幅8~12cm、深さ3~5cm。遺物 須恵器壺・碗・羽釜、灰釉陶器碗・皿、ロクロ甕、土製支脚、鉄製品、鉄滓、石皿などが多量に出土した。遺物は覆土中層~下層からの出土で、床面直上は19の石皿および周の大形甕の



遺物名	層番	層名	しまり	特徴	出土物
H-4主	1	黒褐色土層7.030/1	ややあり	白色粒・As-Hを多量。無機物質・白色粒・As-Hを多量。植土を少量含む。	
	2	黒褐色土層7.030/1	ややあり	無機物質・白色粒・As-Hを多量。植土を少量含む。	
	3	黒褐色土層7.030/1	ややあり		
	4	黒褐色土層7.030/1	ややあり	白色粒・As-Hを少量含む。	
カマドF B-B'	1	浅褐色土層10.030/4	あり	黒褐色土層を少量含む。	
	2	褐色土層10.030/4	弱い		
	3	黒褐色土層7.030/1	ややあり		
	4	黒褐色土層7.030/1	あり		
	5	黒褐色土層7.030/1	ややあり	無機物質を少量含む。	
	6	黒褐色土層7.030/1	ややあり	白色粒・As-Hを少量含む。	
	7	黒褐色土層7.030/1	ややあり	白色粒・As-Hを少量含む。	
B-C F C-C'	1	黒褐色土層7.030/1	ややあり		褐色土層を少量。無機物質・白色粒・As-Hを微量含む。
	2	黒褐色土層7.030/1	ややあり		褐色土層を多量。植土を少量。無機物質・白色粒を微量含む。
	3	黒褐色土層7.030/1	ややあり		褐色土層を大量。植土を多量。無機物質を少量含む。白色粒を微量含む。
	4	黒色土層7.030/1	ややあり		褐色土・無機物質・黒褐色土を少量含む。
	5	黒褐色土層7.030/1	ややあり		褐色・黒褐色土を少量。無機物質・白色粒を微量含む。
	6	黒色土層7.030/1	ややあり		褐色土を少量。無機物質・白色粒を微量含む。
	7	黒褐色土層7.030/1	ややあり		褐色土を多量含む。
C-C' F D-D'	1	黒褐色土層7.030/6	強い		黒褐色土を多量。植土を微量含む。
	2	黒褐色土層7.030/1	ややあり		褐色土を少量含む。
	3	黒色土層7.030/1	ややあり		褐色土を多量。無機物質を少量含む。

第37図 H-4号住居址

みである。カマド 1 からは 2 の須恵器碗や 10・11 の羽釜の破片が、カマド 2 からは 15 の羽釜の破片が出土した。16 の土製品は被熱による摩耗が顕著で、カマド支脚と考えられる。なお、4 の内面黒色処理の須恵器碗は H-5 号住居址出土の破片と接合した。10 の羽釜は H-2 号住居址カマド掘り方出土の破片および、H-14 号住居址 P-1 内出土の破片と接合した。時期 10 世紀第4四半期と推定される。



第38図 H-4号住居址出土遺物

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
7	灰釉陶器皿	4区、一括、J1グリット 下3面	口径(12.0) 底径(6.2) 器高(2.4)	①還元焰 ②胎土: 灰白色 / 胎裏: 灰白色 ③白色粒 ④1/5	外面 ロクロナダ。底面回転ナダ。高台貼付時に周縁回転ナダ。 内面 ロクロナダ。 内外面に灰釉剥け掛け。
8	灰釉陶器皿	4区	口径(14.0) 底径(3.2) 器高(3.2)	①還元焰 ②胎土: 灰白色 / 胎裏: 灰白色 ③白色粒 ④口縁部～体 部1/9	外面 ロクロナダ。 内面 ロクロナダ。 内外面に灰釉剥け掛け。
9	ロクロ甕	1区	口径(26.0) 底径(—) 器高(5.3)	①普通 ②黒褐色 ③雲母、白色 粒、黑色粒 ④口縁部1/8	外面 ロコナダ。 内面 ロコナダ。
10	須恵器 羽釜	No.10・21、 H-2 住方 マド腰振り 方、H-14 住P-1	口径(18.6) 底径(19.1) 器高(1.1)	①酸化焰 ②にぶい黄褐色 ③白 色粒、黒褐色 ④口縁部～胴部上半 1/3	外面 ロクロナダ。胴部に縱方向のヘラナダ。齊付。 内面 ロクロナダ。胴部に横・縱方向のヘラナダ。
11	須恵器 羽釜	No.9-11	口径(18.0) 底径(—) 器高(11.6)	①酸化焰 ②灰黄色 ③石英、白 色粒 ④口縁部～胴部上半1/3	外面 ロクロナダ。齊點付。 内面 ロクロナダ。
12	須恵器 羽釜	No.5	口径(19.2) 底径(—) 器高(11.9)	①酸化焰氣味 ②灰白色 ③白色 粒 ④口縁部～胴部上位1/6	外面 ロクロナダ。齊點付。 内面 ロクロナダ。
13	須恵器 羽釜	1区	口径(26.0) 底径(5.9)	①酸化焰 ②にぶい褐色 ③白色 粒、黑色粒 ④口縁部1/8	外面 ロクロナダ。胴部上位に縱・斜方向のヘラケズリ。齊點付。 内面 ロクロナダ。
14	須恵器 羽釜	No.6	口径(17.0) 底径(—) 器高(5.2)	①酸化焰 ②にぶい褐色 ③白色 粒、小繊 ④口縁部1/8	外面 ロクロナダ。齊點付。 内面 ロクロナダ。胴部上位に縱方向のヘラナダ。
15	須恵器 羽釜	No.17・20、 H3グリット 下3面	口径(—) 底径(7.6) 器高(19.3)	①酸化焰 ②にぶい褐色 ③片岩、 白色粒、褐色粒 ④胴部～底部1/2	外面 ロクロナダ。胴部に縱方向のヘラケズリ～下端は横方向の ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。 内面 ロクロナダ。
16	土支文鉢	4区	口径(—) 底径(7.0) 器高(4.7)	①普通 ②浅黄色 ③白色粒、褐 色粒 ④織紋	外側は被熱により器表面が剥離。 内面 ナダ。側面は被熱により器表面が剥離。
番号	器種	出土位置	法量(cm・g)	①法量(cm・g) ②材質 ③胎土 ④残存 ⑤成・整形技法の特徴 ⑥備考	
17	鉄製品 不明	2区	長さ4.5、幅1.1、厚さ0.25、重量13.0	②鉄製 ③ほぼ正形 ④—	
18	鉄鋸	No.1	長さ4.9、幅6.8、厚さ3.0、重量80.55	②鉄製 ③一部欠損 ④一部ガラス質化、錆化。	
19	石墨	No.22	長さ38.65、幅<25.5>、厚さ6.0、重量7,900	②砂泥片岩 ③1/2 ④板状鐵を素材とする。裏面は撲鉢状に 張り覆す。	

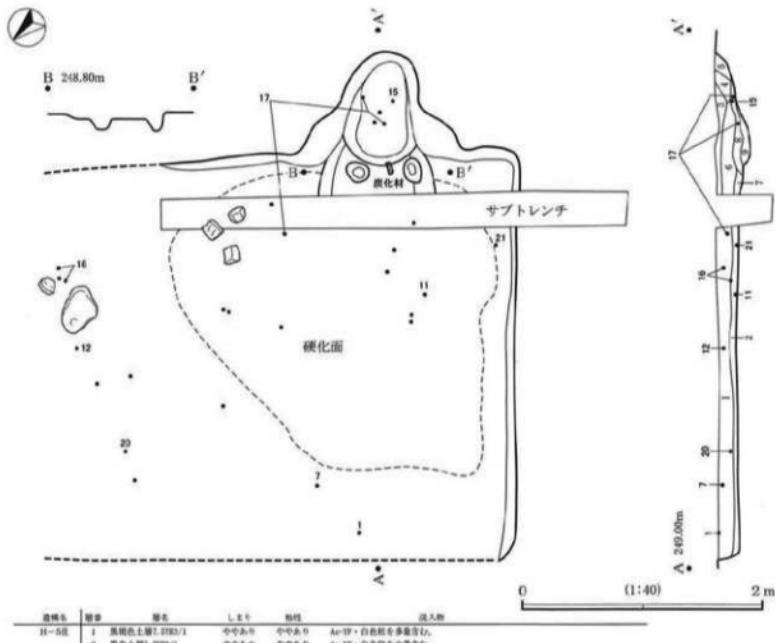
第20表 H-4号住居址出土遺物観察表(2)

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 高台貼付	No.12	口径(13.6) 底径(7.8) 器高(2.7)	①還元焰 ②灰褐色 ③白色粒、黑 色粒 ④1/4	外側 ロクロナダ。底面回転糸切り後ナダ。高台貼付時に周縁回 転ナダ。 内面 ロクロナダ。
2	須恵器 坪	カマド	口径(16.1) 底径(5.0) 器高(3.5)	①酸化焰 ②褐色 ③白色粒、黑 色粒、褐色 ④1/8	外側 ロクロナダ。底面回転糸切り。 内面 ロクロナダ。
3	須恵器 坪	3・4区、 一括	口径(13.9) 底径(6.6) 器高(4.6)	①酸化焰 ②浅黃褐色 ③褐色粒 ④1/4	外側 ロクロナダ。底面回転糸切り～周縁回転ナダ。 内面 ロクロナダ。
4	須恵器 碗	B-6 住	口径(13.0) 底径(—) 器高(3.4)	①酸化焰 ②橙色 ③白色粒、黑 色粒 ④口縁部～体部1/8	外側 ロクロナダ。 内面 ロクロナダ。
5	須恵器 碗	1区	口径(13.0) 底径(—) 器高(4.2)	①酸化焰 ②灰色 ③石英、白色 粒 ④口縁部～体部1/8	外側 ロクロナダ。 内面 ロクロナダ。
6	須恵器 碗	3区	口径(13.8) 底径(—) 器高(4.5)	①酸化焰氣味 ②灰白色 ③白色 粒 ④口縁部～体部1/8	外側 ロクロナダ。 内面 ロクロナダ。
7	須恵器 碗	No.11	口径(—) 底径(7.1) 器高(2.2)	①酸化焰氣味 ②暗灰褐色 ③白 色粒、小繊 ④内底部	外側 ロクロナダ。底面回転糸切り～高台貼付時に回転ナダ。 内面 ロクロナダ。
8	須恵器 碗	3区	口径(—) 底径(6.1) 器高(2.4)	①酸化焰 ②灰黄色 ③雲母、黑 色粒 ④高台部1/4	外側 ロクロナダ。底面回転糸切り～高台貼付時に回転ナダ。 内面 ロクロナダ。
9	須恵器 碗	3区	口径(—) 底径(7.5) 器高(2.5)	①酸化焰 ②にぶい褐色 ③白色 粒 ④高台部1/2	外側 ロクロナダ。底面回転糸切り～高台貼付時に回転ナダ。 内面 ロクロナダ。
10	灰釉陶器皿	3区	口径(13.0) 底径(—) 器高(1.8)	①還元焰 ②胎土: 灰白色、釉裏: 灰褐色 ③— ④口縁部～体部1/4	外側 ロクロナダ。 内面 ロクロナダ。 内外面に灰釉剥け掛け。

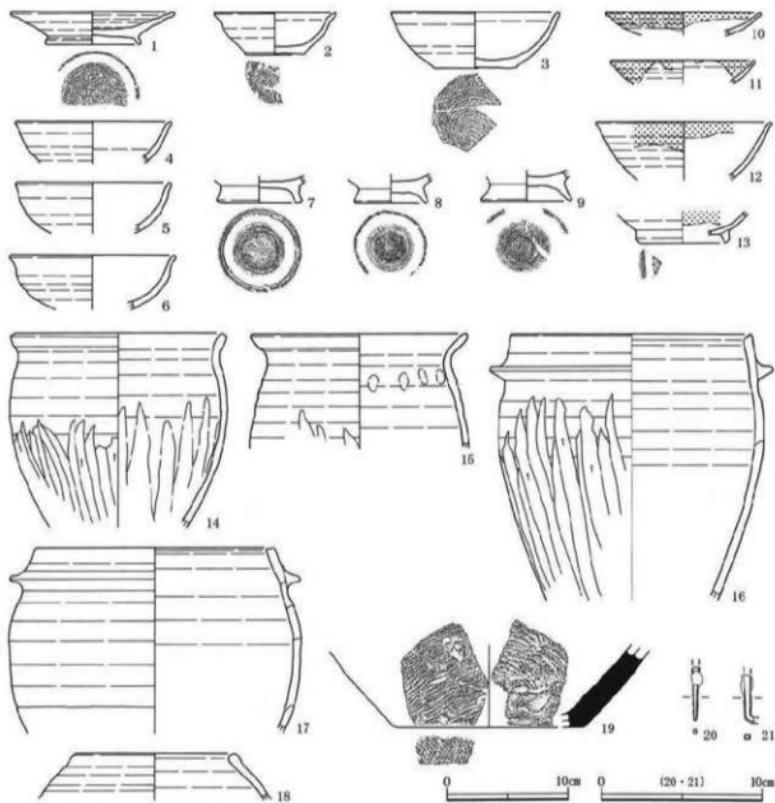
第21表 H-5号住居址出土遺物観察表(1)

⑤H-5号住居址（第39・40図、第21～23表、PL. 9・22・23）

位置 C-1～2、D-1グリッド。重複 H-7・8号住居址と重複し、本遺構が最も新しい。平面形態 長方形と推測される。規模 東西軸3.30m×深さ0.18m。主軸方位 N-132° - E。
覆土 自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。カマド 南東壁の南寄りに位置する。全長1.08m。掘り方での検出となり、袖石の痕跡とみられる小ピットが2本対になって確認される。カマド内に堆積する黄褐色粘質土と黒褐色土の混土が構築土と推測される。
柱穴 未検出。貯蔵穴 未検出。床面の状態 カマド前から竪穴中央にかけて強く硬化している。基本層V層を地床とする。壁溝 未検出。遺物 須恵器皿・壺・碗・無頭壺・甕・羽釜、灰釉陶器皿・碗、ロクロ甕、鉄釘などが少量出土した。床面直上は11の灰釉陶器皿と21の鉄釘のみである。それ以外は概ね床面から5～20cm上の出土である。カマドからは2の須恵器壺、14・15のロクロ甕、16・17の羽釜、19の須恵器甕の破片が出土した。16・17は覆土中の破片と接合している。1の須恵器皿は粉れ込みと考えられる。時期 10世紀後半と推定される。



第39図 H-5号住居址



第40図 H-5号住居址出土遺物

番号	器種	出土位置	法量(cm)	成・整形技法の特徴			
				①焼成	②色調	③軸面	④窓孔
11	灰釉陶器 皿	No.2	口径(12.1) 底径(1.9) 器高(1.9)	①焼成: 黄褐色 ②胎土: 灰白色、釉面: 灰黄色 ③— ④口縁部~体部1/4	外面 ロクロナガ。 内面 ロクロナガ。 外表面に灰釉濁け掛け。		
12	灰釉陶器 碗	H-6住No.5	口径(14.6) 底径(4.8) 器高(4.8)	①焼成: 黄褐色 ②胎土: 灰白色、釉面: 灰黄色 ③— ④口縁部~体部1/6	外面 ロクロナガ。 内面 ロクロナガ。 外表面に灰釉濁け掛け。		
13	灰釉陶器 皿	2区	口径(7.0) 底径(2.6) 器高(2.6)	①焼成: 暗灰味、 胎色: 灰白色 ②釉面: 灰白色、無釉 ③— ④台 部1/9	外面 ロクロナガ。高台貼付時に周縁回転ナガ。 内面 ロクロナガ。		
14	ロクロ甕	No.7, 3区, カマド	口径(18.0) 底径(16.0) 器高(16.0)	①焼成: 塗 ②にぶい黄褐色 ③白 色地、小縫 ④口縁部~ 脚部上半1/5	外面 ロクロナガ。胴部下半に縱方向のヘラケズリ。 内面 ロクロナガ。胴部下半に縱方向のヘラナガ。		
15	ロクロ甕	No.16, カ マド	口径(18.0) 底径(16.0) 器高(16.0)	①焼成: 塗 ②にぶい黄褐色 ③金 青色、白色地、小縫 ④口縁部~ 脚部上半1/5	外面 ロクロナガ。胴部中位に縱方向のヘラケズリ。 内面 ロクロナガ。頭部に指彫痕。		

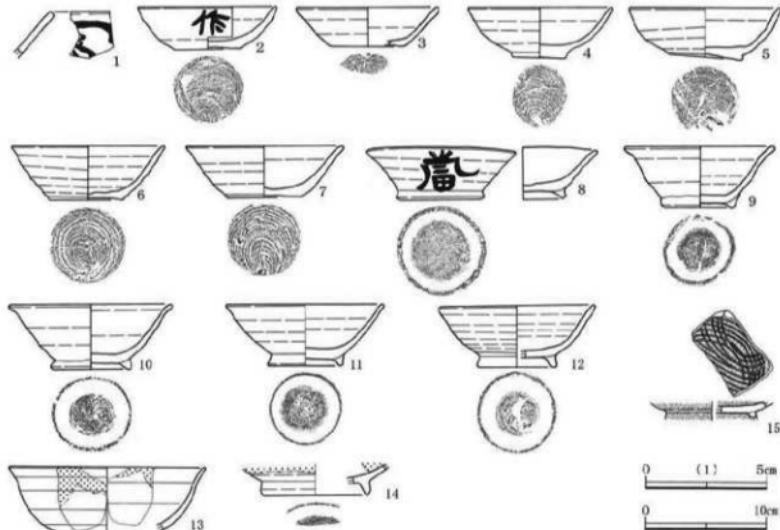
第22表 H-5号住居址出土遺物観察表 (2)

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存				成・整形技法の特徴
				①酸化焰 ④口縁部～胴部1/6	②にぶい橙色 ⑤白色	③白色粒、黒 色粒	④口縁部～胴部上半1/3	
16	須志器 羽釜	カマド、3 区、H-6住 底径 器高 No. 6・8	口径(19.6) — (21.9)	外表面 内面	ロクロナデ。胴部縱方向のヘラケズリ。脚貼付。 ロクロナデ。			
17	須志器 羽釜	No. 13・ 15・18、 カマド	口径(19.9) 底径 器高 (15.2)	外表面 内面	ロクロナデ。脚貼付。 ロクロナデ。			
18	須志器 無縁釜	1区、一柄	口径(13.5) 底径 器高 (3.9)	外表面 内面	ロクロナデ。 ロクロナデ。			
19	須志器 釜	カマド 15・18、 カマド	口径 — 底径(16.0) 器高(6.8)	外表面 内面	平行タキ。 同心円の当て具底。			
番号	器種	出土位置	法量(cm, g)	①質	②残存	③成・整形技法の特徴	④備考	
20	鉄製品 釘	H-6住No. 1	①長さ<3.4、幅0.3、厚さ0.2、重量1.38	②鉄製	③上端部欠損	④断面方形		
21	鉄製品 釘	No. 1	①長さ<3.17、幅0.4、厚さ0.3、重量2.05	②鉄製	③両端部欠損	④断面方形		

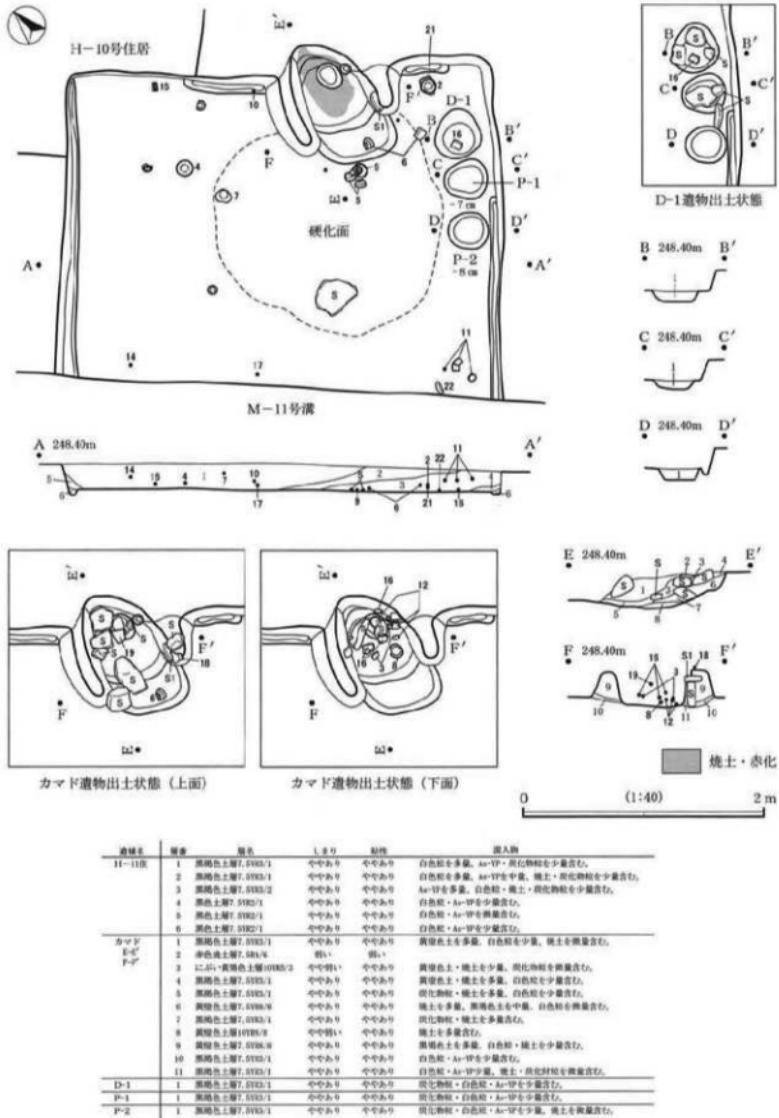
第23表 H-5号住居址出土遺物観察表(3)

⑥H-11号住居址(第41~43図、第24表、PL. 9・10・23)

位置 F-3~4グリッド。重複 H-10号住居址、M-11号溝、D-5号土坑と重複する。新旧関係は古い方からH-10号住居址<本遺構<M-11号溝、D-5号土坑となる。平面形態 北西~南東方向にやや長い横長長方形。規模 長軸3.58m×短軸2.74m以上×深さ0.20m。主軸方位 N-43°-E。覆土 自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。カマド 北東壁の寄りに位置する。壁に対して西へ122°傾く。全長0.84m。両袖が残存し、構築土は下部が黒褐色土、上部が黄褐色粘質土と黒褐色土の混土である。右袖内には袖先端から奥側へ縦方

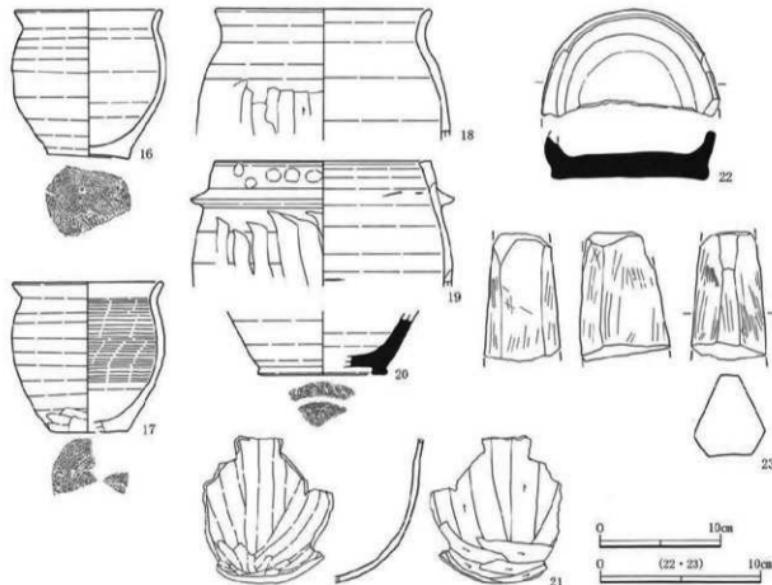


第41図 H-11号住居址出土遺物(1)



第42図 H-11号住居址

向に安山岩が3石並び、内壁側の面が垂直になるように設置されている。手前側2石の上にはS1が水平に乗せられている。燃焼部から煙道部の底面は焼化が顕著で、小ピット（径22cm×19cm、深さ5cm）が検出される（P.L.10左下参照）。**柱穴** 未検出。**貯蔵穴** カマドの右側手前に位置する（D-1）。平面形は円形を呈し、径41cm×39cm、深さ7cmを測る。**ピット** 2基検出された（P-1～2）。貯蔵穴と同規模で2基並んで検出される。**床面の状態** 全体的に締まっており、特にカマド前から竪穴中央にかけて強く硬化している。基本層V層を地床とするが、硬化面部分は黄橙色粘質土と黒色土の混土の貼床である。**壁溝** 部分的に途切れるが全周すると推測される。幅6～12cm、深さ2～5cm。**遺物** 須恵器坏・碗・壺・羽釜、灰釉陶器碗、綠釉陶器碗、土師器壺、ロクロ壺、風字硯、砥石などが少量出土した。床面直上の遺物には5の須恵器坏、9の須恵器碗、20の須恵器壺、22の風字硯、竪穴中央の大形礎がある。それ以外は概ね床面より4～12cm上で出土した。カマドの右脇では床面より4cm上の位置で、21の土師器壺脛部片の上に2の須恵器坏が重ねられて出土した。21は8世紀代に比定され、周辺から持ち込まれたものと推測される。2は完形の墨書き土器で、「作」と判読できる。墨書き土器は他に2点（1・8）が確認されている。1は須恵器坏で2区下層から出土した。口縁部破片のため判読不明である。8の須恵器碗はカマド内から出土した。「當」の篆書体である「當」と判読できる。カマド内からは3の須恵器坏、12の須恵器碗、13の灰釉陶器碗、16のロクロ壺、19の羽釜、20の須恵器壺の破片が出土した。**時期** 10世紀第3四半期と推定される。**備考** 安中市高梨子森下遺跡の遺構外から「當」の刻書がある須恵器碗（10世紀）が出土している。



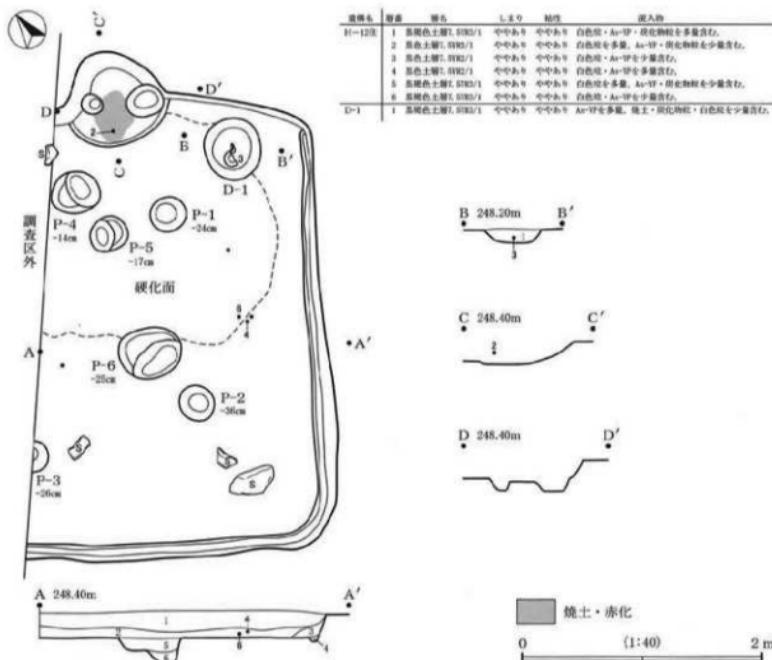
第43図 H-11号住居址出土遺物 (2)

番号	器種	出土位置	法量(cm)	成・整形技法の特徴			
				①焼成	②色調	③胎土	④残存
1	須恵器 壺	2区	口径 - 底径 - 高さ(1.9)	①焼成焰 ②灰黃褐色 ③白色粒 ④口縁部破片	外面 ロクロナダ。 内面 ロクロナダ。 外面に墨書き、判読不明。		
2	須恵器 壺	No. 26	口径 11.5 底径 5.5 高さ 3.5	①焼成焰 ②黄褐色 ③角閃石、白色粒 ④ほぼ完形	外面 ロクロナダ。底面右回転糸切り。 内面 ロクロナダ。 外面に墨書き「作」。		
3	須恵器 壺	No. 33・42、 1・2区	口径 11.8 底径 (6.0) 高さ 6.0	①焼成焰 ②灰白色 ③白色粒、黒色粒 ④1/2	外面 ロクロナダ。底面回転糸切り。 内面 ロクロナダ。		
4	須恵器 壺	No. 5	口径 12.1 底径 4.5 高さ 4.2	①焼成焰 ②にほん褐色 ③白色粒、黑色粒 ④完形	外面 ロクロナダ。底面右回転糸切り。 内面 ロクロナダ。		
5	須恵器 壺	No. 14・16、 2区	口径 12.6 底径 6.1 高さ 4.3	①焼成焰 ②にほん褐色 ③角閃石、白色粒 ④5/6	外面 ロクロナダ。底面回転糸切り。 内面 ロクロナダ。		
6	須恵器 壺	No. 17・18、 2区	口径 12.7 底径 6.3 高さ 4.4	①焼成焰 ②にほん黄褐色 ③角閃石、白色粒 ④口縁部～体部1/4欠損	外面 ロクロナダ。底面右回転糸切り。 内面 ロクロナダ。		
7	須恵器 壺	No. 4、 1区	口径 (13.0) 底径 6.1 高さ 4.2	①元焼(軟質) ②灰白色 ③白色粒 ④口縁部～体部1/2欠損	外面 ロクロナダ。底面右回転糸切り。 内面 ロクロナダ。		
8	須恵器 壺	No. 35	口径 12.6 底径 7.3 高さ 4.3	①焼成焰 ②灰褐色 ③白色粒 ④口縁部1/5欠損	外面 ロクロナダ。底面静止糸切り。高台貼付時に周縁回転ナダ。 内面 ロクロナダ。 外面に墨書き、「当」の篆書体。		
9	須恵器 壺	No. 15、 2区	口径 12.4 底径 6.1 高さ 5.0	①元焼(軟質) ②灰黄色 ③白色粒 ④口縁部・高台部の一部を欠損	外面 ロクロナダ。底面回転糸切り→高台貼付時に全面ナダ。 内面 ロクロナダ。		
10	須恵器 碗	No. 3、 1区	口径 (13.6) 底径 6.6 高さ 5.3	①焼成焰 ②オリーブ黒色 ③角閃石、白色粒 ④口縁部～体部3/4欠損	外面 ロクロナダ。底面回転糸切り→高台貼付時に全面ナダ。 内面 ロクロナダ。		
11	須恵器 碗	No. 10・ 11・12	口径 13.0 底径 6.2 高さ 5.0	①焼成焰 ②にほん黄色 ③白色粒 ④口縁部～体部1/2欠損	外面 ロクロナダ。底面回転糸切り→高台貼付時に全面ナダ。 内面 ロクロナダ。		
12	須恵器 碗	No. 36、 43・44	口径 13.4 底径 6.6 高さ 5.2	①焼成焰 ②明黄褐色 ③白色粒 ④ほぼ完形	外面 ロクロナダ。底面回転糸切り→高台貼付時に周縁回転ナダ。 内面 ロクロナダ。		
13	灰釉陶器 碗	カマド	口径 (18.4) 底径 (6.2)	①選元焼 ②胎土: 灰白色、釉薬: 白色粒 ③白色粒 ④口縁部破片	外面 ロクロナダ。 内面 ロクロナダ。 内外面上に灰釉焼け抜け。		
14	灰釉陶器 碗	No. 8	口径 - 底径 (6.7) 高さ (2.5)	①選元焼 ②胎土: 灰黄色、釉薬: 黄褐色 ③白色粒 ④体部下位～高台部1/4	外面 ロクロナダ。高台貼付時に周縁回転ナダ。 内面 ロクロナダ。 内外面上に灰釉焼け抜け。		
15	綠釉陶器 碗	No. 1	口径 - 底径 (6.7) 高さ (1.5)	①選元焼 ②胎土: 墨緑色、釉薬: 黄褐色 ③白色粒 ④底部～高台部 1/4	外面 ロクロナダ。体部ミガキ。底面回転ヘラケズリ。高台貼付時に周縁回転ナダ。 内面 ロクロナダ。底面ミガキ。 内外面上に緑釉。		
16	小形 ロクロ甕	No. 19・ 32・37・ 38、2区	口径 12.3 底径 6.9 高さ 12.3	①焼成焰 ②にほん褐色 ③白色粒、黒色粒 ③/4	外面 ロクロナダ。底面回転糸切り。 内面 ロクロナダ。		
17	小形 ロクロ甕	No. 9、 1～4区	口径 12.6 底径 6.5 高さ 12.5	①焼成焰 ②灰黃褐色 ③白色粒 ②/3	外面 ロクロナダ→脚部下に横方向のヘラナダ。底面回転糸切り。 内面 ロクロナダ→脚部上半に横方向のヘラナダ。		
18	ロクロ甕	No. 20	口径 (18.0) 底径 - 高さ (10.8)	①焼成焰 ②灰黃褐色 ③白色粒、黒色粒 ④口縁部～脚部上位1/5	外面 ロクロナダ。ロ縁部に指彫压痕。脚部に収方向のヘラケズリ。 貼付時。 内面 ロクロナダ→脚部中位に収方向のヘラケズリ。 内面 ロクロナダ。		
19	須恵器 羽蓋	No. 24	口径 (18.2) 底径 (18.7) 高さ (19.4)	①焼成焰 ②にほん黄褐色 ③白色粒、黒色粒、小雫 ④口縁部～脚部上位1/5	外面 ロクロナダ。ロ縁部に指彫压痕。脚部に収方向のヘラケズリ。 貼付時。 内面 ロクロナダ。		
20	須恵器 盃	カマド	口径 - 底径 (18.7) 高さ (5.3)	①選元焼 ②灰色 ③白色粒 ④脚部下位～底部1/4	外面 ロクロナダ。底面回転ヘラケズリ。高台貼付時に周縁回転ナダ。 内面 ロクロナダ。 高台底面は非常に平滑。		
21	土師器 甕	No. 27	口径 - 底径 - 高さ	①良好 ②橙色 ③黑色粒、小雫 ④脚部破片	外面 脚部収方向のヘラケズリ→下位に横方向のヘラケズリ。 内面 脚部収方向のヘラナダ→下位に斜方向のヘラナダ。		
番号	器種	出土位置	①法量(cm, g) ②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考				
			①長さ(6.7)、幅11.2、厚さ3.0、重量187.62g ②焼成: 選元焼、色調: 灰色、胎土: 白色粒 ③頸部破片 ④脚部は丸みをもつ。馬蹄形状を呈すると推測される。破面の縁辺に壙が付けられる。壙幅0.6～0.8cm、壙高1.5cm。ナダ調整。壙面は非常に平滑。				
22	須恵器 鏡字碗	No. 13		①長さ(6.7)、幅11.2、厚さ3.0、重量187.62g ②焼成: 選元焼、色調: 灰色、胎土: 白色粒 ③頸部破片 ④脚部は丸みをもつ。馬蹄形状を呈すると推測される。破面の縁辺に壙が付けられる。壙幅0.6～0.8cm、壙高1.5cm。ナダ調整。壙面は非常に平滑。			
23	鉢	1区		①長さ(8.0)、幅8.5、厚さ5.2、重量232.87 ②礫混石 ③両端部欠損 ④6面すべてを使用。下面を餘く5面は非常に平滑、擦れ多め。			

第24表 H-11号住居址出土遺物観察表

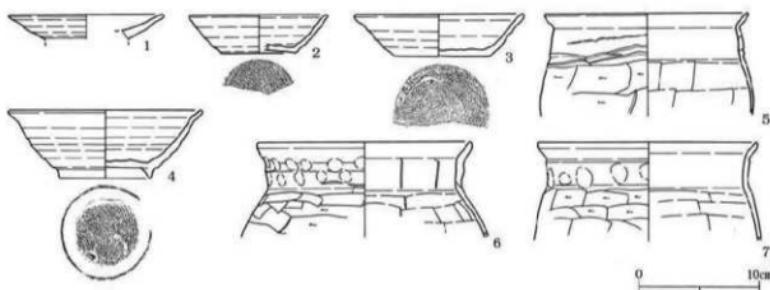
⑦H-12号住居址(第44・45図、第25表、PL. 11・23・24)

位置 G-1、H-1グリッド。 **重複** H-3号住居址、D-4号土坑と重複し、本遺構が最も古い。
平面形態 西側が調査区外となるため全容は不明である。 **規模** 南北軸3.77m×東西軸2.50m以上×深さ0.22m。 **主軸方位** N-34°-E。 **覆土** 自然堆積と推測される。As-VP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。 **カマド** 北東壁に位置する。全長0.79m。火床面は焼土化が顕著である。底面には石を設置した痕跡とみられる小ピットが2本対になって検出される。カマド覆土は炭化物粒・焼土を含む黒褐色土である。 **柱穴** 4本主柱穴と推定され、内2基を検出した。P-1は径31×29cm、深さ24cm、P-2は径30×30cm、深さ36cmを測る。 **貯蔵穴** カマドの右側に位置する(D-1)。平面形は円形を呈し、径51×47cm、深さ6cmを測る。 **ピット** 4基を検出した(P-3~6)。P-3はやや位置がずれるが主柱穴の可能性もある。 **床面の状態** 全体的に縮まっており、特にカマド前から竪穴中央にかけて強く硬化している。基本層序V層を地床とする。 **壁溝** カマド敷設面を除いて全周すると推測される。幅5~9cm、深さ3~5cm。 **遺物** 須恵器皿・壺・碗、土師器甕などが少量出土した。床面直上の遺物は竪穴南西側の大形甕のみで、土器類は全て覆土下層からの出土である。カマド内から2の須恵器壺が、貯蔵穴下層から3の須恵器壺が出土した。1の須恵器高台付



第44図 H-12号住居址

皿と5の土師器甕は重複するH-3号住居址から出土した遺物だが、9世紀に比定されるため本住居址に記載した。 時期 9世紀後半と推定される。



第45図 H-12号住居址出土遺物

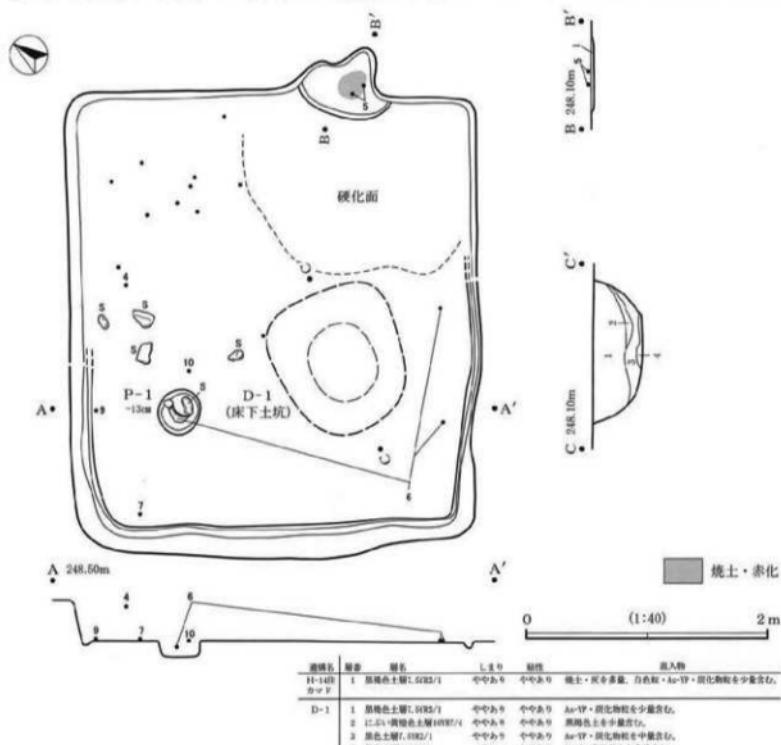
番号	器種	出土位置	法量(cm)	成・形態技法の特徴			
				①焼成	②色調	③粒土	④残存
1	須恵器 高台付皿	H-3住	口径(13.0) 底径(—) 器高(2.0)	①還元焰 ②灰色 ③白色粒	外面 内面	ロクロナダ。 ロクロナダ。	
2	須恵器 壺	No.8	口径(11.5) 底径(6.0) 器高(3.1)	①還元焰 ②灰色 ③白色粒、黒 色粒 ④1/4	外面 内面	ロクロナダ。 ロクロナダ。	
3	須恵器 壺	No.6	口径(14.0) 底径(7.9) 器高(7.5)	①酸化焰気味 ②灰黄色 ③白色 粒、褐色粒 ④1/2	外面 内面	ロクロナダ。 ロクロナダ。	
4	須恵器 壺	No.2, 1+2	口径(16.1) 底径(7.6) 器高(5.6)	①酸化焰氣味 ②灰白色 ③白色 粒 ④口縁部～体部2/3欠損	外面 内面	ロクロナダ。 ロクロナダ。	底面回転糸切り。 高台貼付時に周縁回転ナダ。
5	土師器 甕	H-3住	口径(17.0) 底径(—) 器高(8.4)	①良好 ②橙色 ③角閃石、白色 粒 ④口縁部～胴部上位1/5	外面 内面	口縫部ヨコナダ。 口縫部ヨコナダ。	胴部上位横方向のヘラケズリ。 胴部上位横方向のヘラナダ。
6	土師器 甕	No.3, 1区	口径(18.0) 底径(—) 器高(7.8)	①良好 ②橙色 ③角閃石、白色 粒 ④口縁部～胴部上位1/4	外面 内面	口縫部ヨコナダ。 口縫部ヨコナダ。	胴部上位横方向のヘラケズリ。 胴部上位横方向のヘラナダ。
7	土師器 甕	1区	口径(18.2) 底径(—) 器高(8.1)	①良好 ②橙色 ③白色粒、黒色 粒 ④口縁部～胴部上位1/3	外面 内面	口縫部ヨコナダ。 口縫部ヨコナダ。	胴部上位横方向のヘラケズリ。 胴部上位横方向のヘラナダ。

第25表 H-12号住居址出土遺物観察表

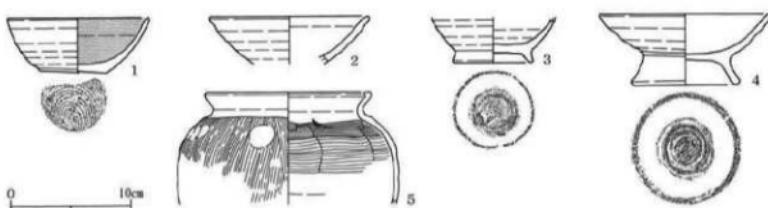
⑧H-14号住居址 (第46～48図、第26表、PL. 11・24)

位置 H-2～3、I-2～3グリッド。 重複 H-4・13・19号住居址と重複する。 新旧関係は古い方からH-13号住居址<H-19号住居址<本構造<H-4号住居址となる。 平面形態 東西にやや長い縦長長方形。 規模 長軸3.59m×短軸3.28m×深さ0.33m。 主軸方位 N-54° - E。 覆土 自然堆積と推測される。 As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。 カマド 北東壁の東寄りに位置する。 全長0.58m。 窓穴の壁ラインより外側で頗るな焼土面が検出される。 柱穴 未検出。 廉蔵穴 未検出。 床下土坑 1基を検出した(D-1)。 平面形は隅丸方形を呈し、径118×102cm、深さ42cmを測る。 ピット 1基を検出した。 P-1は径37cm×34cm、深さ13cmを測る。 覆土中層からロクロ甕(6)の口縁部破片が出土し、床面直上の破片と接合する。 床面の状態 全体的に縮まっており、特にカマド周辺は強く硬化している。 基本層V層を地床とする。 壁溝 窓穴の

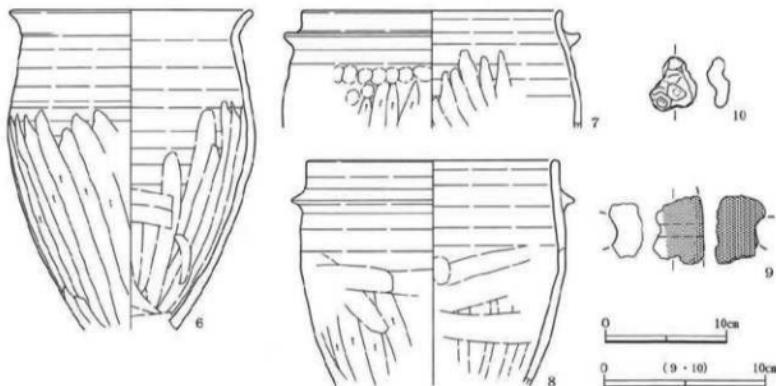
西半分で検出される。東半分は残存状態が悪く不明瞭である。幅4～10cm、深さ2～5cm。遺物土師器壺・須恵器壺・碗・甕・羽釜・灰釉陶器碗・壺・ロクロ甕・羽口・鉄滓などが少量出土した。床面直上の遺物は7の羽釜、9の羽口、10の鉄製品がある。カマド内からは5の粗いハケメが施される。



第46図 H-14号住居址



第47図 H-14号住居址出土遺物(1)



第48図 H-14号住居址出土遺物(2)

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②調色 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 壺	4区	口径(11.8) 底径 5.7 高さ 4.5	①焼成 ②にらむ黄褐色 ③白色 ④1/4	外面 ロクロナデ。底面右回転糸切り。 内面 ロクロナデ。 内面に黒色処理。
2	須恵器 壺	-	口径(13.3) 底径 - 高さ(2.9)	①焼成 ②褐色 ③白色粒、黒 色粒 ④口縁部～体部 1/4	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。
3	須恵器 瓶	-	口径 - 底径 6.5 高さ(2.6)	①焼成 味氣味 ②灰白色 ③雲母、 白色粒、小穂 ④体部下半～高台 部	外面 ロクロナデ。底面回転糸切りの後ナデ。高台貼付時に両縁 回転ナデ。 内面 ロクロナデ。
4	須恵器 瓶	No.22	口径(14.3) 底径 8.5 高さ 6.8	①焼成 味氣味 ②灰白色 ③白色 粒、黒色粒、褐色粒 ④口縁部～ 体部 4/5欠損	外面 ロクロナデ。底面ナデ消し。高台貼付時に両縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。
5	土師器 甕	No.7+8. -	口径(13.8) 底径 - 高さ(9.2)	①良好 ②にらむ黄褐色 ③白色 ④口縁部～胴部上半 1/3	口縁部ヨコナデ。胴部に縱方向の粗いハケメ。指頭圧痕。 内面 口縁部ヨコナデ。胴部上位に横方向の粗いハケメ、中位に 横方向のヘラナデ。
6	ロクロ甕	No.5・6・ 28、4区、 H-4・13位	口径(20.0) 底径 6 高さ(26.3)	①焼成 ②にらむ黄褐色 ③白 色粒、褐色粒 ④口縁部～胴部 1/3	外面 ロクロナデ。胴部中位～下位に縱方向のヘラケズリ。 内面 ロクロナデ。胴部中位～下位に縦、横方向のヘラナデ。 破片単位で二次焼熱を受けた。
7	須恵器 羽釜	No.1	口径(21.7) 底径 - 高さ(9.6)	①焼成 ②にらむ褐色 ③白色 ④口縁部～胴部上半 1/5	外面 ロクロナデ。胴部に縱方向のヘラケズリ・指頭圧痕。貼付材。 内面 ロクロナデ。胴部に縦方向のヘラナデ。
8	須恵器 羽釜	H-13住	口径(21.0) 底径 - 高さ(18.5)	①焼成 ②黄灰色 ③白色粒、 黒色粒 ④口縁部～胴部 1/4	外面 ロクロナデ。胴部に縦方向のヘラケズリ・横・斜方向のヘ ラナデ。貼付材。 内面 ロクロナデ。胴部に縦方向～横方向のヘラナデ。指頭圧痕。
番号	器種	出土位置	法量(cm, g)	②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考	
9	羽口 甕	No.2	①長さ(3.2), 幅4.2, 厚さ1.6, 重量28.95	②色調: 淡黄褐色。胎土: 石英、白色粒 ③破片 ④ナデ整形。上 面はガラス質、その下は熟色。	
10	鉄鋤	No.3	①長さ3.4, 幅3.0, 厚さ1.4, 重量13.39	②鉄質 ③完形 ④-	

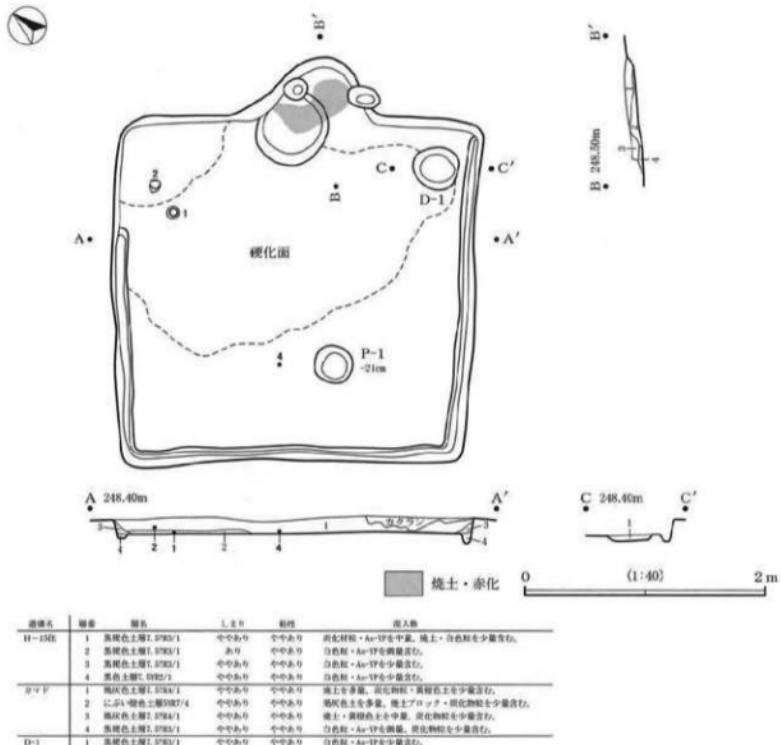
第26表 H-14号住居址出土遺物観察表

土師器甕が出土した。8の羽釜は重複するH-13号住居址から出土した遺物だが、10世紀に比定されるため本住居址に記載した。 時期 10世紀後半と推定される。

⑨H-15号住居址 (第49・50図、第27表、PL. 11・24)

位置 H-2、I-2～3グリッド。 重複 D-6号土坑と重複し、本遺構が古い。 平面形態 方形。

規模 長軸 2.95 m × 短軸 2.73 m × 深さ 0.14 m。 主軸方位 N-53° - E。 覆土 自然堆積と推



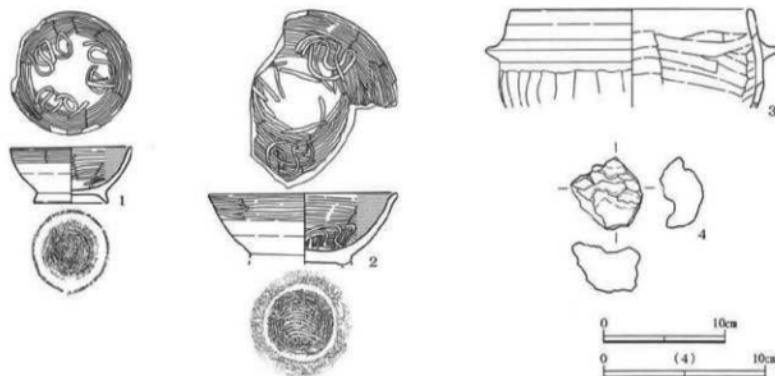
第49図 H-15号住居址

番号	器種	出土位置	法量 (cm)	①施成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 瓶	No. 2	口径 10.1 底径 6.0 器高 4.5	①酸化焰 ②にいし銀色 ③石英、 白色粒、黒色粒 ④口縁部 1/4欠	外面 ロクロナデ。口縁部に横方向のミガキ。底面回転糸切り。 高台貼付時に周縁回転ナデ。
2	須恵器 瓶	No. 1	口径 (15.7) 底径 一 器高 (5.9)	①酸化焰 ②にいし銀色 ③石英、 白色粒、黒色粒 ④口縁部～ 本部 3/4欠損、高台欠損	外面 ロクロナデ。口縁部に横方向のミガキ。底面回転糸切り。 高台貼付時に周縁回転ナデ。
3	須恵器 羽蓋	4区	口径 (20.3) 底径 一 器高 (8.1)	①酸化焰 ②暗色 ③白色粒、黑 色粒 ④口縁部～胴部上位 1/3	外面 ロクロナデ。頸部に縱方向のヘラケズリ。縫貼付。 内面 ロクロナデ。頸部に横方向のヘラナデ。
番号	器種	出土位置	法量 (cm, g)	②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考	
4	铁津	No. 3	①長さ 4.5、幅 4.5、厚さ 3.1、重量 62.28	②鉄製 ③一部欠損 ④一	

第27表 H-15号住居址出土遺物観察表

測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。 カマド 北東壁の中央に位置する。全長 0.88 m。カマド内に堆積するにぶい橙色粘質土と褐灰色土の混土は構築土と推測される。堅穴の壁ラインより外側に顕著な焼土面が検出される。小ピットが 2 本対になって検出され（北側：径 20 × 18 cm、深さ 5 cm、南側：径 27 × 17 cm、深さ 5 cm）、石を設置した痕跡と推測される。 柱穴 未検出。 貯蔵穴 カマドの右側に位置する（D-1）。平面形は円形を呈し、径 38 × 35 cm、深さ 4 cm を測る。

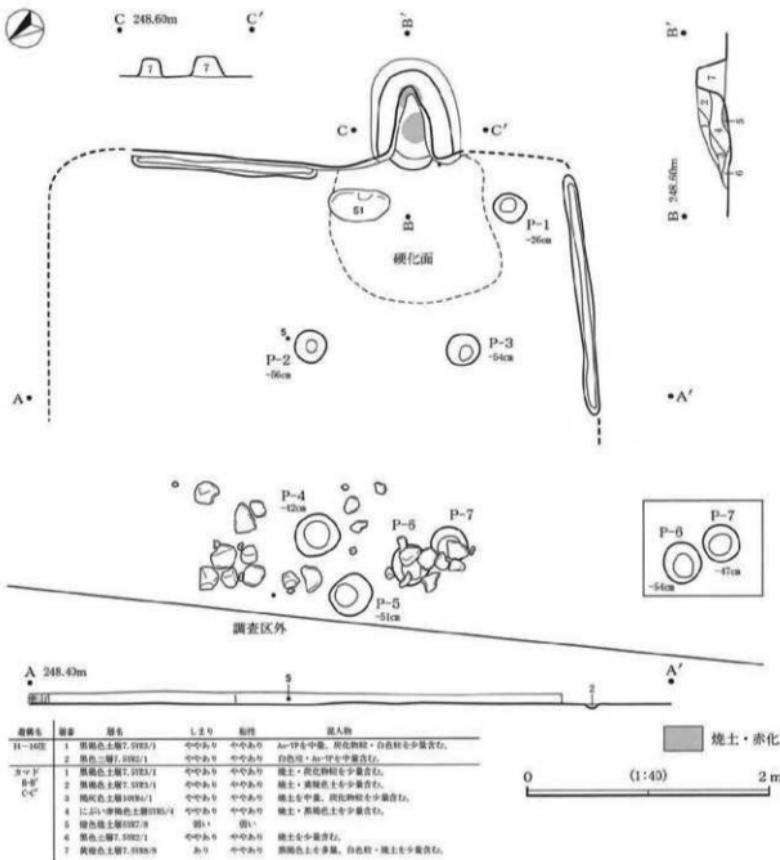
ピット 1 基を検出した。P-1 は径 31 × 31 cm、深さ 21 cm を測る。 床面の状態 全体的に縮まつており、特にカマド前から堅穴中央にかけて強く硬化している。基本層序 V 層を地床とする。 壁溝 カマド敷設面を除いてほぼ全局する。幅 6 ~ 9 cm、深さ 3 ~ 5 cm。 遺物 須恵器碗・羽釜・鉄滓などがわずかに出土した。床面直上の遺物には 1 の須恵器碗と 4 の鉄滓がある。1 はほぼ完形で、逆位の状態で出土した。 時期 10 世紀後半と推定される。



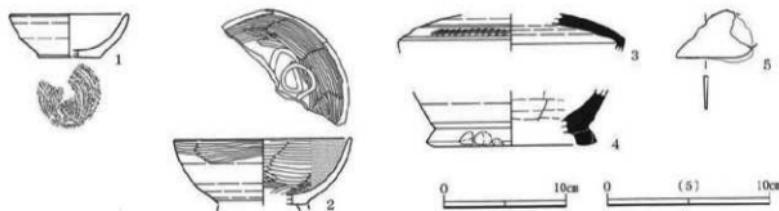
第 50 図 H-15 号住居址出土遺物

⑩H-16 号住居址（第 51・52 図、第 28 表、PL. 12・24）

位置 I-1~2、J-1 グリッド。 重複 M-6 号溝と重複し、本構造が古い。 平面形態 挖り込みが捉えられず不明である。 規模 南北軸 3.85 m 以上 × 東西軸 2.00 m 以上 × 深さ 0.10 m。 主軸方位 N-118° - E。 覆土 自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。 カマド 南東壁に位置する。全長 0.69 m。壁外を梢円状に掘り込み、その内側に黄橙色粘質土と黒褐色土の混土を貼り付けて成形している。焚口天井石と思われる安山岩（S1：長さ 50 cm、幅 26 cm、厚さ 14 cm）がカマド手前の床面上で出土しており、構築材には石も使用されていた可能性がある。火末面と煙道部内壁は焼土化が顕著である。 柱穴 未検出。 貯蔵穴 未検出。 ピット 7 基を検出した（P-1～7）。P-1 を除いて深さ 40 ~ 50 cm 台の深いピットであるが、P-4 ~ 7 については確実に住居に伴うか不明である。 床面の状態 カマド周辺では硬化面を確認できるが、それ以外の縮まりは弱い。基本層序 V 層を地床とする。 壁溝 南壁および東壁下で一部検出される。幅 6 ~ 11 cm、深さ 2 ~ 5 cm。 遺物 須恵器壺・碗・壺、鉄製品などがわずかに出土した。1 の須恵器壺と 2 の須恵



第51図 H-16号住居址



第52図 H-16号住居址出土遺物

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 壺	カマド、 2区	口径 9.8 底径 5.1 器高 3.5	①酸化焰 ②褐色 ③白色粒、黒 色粒、褐色粒 ④口縁部～体部 1/3	外面 ロクロナダ。底面右回転糸切り。 内面 ロクロナダ。
2	須恵器 瓶	カマド	口径 (14.7) 底径 — 器高 (5.4)	①酸化焰 ②褐色 ③白色粒、黒 色粒、褐色粒 ④口縁部～体部 1/3	外面 ロクロナダ。口縁部に横方向のミガキ。底面は調整不明。 内面 ロクロナダ。口縁部～体部に横方向のミガキ～体部に螺旋 状のミガキ。 内面に 黒色處理。
3	須恵器 長頸壺	2区	口径 (3.0) 底径 (3.1)	①還元焰 (やや軟質) ②灰白色 ③白色粒、黒色粒 ④肩部破片	外面 ロクロナダ。肩部の横位沈線 2条の間に、6条 1単位の横 斜工具による刺突穴。 内面 ロクロナダ。
4	須恵器 壺	腰り方	口径 (12.9) 底径 (4.5)	①還元焰 ②灰白色 ③白色粒	外面 ロクロナダ。高台貼付時に周縁回転ナダ。高台部に棒状工 具による押印。 内面 ロクロナダ。肩部下端に横方向のヘラナダ。
番号	器種	出土位置		①法量(cm,g) ②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考	
5	鉄製品	No.1	①長さ 4.8、幅 2.9、厚さ 0.3、重量 13.67	②鉄製 ③破片 ④—	

第28表 H-16号住居址出土遺物観察表

器碗はカマド内からの出土である。3・4の須恵器壺は粉れ込みである。なお、調査区際に自然礫が集中するが、竪穴の範囲が不明瞭なため、本住居址に伴うかは不明である。 時期 10世紀後半と推定される。

(1)H-17号住居址(第53・54図、第29表、PL. 12・24)

位置 J-3、K-3グリッド。 重複 H-18号住居址、D-3号土坑と重複し、本遺構が最も古い。

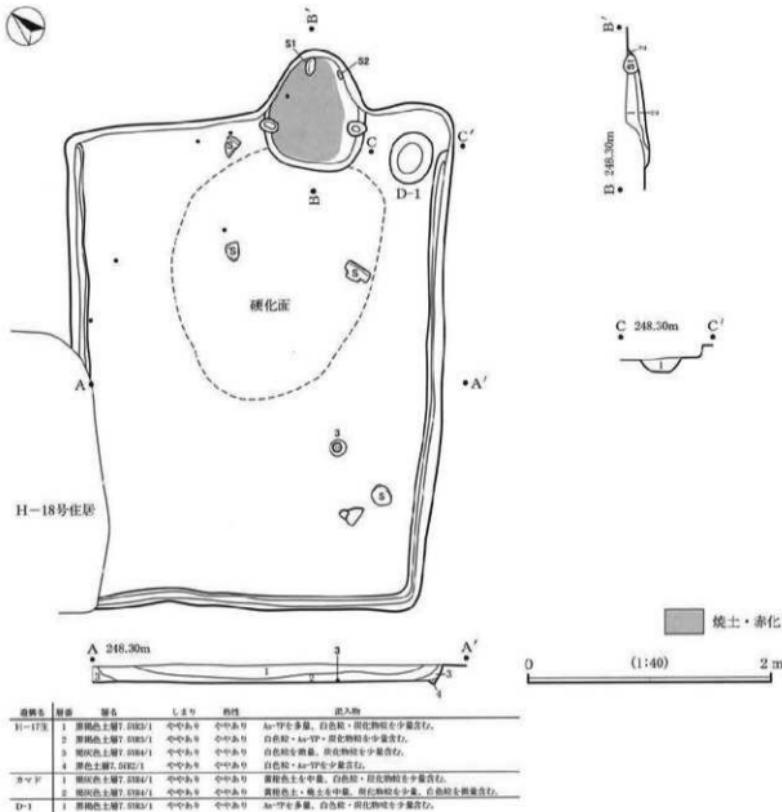
平面形態 東西に長い縱長長方形。 規模 長軸 3.93 m × 短軸 2.94 m × 深さ 0.15 m。 主軸方位 N-47° - E。 覆土 自然地積と推測される。 As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。

カマド 北東壁の東寄りに位置する。全長 0.98 m。煙道部に安山岩が2石設置される(S1・2)。同様に石を据えたと思われる小ピットが2基対になって検出される。底面は焼土化が顕著である(北側: 径 15 × 11 cm、深さ 1 cm、南側: 径 16 × 12 cm、深さ 2 cm)。 柱穴 未検出。 貯蔵穴 カマドの右側に位置する(D-1)。平面形は梢円形を呈し、径 42 × 35 cm、深さ 9 cm を測る。 床面の状態 全体的に締まっており、特にカマド前から竪穴中央にかけて強く硬化している。基本層V層を地床とする。

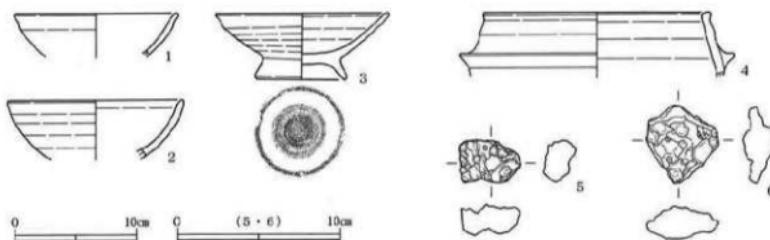
壁溝 カマド敷設面を除いて全周すると推定される。幅 4 ~ 8 cm、深さ 2 ~ 4 cm。 遺物 須恵器壺・碗・羽釜、鉄滓などがわずかに出土した。2の須恵器壺はカマド内から出土した。3の完形の須恵器碗は床面直上より逆位の状態で出土した。 時期 10世紀後半と推定される。

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 壺	4区	口径 (13.6) 底径 — 器高 (3.5)	①酸化焰 ②にぶい褐色 ③白色 粒、褐色粒 ④口縁部～体部 1/3	外面 ロクロナダ。 内面 ロクロナダ。
2	須恵器 壺	カマド、 カマド前 腰り方	口径 (14.6) 底径 — 器高 (4.8)	①酸化焰 ②にぶい黄褐色 ③白 色粒 ④口縁部～体部 1/3	外面 ロクロナダ。 内面 ロクロナダ。
3	須恵器 瓶	No.2	口径 14.3 底径 7.2 器高 5.5	①酸化焰灰釉 ②灰白色 ③白色 粒、黒色粒 ④口縁部完形	外面 ロクロナダ。底面ナダ消し。高台貼付時に周縁回転ナダ。 内面 ロクロナダ。
4	須恵器 羽釜	J3グリッ ド2・3面 一括	口径 (18.8) 底径 — 器高 (5.2)	①酸化焰 ②褐色 ③白色粒、黒 色粒 ④口縁部 1/3	外面 ロクロナダ。鉗貼付。 内面 ロクロナダ。
番号	器種	出土位置		①法量(cm,g) ②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考	
5	鉄滓	一括	①長さ 2.7、幅 3.5、厚さ 2.0、重量 26.25	②鉄製 ③完形 ④—	
6	鉄滓	一括	①長さ 4.8、幅 4.5、厚さ 2.0、重量 39.75	②鉄製 ③完形 ④—	

第29表 H-17号住居址出土遺物観察表



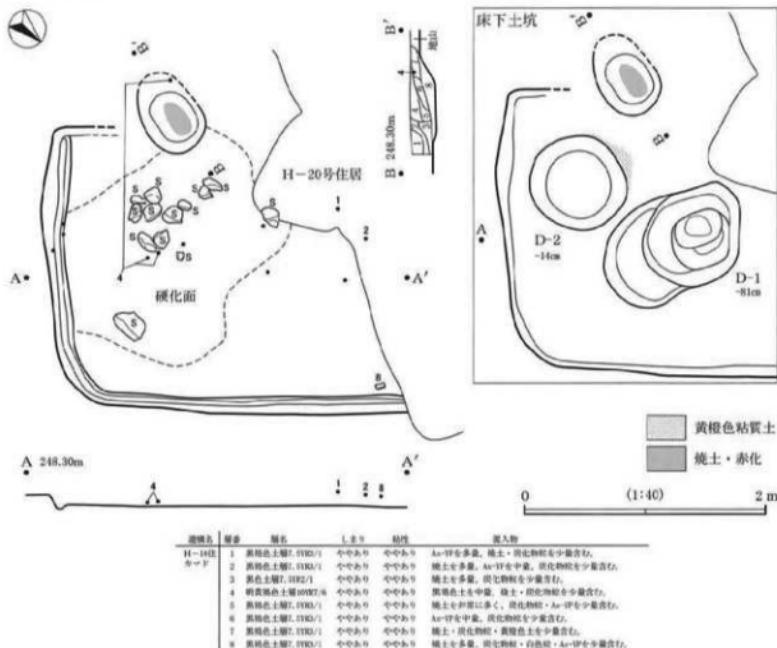
第53図 H-17号住居址



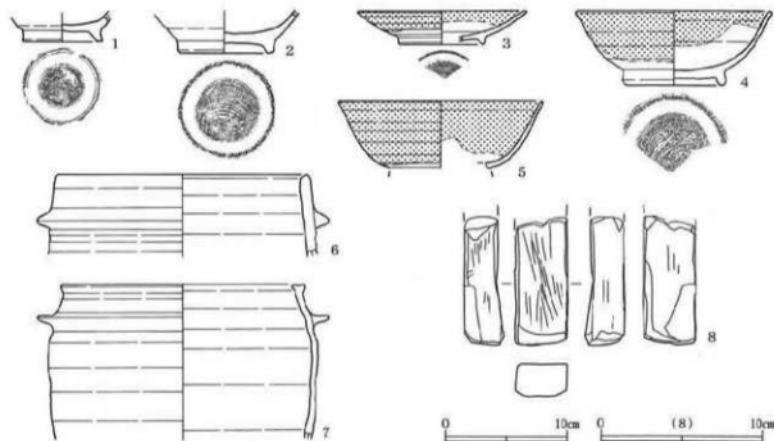
第54図 H-17号住居址出土遺物

⑩H-18号住居址（第55・56図、第30表、PL. 13・25）

位置 J-2~3、K-2グリッド。 **重複** H-17・20号住居址と重複し、本遺構が最も新しい。 **平面形態** 東西にやや長い横長長方形と推測される。 **規模** 長軸2.90m以上×短軸2.31m×深さ0.28m。 **主軸方位** N-134°-W。 **覆土** 自然堆積と推測される。 As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。 **カマド** 南西壁の東寄りに位置する。竪穴の壁に対して119°東に傾く。全長0.71m。カマド手前の床面上から多数の安山岩が出土しており、構築材に石が使用されていた可能性がある。カマド覆土中の明黄褐色粘質土と黒褐色土の混土は構築土と推測される。底面は焼土化が顕著である。 **柱穴** 未検出。 **貯蔵穴** 未検出。 **床下土坑** 2基検出された（D-1・2）。D-1は平面梢円形を呈し、径118×79cm、深さ81cmを測る。D-2は平面円形を呈し、径81×79cm、深さ14cmを測る。D-1の覆土中から土器と鉄製品の破片が出土した。 **床面の状態** 全体的に締まっており、特にカマド前から竪穴中央にかけて強く硬化している。基本層序V層を地床とする。 **壁構造** カマド敷設面を除いて全周すると推測される。幅6~11cm、深さ2~5cm。 **遺物** 須恵器碗・羽釜、灰釉陶器皿・碗、砥石などが少量出土した。遺物は覆土中層～下層からの出土で、床面直上の遺物はみられない。カマド内からは4の灰釉陶器碗と7の羽釜が出土した。4は覆土下層の破片と接合している。 **時期** 10世紀後半期と推定される。



第55図 H-18号住居址



第 56 図 H-18 号住居址出土遺物

番号	器種	出土位置	法量(cm)	成・整形技法の特徴			
				①施成	②色調	③胎土	④残存
1	須恵器 瓶	No. 13	口径 — 底径 (6.6) 器高 (2.4)	①施化焰	②灰黃褐色	③白色粒	外面 ロクロナダ。底面回転糸切り。高台貼付時に周縁回転ナダ。 内面 ロクロナダ。
2	須恵器 瓶	No. 11	口径 — 底径 7.9 器高 (3.5)	①施化焰	②灰黃色	③白色粒、 小雜	④部下位～高台部 外面 ロクロナダ。底面回転糸切り。高台貼付時に周縁回転ナダ。 内面 ロクロナダ。
3	灰釉陶器 瓶	一括	口径 (14.0) 底径 (6.9) 器高 2.7	①還元焰	②胎土：灰白色。 釉薬：灰白色	③白色粒	④1/4 外面 ロクロナダ。底面回転へラケズリ。高台貼付時に周縁回転ナダ。 内面 ロクロナダ。/ 内外面に灰釉漬け掛け。
4	灰釉陶器 瓶	No. 4 + 5 • 15	口径 (16.3) 底径 (8.0) 器高 6.1	①還元焰	②胎土：灰白色。 釉薬：灰白色	③白色粒	④1/3 外面 ロクロナダ。底面不明瞭。高台貼付時に周縁回転ナダ。 内面 ロクロナダ。 内外面に灰釉漬け掛け。
5	灰釉陶器 瓶	一括、 J1: グリッパ ド 3面	口径 (17.0) 底径 — 器高 (5.5)	①還元焰	②胎土：灰白色。 釉薬：灰白色	③白色粒	④口 縁部一部 1/3 外面 ロクロナダ。体部下半に回転へラケズリ。 内面 ロクロナダ。 内外面に灰釉漬け掛け。
6	須恵器 羽釜	J1: グリッパ ド 3面	口径 (21.1) 底径 — 器高 (6.7)	①施化焰	②に赤い黄褐色	③白 色粒	④口縁部～胴部上位 1/3 外面 ロクロナダ。鈎貼付。 内面 ロクロナダ。
7	須恵器 羽釜	カマド	口径 (20.3) 底径 — 器高 (12.7)	①施化焰	②に赤い黄褐色	③石 英、白色粒、黒色粒	④口縁部～ 胴部上半 1/5 外面 ロクロナダ。鈎貼付。 内面 ロクロナダ。
番号	器種	出土位置	①法量(cm, g)	②材質	③残存	④成・整形技法の特徴	⑤備考
8	砥石	No. 14	①長さ <8.0>, 幅 3.3, 厚さ 2.0, 重量 99.10	②砥沢石	③上端部欠損	④裏面として 4 面を使用。非常に平滑。	擦痕が認められる。

第 30 表 H-18 号住居址出土遺物観察表

⑩H-19 号住居址 (第 57・58 図、第 31 表、PL. 12・25)

位置 H-2～3グリッド。 **重複** H-4・13・14 号住居址と重複する。新旧関係は古い方から H-13 号住居址 < 本遺構 < H-14 号住居址 < H-4 号住居址となる。 **平面形態** 東西にやや長い横長長方形。 **規模** 長軸 3.09 m × 短軸 2.89 m × 深さ 0.31 m。 **主軸方位** N-34° - E。 **覆土** 自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。 **カマド** 北東壁の東寄りに位置する。全長 0.85 m。石を据えた痕跡とみられる小ピットが 2 基検出される (西側 : 径 18 ×

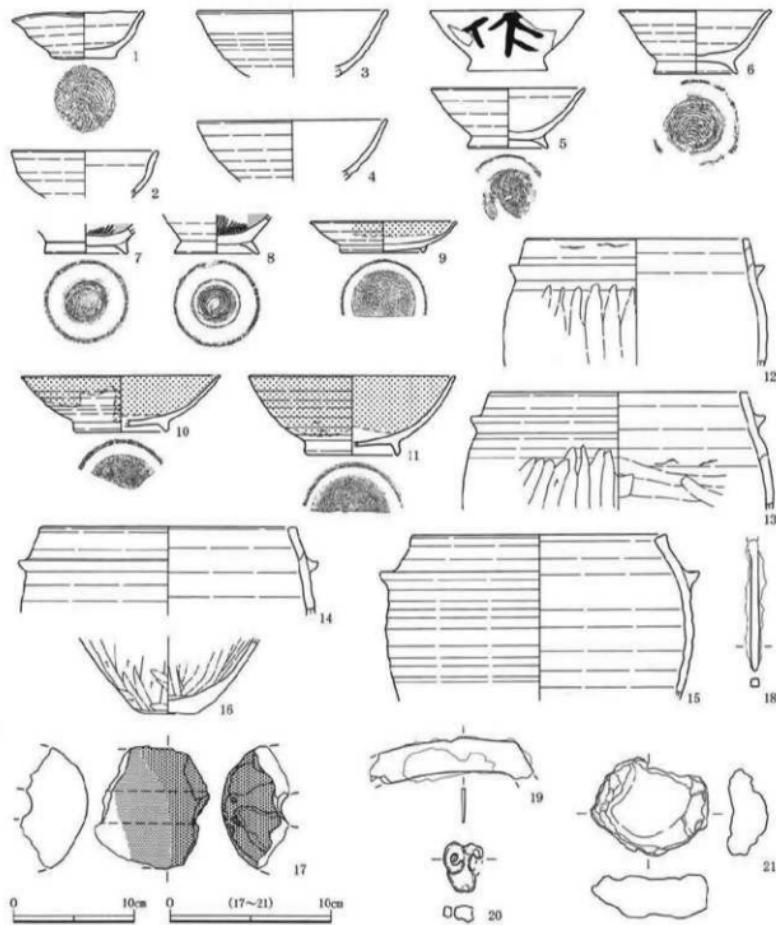
16 cm、深さ 4 cm、北側：径 14 × 11 cm、深さ 13 cm)。火床面は焼土化が顕著である。柱穴 未検出。

貯蔵穴 カマドの右側の D-1 が相当すると思われる。平面形は梢円形を呈し、径 131 × 81 cm、深さ 17 cm を測る。ピット 1 基を検出した (P-1)。径 25 × 25 cm、深さ 7 cm を測る。床面の状態 全体的に締まっており、特にカマド周辺が強く硬化している。基本層序 V 層を地床とする。壁溝 積穴の南半分をめぐる。幅 9 ~ 19 cm、深さ 2 ~ 7 cm。遺物 土師器坏・甕、須恵器坏・碗・羽釜、灰釉陶器碗・皿、羽口、鉄製品、鐵滓などが少量出土した。床面直上の遺物は 21 の鐵滓のみである。カマド内からは 13 の羽釜破片が、D-1 からは 1・2 の須恵器坏・碗、6 の須恵器碗、19 の鉄製品が出土した。5 の須恵器碗は墨書き器で、「作」と判読できる。時期 10 世紀第 3 四半期と推定される。



遺物名	層号	層名	しまり	特徴	出土物
H-19住	1	黒褐色土層 3182/1	ややあり	ややあり	灰・VPを中量、白灰板・焼化物粒を少量含む。
	2	黒褐色土層 3183/1	ややあり	ややあり	灰・VPを多量、焼化物粒を少量含む。
	3	黒褐色土層 3183/1	あり	ややあり	灰・VPを少量、焼化物粒を無量含む。
	4	黒褐色土層 3182/1	ややあり	ややあり	灰・VP・焼化物粒を少量含む。
	5	黒褐色土層 3182/1	ややあり	ややあり	灰・VP・焼化物粒を微量含む。
カマド 掘り方	1	黑色土層 3182/1	ややあり	ややあり	
	2	赤褐色土層 3183/6	なし	なし	
	3	にじみ黒褐色土層 3186/4	ややあり	ややあり	黒褐色土を多量含む。
	4	黒褐色土層 3183/1	ややあり	ややあり	黒土・焼化物粒を多量含む。
	5	にじみ黒褐色土層 3183/4	ややあり	ややあり	黒褐色土・焼化物粒を少量含む。
	6	黒褐色土層 3183/1	ややあり	ややあり	地面上を網目含む。
	7	黒褐色土層 3183/1	あり	ややあり	地面上を少量含む。
	8	浅褐色土層 3186/4	ややあり	ややあり	地面上を少量含む。
D-1	1	褐褐色土層 3182/3	ややあり	ややあり	灰・VP・焼化物粒を多量、焼土を少量含む。
	2	褐褐色土層 3184/1	ややあり	ややあり	灰・VP・焼化物粒を多量、焼土を少量含む。

第 57 図 H-19 号住居址



第 58 図 H-19 号住居址出土遺物

⑩H-21号住居址（第27・28・59図、第32表、PL. 13・25）

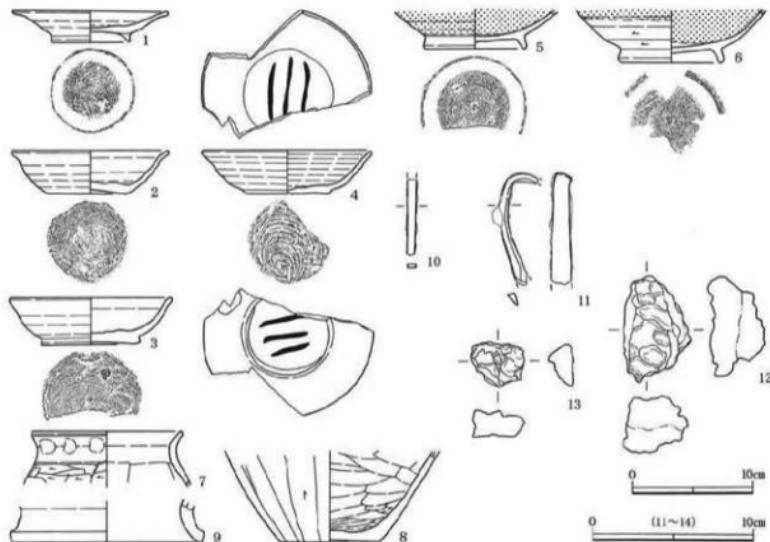
位置 J-1~2, K-1~2グリッド。重複 H-20号住居址、M-6号溝と重複する。新旧関係は古い方からH-20号住居址<本遺構<M-6号溝となる。平面形態 H-20号住居址と入れ子状に重複し、南壁断面のみの確認となつたため不明である。規模 北西-南東軸 2.96 m、深さ 0.36 m。

覆土 自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。ピット

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	
					外面	内面
1	須恵器 壺	No.7	口径 11.0 底径 5.4 高さ 3.9	①焼成化粧 ②にいぶり黄褐色 ③白色 白色粒、小難 ④口縁部一部 大根	外面 ロクロナダ。底面右回転糸切り。 内面 ロクロナダ。	
2	須恵器 碗	No.6, 1+2区	口径 (12.3) 底径 (5.4) 高さ (3.9) 1/2	①還元焰(やや軟弱) ②灰白色 ③白英、白色 ④口縁部~体部 器底	外面 ロクロナダ。 内面 ロクロナダ。	
3	須恵器 碗	2区	口径 (15.9) 底径 (5.4) 高さ (5.4)	①還元焰(やや軟弱) ②灰白色 ③白色粒、黒色粒 ④口縁部~体部 器底	外面 ロクロナダ。 内面 ロクロナダ。	
4	須恵器 碗	1区	口径 (15.8) 底径 (5.2) 高さ (5.2)	①還元焰(やや軟弱) ②灰白色 ③黒色粒 ④口縁部~体部 1/3	外面 ロクロナダ。 内面 ロクロナダ。	
5	須恵器 碗	2区	口径 (12.7) 底径 (6.6) 高さ 5.6	①焼成化粧 ②灰黄色 ③雲母、白 色粒、黒色粒 ④1/3	外面 ロクロナダ。底面回転糸切りの後ナダ。高台貼付時に周縁 回転ナダ。 内面 ロクロナダ。 外面に墨書き、「作」か。	
6	須恵器 碗	No.9	口径 (12.7) 底径 (6.9) 高さ 5.3	①焼成化粧(やや軟弱) ②灰黄色 ③白色粒、黒色粒 ④1/2	外面 ロクロナダ。底面回転糸切り。高台貼付時に周縁回転ナダ。 内面 ロクロナダ。	
7	須恵器 碗	2区	口径 (16.1) 底径 6.9 高さ (2.4)	①焼成化粧 ②極端 ③白色粒、褐 色粒 ④体部下位 1/5、高台部完 形	外面 ロクロナダ。底面ナダ消し。高台貼付時に周縁回転ナダ。 内面 ロクロナダ。体部~底面に放射状のミガキ。 外面に黑色處理。	
8	須恵器 碗	1区	口径 (16.6) 底径 7.6 高さ (3.2)	①焼成化粧 ②にいぶり褐色 ③賞母、 白色粒 ④体部下位 1/6、高台部完 形	外面 ロクロナダ。底面回転ヘラケズリ。高台貼付時に周縁回転 ナダ。 内面 ロクロナダ。体部は放射状のミガキ。底面は一方のミガキ。 外面に黑色處理。	
9	灰釉陶器 皿	2区	口径 (12.2) 底径 6.9 高さ 2.5	①還元焰 ②断上: 灰白色、釉裏: 灰白色 ③白色粒 ④1/3	外面 ロクロナダ。底面回転ヘラケズリ。 内面 ロクロナダ。/内外面に灰釉漬け掛け。	
10	灰釉陶器 碗	H-14住No. 19	口径 (16.6) 底径 (7.5) 高さ 4.6	①還元焰 ②断上: 灰白色、釉裏: 灰白色 ③白色粒 ④1/4	外面 ロクロナダ。底面回転糸切り。高台貼付時に周縁回転ナダ。 内面 ロクロナダ。 外面上に灰釉漬け掛け。	
11	灰釉陶器 碗	No.3	口径 (17.2) 底径 (7.0) 高さ 6.5	①還元焰 ②断上: 灰白色、釉裏: 灰白色 ③白色粒 ④1/3	外面 ロクロナダ。体部下位に回転ヘラケズリ。底面回転ヘラケ ズリ。高台貼付時に周縁回転ナダ。 内面 ロクロナダ。/内外面に灰釉漬け掛け。	
12	須恵器 羽釜	2区	口径 (18.5) 底径 (12.6) 高さ (10.5)	①還元焰 ②灰色 ③白色粒 ④口縁部~胴部上半 1/8	外面 ロクロナダ。胴部に横方向のヘラナダ。脚貼付。 内面 ロクロナダ。胴部ヘラナダが不明瞭。	
13	須恵器 羽釜	H-14住No. 9	口径 (21.4) 底径 (9.8) 高さ (7.3)	①還元焰 ②灰白色 ③白色粒、 小難 ④口縁部~胴部上位 1/8	外面 ロクロナダ。胴部に縱方向のヘラケズリ。脚貼付。 内面 ロクロナダ。胴部に横方向のヘラナダ。	
14	須恵器 羽釜	1区	口径 (21.6) 底径 (7.3) 高さ (7.3)	①還元焰 ②灰色 ③白色粒 ④口縁部~胴部上位 1/8	外面 ロクロナダ。脚貼付。 内面 ロクロナダ。	
15	須恵器 羽釜	H-14住No. 20, H-4- 13住	口径 (21.4) 底径 (13.6) 高さ (13.6)	①焼成化粧 ②にいぶり黄褐色 ③白 色粒、小難 ④口縁部~胴部上半 1/2	外面 ロクロナダ。脚貼付。 内面 ロクロナダ。	
16	須恵器 羽釜	No.4, H2グリッ ド面3	口径 (4.5) 底径 (6.3) 高さ (6.3)	①焼成化粧 ②にいぶり褐色 ③白色 粒 ④胴部下位~底部	外面 胴部に縦・横方向のヘラケズリ→縦・斜方向のヘラナダ。 底部ヘラケズリ。 内面 胴部に縦方向のヘラナダ。底部ヘラナダ。	
番号	器種	出土位置		⑤法量(cm, g) ⑥材質 ⑦残存 ⑧成・整形技法の特徴 ⑨備考		
17	羽口	H-14住No. 26	長さ 9.7, 幅 7.6, 厚さ 0.4, 重さ 172.66	②色調: 淡黄褐色、胎土: 石英、白色粒 ③頸片 ④ナダ整形。 上面はガラス質。その下は熟變色。		
18	鉄製品 不明	No.1	長さ 9.8, 幅 0.5, 厚さ 0.5, 重さ 11.40	②鉄製 ③端部欠損 ④断面方形		
19	鉄製品 不明	D-1	①長さ <10.4, 幅 2.4, 厚さ 0.2, 重さ 11.40	②鉄製 ③両端部欠損 ④縫合		
20	鉄製品 不明	H-14住No. 13	①長さ 3.1, 幅 2.5, 厚さ 1.2, 重さ 9.58	②鉄製 ③一部欠損 ④-		
21	鉄滓	No.2	①長さ 6.2, 幅 7.5, 厚さ 2.8, 重さ 148.25	②鉄製 ③一部欠損 ④-		

第31表 H-19号住居址出土遺物観察表

壁断面で1基を検出した(P-1)。径 38 × 35 cm以上、深さ 33 cmを測る。床面の状態 概ね水平で、基本層序V層を地床としている。壁溝 壁断面で確認される。幅7~8 cm、深さ5~6 cm。遺物須恵器壺・碗・高台付皿・羽釜・瓶・灰釉陶器皿・碗・土師器甕・鐵製品・鐵滓などが少量出土した。4は須恵器壺で内外底面に墨書きが認められる。「三」ないし「川」と判読できる。なお、7の土師器甕と8の羽釜はH-18号住居址出土の破片と接合している。時期 9世紀末~10世紀初頭と推定される。



第 59 図 H-21 号住居址出土遺物

番号	器種	出土位置	法量 (cm)	①施成 ②色調 ③始土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 高台付皿	No. 9	口径 13.0 底径 6.5 器高 2.7	①還元焰 ②灰褐色 ③白色粒 ④口縁部 1/3 大損	外面 ロクロナダ。底面回転糸切り。高台貼付時に周縁回転ナダ。 内面 ロクロナダ。
2	須恵器 环	No. 8	口径 (13.2) 底径 6.6 器高 3.6	①還元焰 ②灰褐色 ③白色粒 ④口縁部一全体 2/3 大損	外面 ロクロナダ。底面右回転糸切り。 内面 ロクロナダ。
3	須恵器 环	一括	口径 (13.6) 底径 8.2 器高 3.9	①還元焰 (やや軟質) ②灰褐色 ③白色粒 ④2/3	外面 ロクロナダ。底面回転糸切り。 内面 ロクロナダ。
4	須恵器 环	一括	口径 (14.2) 底径 6.8 器高 3.6	①酸化焰 ②オリーブ黒色 ③チャート ④2/3	外面 ロクロナダ。底面右回転糸切り。 内面 ロクロナダ。
5	灰釉陶器 碗	No. 5	口径 一 底径 8.2 器高 (3.2)	①還元焰 ②胎土: 灰白色。釉面: 灰褐色 ③白色粒 ④体部～高台 部 2/3	外面 ロクロナダ。底面回転ヘラケズリ。 内面 ロクロナダ。内外面に灰釉ハケ跡り。
6	灰釉陶器 碗	一括	口径 一 底径 (8.3) 器高 (4.4)	①還元焰 ②胎土: 灰白色。釉面: 明オーバーカ色 ③白色粒 ④体 部～高台部 1/4	外面 ロクロナダ。体部下位に回転ヘラケズリ。底面回転ヘラケ ズリ。高台貼付時に周縁回転ナダ。 内面 ロクロナダ。内外面に灰釉ハケ跡り。
7	土器器 甕	一括, H-18 住	口径 (12.6) 底径 8.3 器高 (<4.6)	①良好 ②明褐色 ③白色粒、黑色粒 ④口縁部～胴部上位 1/4	外面 口縁部ヨコナダ、指添正氣。胴部上位に横方向へヘラケズリ。 内面 口縁部ヨコナダ。胴部上位に横方向へのラナダ。
8	須恵器 羽釜	No. 7, H-18 住附 9 方	口径 一 底径 8.3 器高 (7.5)	①酸化焰 ②浅黄褐色 ③白色粒。 黒色粒 ④脚部下位～底部	外側に縱方向へヘラケズリ。底部ナダ消し。 内側 脚部に横方向のヘラナダ。底部ヘラナダ。
9	須恵器 甄	KI グリッ P 3 面	口径 (16.1) 底径 (3.5)	①酸化焰 ②褐灰色 ③白色粒。 黑色粒 ④脚部 1/4	外側 ロクロナダ。 内側 ロクロナダ。

番号	器種	出土位置	法量 (cm, g)	②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考
10	鉄製品	No. 3	①長さ (4.7)、幅 0.6、厚さ 0.2、重量 2.45	②鉄製 ③脚部欠損 ④鉄錆々。断面長方形
11	鉄製品	No. 4	①長さ (7.0)、幅 1.3、厚さ 0.6、重量 12.25	②鉄製 ③両端部欠損 ④刀装金具カ
12	鉄斧	一括	①長さ 6.6、幅 3.4、厚さ 3.6、重量 19.23	②鉄製 ③完形 ④サビ跡れ
13	鉄斧	一括	①長さ 3.8、幅 3.4、厚さ 1.7、重量 21.66	②鉄製 ③一部欠損 ④-

第 32 表 H-21 号住居址出土遺物観察表

第4節 中世

(1) 溝

①M-1号溝 (第60・61図、第33表、PL. 14・26)

位置 D-1~4、E-1~2グリッド。重複 H-8・9b号住居址と重複し、本遺構が新しい。形態 北西-南東方向へ直線的に走向する。断面形は逆台形状を呈する。底面は概ね水平で、凹凸がみられる。規模 上端幅62~96cm、下端幅47~82cm、深さ26~40cm。走向方位 N-67°-W。覆土 As-Bを含む黒褐色土である。断面観察から2回の掘り返しが確認できる。古い方からM-1a→b→cとなる。遺物 土師器壺・甕、須恵器壺・甕、灰釉陶器、繩文土器の破片、薦福石が少量出土した。1の須恵器壺は外底面に墨書きが認められるが、判読は不明である。時期 中世と想定される。

②M-2号溝 (第62図、PL. 14)

位置 E-1~2グリッド。重複 H-2・8号住居址と重複し、本遺構が新しい。形態 北西-南東方向へ走向する。断面形は箱状を呈する。底面は概ね水平で、やや凹凸がみられる。規模 長さ2.66m、上端幅71~76cm、下端幅55~62cm、深さ20~24cm。走向方位 N-58°-W。覆土 As-Bを大量に含む褐灰色土で、人為堆積と推測される。遺物 土師器壺、須恵器壺・甕、繩文土器の破片が微量出土した。時期 中世と想定される。

③M-3号溝 (第62図、PL. 14)

位置 C-3グリッド。形態 北西-南東方向へ走向する。断面形は箱状を呈する。底面は概ね水平で、やや凹凸がみられる。規模 長さ3.35m、上端幅65~71cm、下端幅49~56cm、深さ18~22cm。走向方位 N-50°-W。覆土 As-Bを大量に含む褐灰色土で、人為堆積と推測される。

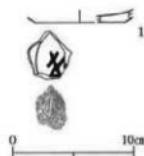
遺物 土師器壺、須恵器壺・甕、繩文土器の破片が微量出土した。時期 中世と想定される。

④M-4号溝 (第62図、PL. 14)

位置 C-2~3グリッド。形態 北西-南東方向へ直線的に走向する。断面形は浅い箱状を呈する。底面は概ね水平で、やや凹凸がみられる。規模 長さ2.43m、上端幅48~59cm、下端幅36~50cm、深さ11~15cm。走向方位 N-54°-W。覆土 As-Bを大量に含む褐灰色土で、人為堆積と推測される。遺物 なし。時期 中世と想定される。

⑤M-5号溝 (第62図、PL. 14)

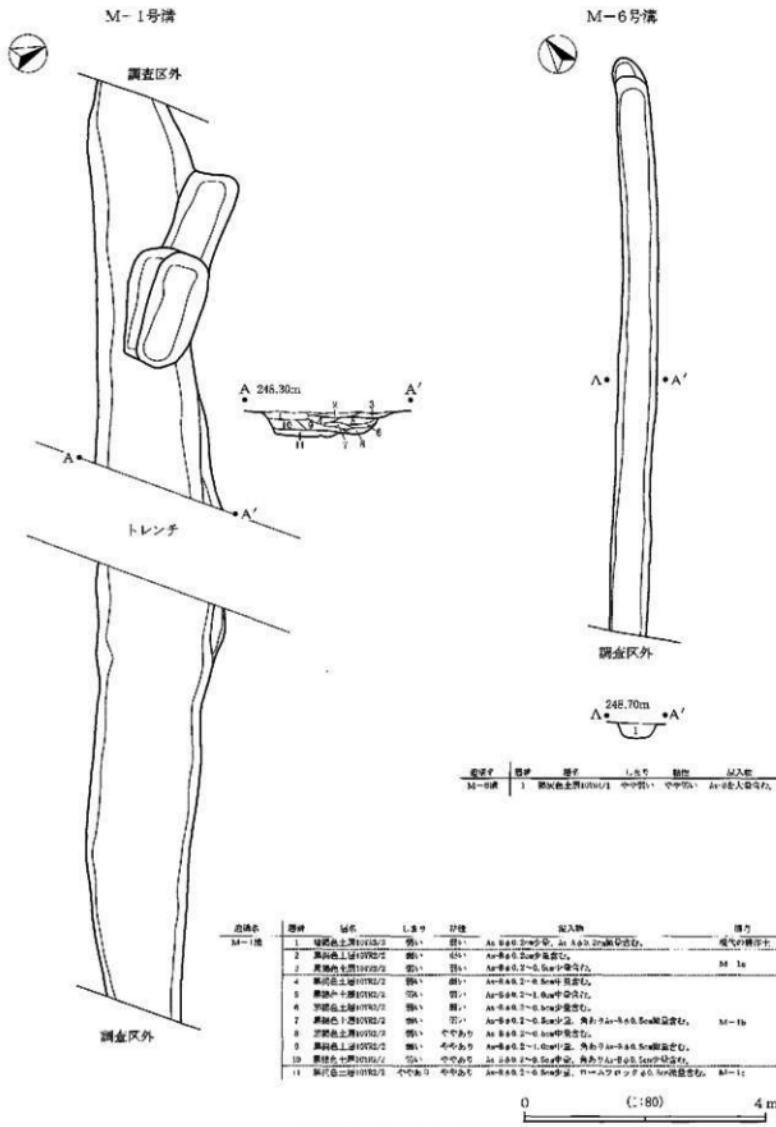
位置 A-3、B-3グリッド。形態 北東-南西方向へ走向する。断面形は浅い箱状を呈する。底面は概ね水平で、やや凹凸がみられる。規模 長さ2.14m、上端幅60~63cm、下端幅48~51cm、深さ12~14cm。走向方位 N-46°-E。覆土 As-Bを大量に含む褐灰色土で、人為堆積と推



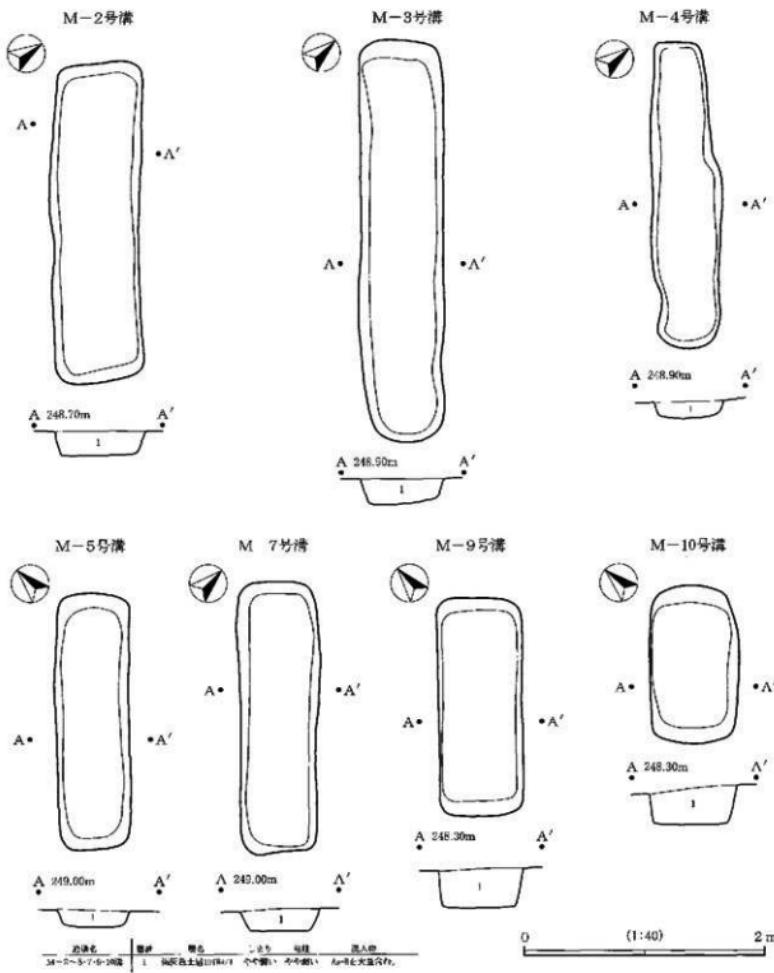
第60図 M-1号溝出土遺物

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③射土 ④残存				成・整形技法の特徴
				口径	底径	色調	底部破片	
1	須恵器壺	東側	—	—	(7.3) 基高(3.1)	①焼成 ②褐色 ③白色粒、褐 色粒 ④底部破片	外表面クロナガ、底面回転糸切り。 内面ロクロナガ。 外底面に墨書き、判読不明。	
番号	器種	出土位置	法量(cm・g)	①法量(cm・g)	②質	③成・整形技法の特徴	④考	
2	薦福石	西側	—	—	—	—	—	砂岩 ⑤完形 ⑥一 ⑦写真のみ

第33表 M-1号溝出土遺物観察表



第61図 M-1・6号構

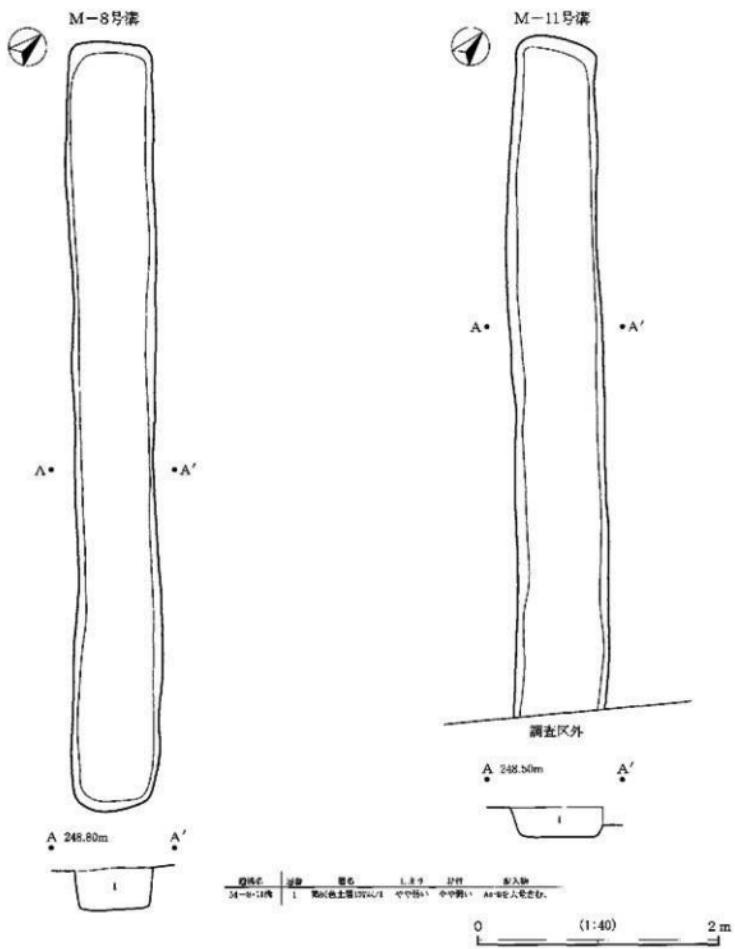


第62図 M-2~5・7・9・10号溝

測される。 遺物 土器の破片が微量出土した。 時期 中世と想定される。

⑥M-6号溝（第61図、P.L. 14）

重複 H-16・20 分住居址と重複し、本造



第63図 M-8・11 号溝

構が新しい。 形態 北東—南西方向へ直線的に走向する。断面形は箱状を呈する。底面は概ね水平で、やや凹凸がみられる。 規模 長さ 4.76 m、上端幅 53 ~ 67 cm、下端幅 38 ~ 48 cm、深さ 25 ~ 32 cm。 走向方位 N-41° - E。 覆土 As B を大量に含む褐色土層(?)で、やや弱い、やや弱い、As Bを入る。 遺物 土器破片・甕・須恵器破片・甕の破片が微量出土した。 時期 中世と想定される。

⑦M-7号溝（第62図、PL. 15）

位置 C-2グリッド。重複 H-7号住居址と重複し、本遺構が新しい。形態 北西-南東方向へ走向する。断面形は浅い箱状を呈する。底面は概ね水平で、やや凹凸がみられる。規模 長さ2.15m、上端幅63～69cm、下端幅50～54cm、深さ12～19cm。走向方位 N-46°-W。覆土 As-Bを大量に含む褐灰色土で、人為堆積と推測される。遺物 上師器坏・甕、須恵器坏の破片が微量出土した。時期 中世と想定される。

⑧M-8号溝（第63図、PL. 15）

位置 F-1～2グリッド。重複 II-9a号住居址と重複し、本遺構が新しい。形態 北西-南東方向へ直線的に走向する。断面形は箱状を呈する。底面は概ね水平で、やや凹凸がみられる。規模 長さ6.38m、上端幅66～75cm、下端幅56～63cm、深さ32～38cm。走向方位 N-49°-W。覆土 As-Bを大量に含む褐灰色土で、人為堆積と推測される。遺物 土師器坏・甕、須恵器坏・甕、灰釉陶器、縄文土器の破片が少量出土した。時期 中世と想定される。

⑨M-9号溝（第62図、PL. 15）

位置 B-2グリッド。重複 II-7号住居址と重複し、本遺構が新しい。形態 北東-南西方向へ走向する。断面形は箱状を呈する。底面は概ね水平で、やや凹凸がみられる。規模 長さ1.82m、上端幅70～72cm、下端幅61～62cm、深さ31～36cm。走向方位 N-43°-E。覆土 As-Bを大量に含む褐灰色土で、人為堆積と推測される。遺物 土師器坏・甕、須恵器坏、縄文土器の破片が微量出土した。時期 中世と想定される。

⑩M-10号溝（第62図、PL. 15）

位置 A-1グリッド。形態 北東-南西方向へ走向する。断面形は箱状を呈する。底面は概ね水平で、やや凹凸がみられる。規模 長さ1.32m、上端幅72～75cm、下端幅58～66cm、深さ25～27cm。走向方位 N-47°-E。覆土 As-Bを大量に含む褐灰色土で、人為堆積と推測される。遺物 土師器甕、須恵器甕、灰釉陶器、縄文土器の破片が微量出土した。時期 中世と想定される。

⑪M-11号溝（第63図）

位置 F-3～4グリッド。重複 II-11号住居址と重複し、本遺構が新しい。形態 北西-南東方向へ直線的に走向し、南東側は調査区外となる。断面形は箱状を呈する。底面は概ね水平で、やや凹凸がみられる。規模 長さ5.60m以上、上端幅67～76cm、下端幅53～65cm、深さ21～29cm。走向方位 N-42°-W。覆土 As-Bを大量に含む褐灰色土で、人為堆積と推測される。遺物 なし。時期 中世と想定される。

（2）土坑

①D-1号土坑（第64図、PL. 13）

位置 H-3グリッド。重複 H-4号住居址と重複し、本遺構が新しい。形態 平面は円形、断面は浅い箱状を呈する。規模 長軸0.86m×短軸0.81m×深さ0.22m。覆土 As-Bを含む黒褐色土で、自然堆積と推測される。遺物 上師器坏・甕、須恵器坏・甕、灰釉陶器、縄文土器の破片が少量出土した。時期 中世と想定される。

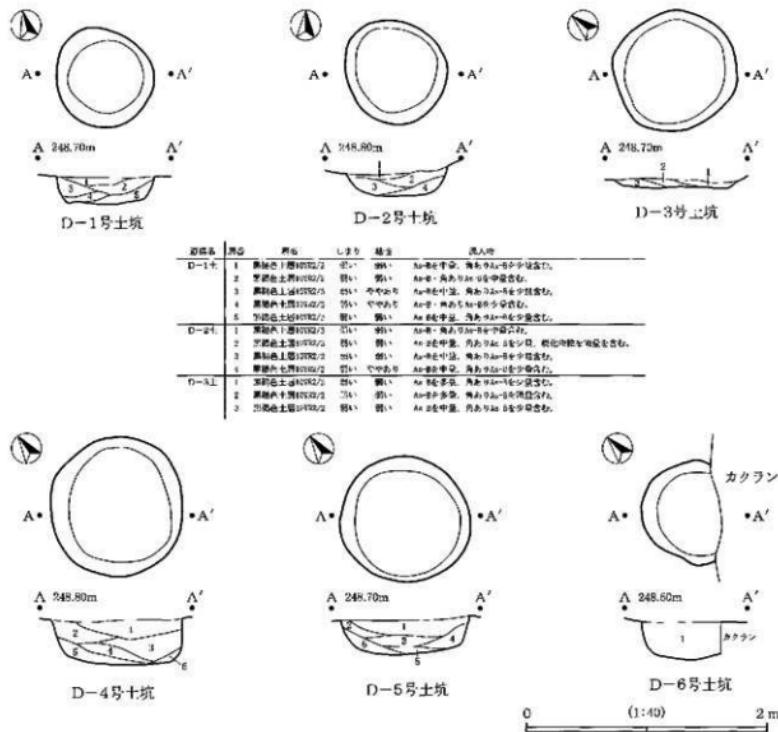
②D-2号土坑（第64図、PL. 13）

位置 II-1グリッド。形態 平面は円形、断面は浅い箱状を呈する。規模 長軸0.89m×短軸

0.84 m × 深さ 0.18 m。 覆土 As-B を含む黒褐色土で、自然堆積と推測される。 遺物 土師器甕、須恵器壺・甕の破片がわずかに出土した。 時期 中世と想定される。

③D-3号土坑 (第 64 図、P.L. 13)

位置 J-3グリッド。 重複 H-17 号住居址と重複し、本構造が新しい。 形態 平面は円形、断面は皿状を呈する。 規模 長軸 1.04 m × 短軸 1.01 m × 深さ 0.08 m。 覆土 As-B を含む黒褐色土



第 64 図 D-1～6号土坑

で、自然堆積と推測される。 遺物 土師器壺・甕、須恵器壺・甕・羽釜が少量出土した。 時期 中世と想定される。

④D-4号土坑（第64図、P.L. 13）

位置 H-1グリッド。 重複 H-12号住居址と重複し、本遺構が新しい。 形態 平面は円形、断面は箱状を呈する。 規模 長軸1.16m×短軸1.10m×深さ0.37m。 覆土 As-Bを含む黒褐色上で、自然堆積と推測される。 遺物 土師器甕、須恵器壺・甕・羽釜、灰釉陶器の破片がわずかに出土した。 時期 中世と想定される。

⑤D-5号土坑（第64図、P.L. 13）

位置 F-3~4グリッド。 重複 II-11号住居址と重複し、本遺構が新しい。 形態 平面は円形、断面は箱状を呈する。 規模 長軸10.8m×短軸1.04m×深さ0.29m。 覆土 As-Bを含む黒褐色土で、自然堆積と推測される。 遺物 土師器壺・甕、須恵器壺・甕の破片がわずかに出土した。 時期 中世と想定される。

⑥D-6号土坑（第64図、P.L. 13）

位置 I-2グリッド。 重複 東側を擾乱に擾される。 H-15号住居址と重複し、本遺構が新しい。 形態 平面は円形と推測され、断面は箱状を呈する。 規模 長軸0.88m×短軸0.67m以上×深さ0.30m。 覆土 As-Bを含む黒褐色土で、自然堆積と推測される。 遺物 土師器壺・甕、須恵器壺・甕の破片がわずかに出土した。 時期 中世と想定される。

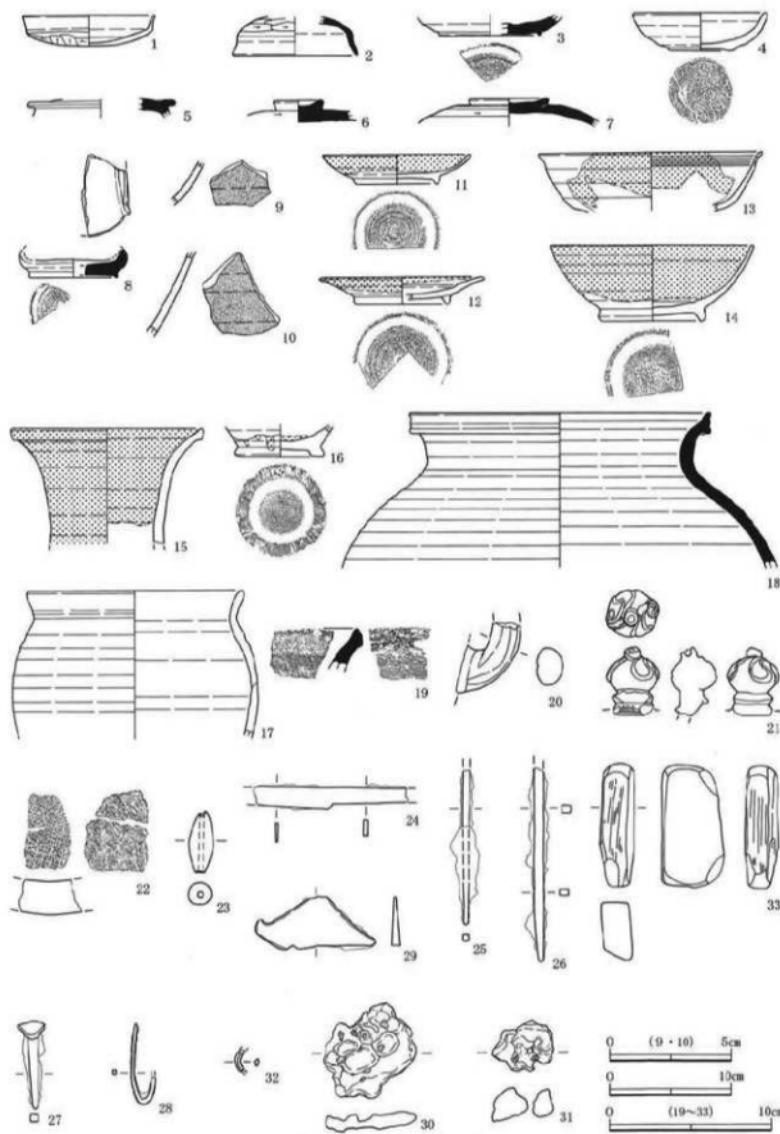
第5節 遺構外出土遺物（第65図、第34・35表、P.L. 26）

グリッド出土遺物を主体とし、その他に表土・擾乱出土の遺物および、遺構出土上のうち明らかに紛れ込みである遺物を対象とした。縄文時代の遺物として21の深鉢の突起が認められた。後期牛葉の加曾利B式壺に比定される。弥生時代の遺物は本調査区内では確認できなかった。

古墳時代は土師器の壺・甕・壺・甕、須恵器の壺・蓋・甕・壺などが認められた。時期は大半が昭穴住居址と同じ後期である。1の土師器壺、2の須恵器蓋は7世紀後半に比定される。20は土師器甕の把手部分である。

奈良時代の遺物には3・5・6・7がある。これらは7世紀末～8世紀の上野地域に特徴的な形態の須恵器である。3は前り出し高台の壺で、7世紀末～8世紀初頭にかけて限定的な技法である。5は上野型有蓋短頸壺蓋で、天井端部に凸帶および鈎を有する形態である。8世紀第1四半期に祖形が現れ、第2四半期にかけて完成されたと想定されている。6・7は環状摘みを有する壺蓋で、7世紀末に出現し、8世紀には広域に供給されている。

平安時代は土師器壺・甕、須恵器直・壺・甕・蓋・甕・壺・羽釜、クロマツ、灰釉陶器皿・碗・甕、鐵製陶器碗などが認められた。この時期の出土量が最も多い。特に、昭穴住居址が密集するI・J・Kグリッドに10世紀代の遺物が集中している。4は須恵器壺で10世紀後半に比定される。8は須恵器耳皿である。9・10は綠釉陶器碗の休部破片である。11～16は灰釉陶器である。11の皿と13の碗は大原2号窯式期、12の段皿と14の碗は虎渓山1号窯式期に比定される。土器以外では、瓦、土錐、磁石、銅製品、鐵製品、鐵滓などが認められた。22は平瓦で、凹面に有目压痕がみられる。



第65図 遺構外出土遺物

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	
					外面部	内面部
1	土師器 坪	H-4 住 3 4区	口径(11.0) 底径 2.5 器高 2.5	①普通 ②褐色 ③角閃石、白色 ④1/3	外面部 口縁部ヨコナデ。体部へ底面へラケズリ。 内面部 口縁部へ体部ヨコナデ。底面へラケズリ。	
2	須恵器 蓋	G3 グリッ ド2面	口径(10.5) 底径(8.4) 器高(3.2)	①還元焰 ②灰褐色 ③白色粒 ④口縁部 ⑤全体部 1/4	外面部 ロクロナデ。天井部手持ちヘラケズリ。 内面部 ロクロナデ。	
3	須恵器 高台付坪	H-4 住 4 区	口径 10 底径 8.4 器高 3.7	①還元焰 ②灰褐色 ③黑色粒 ④全体部 ～高台部 1/4	外面部 ロクロナデ。底面ナデ。高台削り出し。 内面部 ロクロナデ。	
4	須恵器 坪	G4 グリッ ド2・3面	口径 11.2 底径 5.2 器高 3.1	①酸化焰灰黒 ②灰褐色 ③白色 ④口縁部 1/3 拱	外面部 ロクロナデ。底面回転糸切り。 内面部 ロクロナデ。	
5	須恵器 有蓋 短頭盃蓋	G2 グリッ ド2面	口径 ～ 底径 ～ 器高(1.6)	①酸化焰灰黒 ②灰褐色 ③白色 ④天井部 1/5	外面部 ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリ。天井部端部に貼付。 内面部 ロクロナデ。 天井部径(1.3)cm。	
6	須恵器 蓋	深斗レン グ	口径 ～ 底径 1.8 器高 1.8	①還元焰 ②灰褐色 ③白色粒 ④胸み詰～天井部	外面部 ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリ。覆状胸み貼付。 内面部 ロクロナデ。 胸み径 4.1cm。	
7	須恵器 蓋	F1 グリッ ド2面	口径 ～ 底径 ～ 器高 ～	①酸化焰 ②にぶい褐色 ③白色 粒、黑色粒 ④胸み詰～天井部 1/4	外面部 ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリ。覆状胸み貼付。 内面部 ロクロナデ。 胸み径(6.6)cm。	
8	須恵器 耳皿	G2 グリッ ド2面	口径 ～ 底径(7.3) 器高(2.2)	①還元焰 ②灰褐色 ③黑色粒	外面部 ロクロナデ。底面回転糸切り。高台削り出し。 内面部 ロクロナデ。	
9	絵釉陶器 碗	J2 グリッ ド2面	口径 ～ 底径 ～ 器高 ～	①還元焰 ②胎土:灰白色、釉薬: 緑色 ③- ④体部破片	外面部 ロクロナデ。 内面部 ロクロナデ。 内外面に緑釉。	
10	絵釉陶器 碗	J2 グリッ ド2面	口径 ～ 底径 ～ 器高 ～	①還元焰 ②胎土:灰白色、釉薬: 緑色 ③- ④体部破片	外面部 ロクロナデ。 内面部 ロクロナデ。 内外面に緑釉。	
11	灰釉陶器 皿	J4 グリッ ド3面	口径(12.2) 底径 6.8 器高 2.4	①還元焰 ②胎土:灰白色、釉薬: 灰白色 ③白色粒 ④2/3	外面部 ロクロナデ。底面回転糸切り。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面部 ロクロナデ。 内外面に灰釉剥げ掛け。	
12	灰釉陶器 段皿	E3 グリッ ド3面、 試掘 2ト レンチ	口径(13.0) (7.6) 底径 2.2 器高 ～	①還元焰 ②胎土:灰白色、釉薬: 灰白色 ③白色粒 ④2/3	外面部 ロクロナデ。底面回転ヘラケズリ。高台貼付時に周縁回転 ナデ。 内面部 ロクロナデ。 内外面に灰釉剥げ掛け。	
13	灰釉陶器 碗	I3 グリッ ド2面	口径(18.6) 底径 ～ 器高(4.8)	①還元焰 ②胎土:灰白色、釉薬: 灰オリーブ色 ③白色粒 ④口 縁部 ～全体 1/5	外面部 ロクロナデ。体部下位に回転ヘラケズリ。 ロクロナデ。口縁部に横位次輪 3条。 内外面に灰釉剥げ掛け。	
14	灰釉陶器 碗	J1 グリッ ド3面	口径(16.8) 底径(8.2) 器高 6.2	①還元焰 ②胎土:灰白色、釉薬: 灰白色 ③白色粒 ④1/4	外面部 ロクロナデ。底面ナデ。高台貼付時に周縁回転ナデ。 ロクロナデ。見込みに横位次輪 1条。 内外面に灰釉剥げ掛け、釉薬は薄い。	
15	灰釉陶器 甕	E1 グリッ ド3面、 F3 グリッ ド2面	口径(16.0) 底径 ～ 器高(9.4)	①還元焰 ②胎土:灰白色、釉薬: 灰オリーブ色 ③黑色粒 ④口 縁部 ～頸部 1/2	外面部 ロクロナデ。 内面部 ロクロナデ。 内外面に灰釉。	
16	灰釉陶器 甕	J1 グリッ ド2面	口径 ～ 底径 7.4 器高(2.6)	①還元焰 ②胎土:灰白色、釉薬: 灰オリーブ色 ③白色粒 ④胴部 破片	外面部 ロクロナデ。底面斜止目切り。高台貼付時に周縁回転ナデ。 ロクロナデ。 内面部 ロクロナデ。底面および外側面に灰斑。	
17	ロクロ甕	I2 グリッ ド3	口径(18.0) 底径 ～ 器高(12.2)	①酸化焰 ②浅黄褐色 ③白色粒、 褐色 ④口縁部～腹部上半 1/4	外面部 ロクロナデ。 内面部 ロクロナデ。	
18	須恵器 甕	J2 グリッ ド2面、 E2 グリッ ド2面	口径(24.9) 底径 ～ 器高(12.7)	①還元焰 ②灰色 ③白色粒、黑 色粒 ④口縁部～胴部上位 1/3	外面部 ロクロナデ。 内面部 ロクロナデ。	
19	須恵器 甕	H-4 住	口径 ～ 底径 ～ 器高 ～	①還元焰 ②灰褐色 ③石英、小 石 ④口縁部破片	外面部 ロクロナデ。9条1単位の櫛状工具による波状文を2段 以上。 内面部 ロクロナデ。9条1単位の櫛状工具による波状文を1段。	
20	土師器 瓶	G3 グリッ ド2面	口径 ～ 底径 ～ 器高 ～	①良好 ②にぶい黄褐色 ③角閃 石、白色粒 ④把手部	外面部 ナデ。	
21	陶文土器 深鉢	H-4 住	口径 ～ 底径 ～ 器高 ～	①良好 ②浅黄色 ③角閃石、白 色粒 ④突起部	基盤玉状の突起。低い縦帯と沈線の組合せにより文様を施す。 頂部部に低い内側状の貼付文あり。中央に穴があく。加賀利日式。	
番号	器種	出土位置	法量(cm, g)	②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考		
22	平瓦	F3 グリッ ド2面	①厚さ 2.1 ②土製、焼成:酸化焰灰黒、色調:褐灰色、胎土:白色粘土。砂粒 ③破片 ④側面:布目压痕、凸面: ヘルナデ。			
23	土鍬	J2 グリッ ド2面	①長さ 3.8、幅 1.5、重量 7.32 ②焼成:良好、色調:浅黄色、胎土:黑色粒 ③完形 ④ナデ。			
24	鉄製品 刀子	E3 グリッ ド2面	①長さ 9.7、刃身幅 1.2、刃身厚 0.2、茎幅、茎厚 0.3、重量 12.01 ②鉄製 ③両端部欠損 ④-			

第34表 遺構外出土遺物観察表(1)

番号	器種	出土位置	①法量 (cm, g) ②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考
25	鉄製品 鉄鍔	K1 グリップ F 2 面	①長さ<9.6、幅4.0、厚さ4.5、重量12.93 ②鉄製 ③某部のみ ④断面方形
26	鉄製品 鉄鍔	J2 グリップ FNa 1	①長さ<(12.0)、幅0.6、厚さ0.5、重量15.49 ②鉄製 ③某部のみ ④断面方形
27	鉄製品 釘	K2 グリップ F 2 面	①長さ5.5、幅5.0、厚さ5.0、重量9.44 ②鉄製 ③ほぼ完形 ④断面方形
28	鉄製品 不明	調査区一 不明	①長さ5.1、幅0.2、厚さ0.2、重量3.35 ②鉄製 ③端部欠損 ④断面方形、J字状を呈する
29	鉄製品 火打金	J2 グリップ F 2 面N.1	①長さ3.2、幅7.5、厚さ0.5、重量32.69 ②鉄製 ③HIX完形 ④-
30	銅滓	K1 グリップ F 3 面	①長さ5.9、幅5.8、厚さ1.3、重量26.69 ②鉄製 ③一部欠損 ④流動滓
31	銅滓	K2 グリップ FNa 6	①長さ3.2、幅3.9、厚さ2.1、重量30.39 ②鉄製 ③完形 ④木炭痕あり
32	銅製品 不明	H3 グリップ F 3 面	①長さ<1.3、幅0.6、厚さ0.3、重量0.432 ②銅製 ③両端部欠損 ④塊状を呈する
33	瑪瑙	J2 グリップ F 2 面	①長さ7.7、幅2.1、厚さ2.0、重量107.40 ②粘板岩 ③一部欠損 ④長側面2面を研磨、短側面2面を磨いて使用。4面とも非常に平滑。

第35表 遺構外出土遺物観察表(2)

第6章 成果と問題点

(1) 古墳時代の土器について(第66図)

国衙中割遺跡では、古墳時代後期の堅穴住居址が7棟検出された。資料は少ないが、土師器壺・壺を基準に分類し、概ね以下のI~IV期に分けて記述したい。

I期 H-7号住居址の1棟が該当する。土師器壺・甕・壺、須恵器甕が出土している。壺は内面の調整からA:放射状のミガキが施されるもの(1~3)、B:ミガキが多用されるもの(4~6)に大別される。Aは平底気味の底部から内側する形態(1)と、丸底で体部が浅く、口縁部との境に稜をもつ形態(2・3)がある。2は口縁部が内側気味に開き、3は外反する。Bは丸底で、体部と口縁部の境に稜をもち、口縁部が外反する形態である。4は口唇部に平坦面をもつ。内外面とも口縁部に横方向のミガキが施され、内面には黒色処理が施される。胎土は精緻で焼成も良好である。5・6は内面調整に口縁部横方向のミガキ、体部~底部放射状のミガキが施される。6は口縁部が長く、底部中央が尖り気味である。

甕は口縁部が「く」の字状に外反する。頸部から胴部上位への屈曲度合から、胴部中位にわずかな膨らみをもつ長胴甕と考えられる。壺は口縁部中位に弱い段を有する。

II期 H-9a号住居址の1棟が該当する。土師器壺・高杯・小形壺・甕・壺、須恵器壺身が出土している。壺はI期のB系統(3・4・6)と、須恵器模倣壺の範疇で捉えられるもの(2・5)がみられる。B系統はI期に比べ器高が低くなる。3・4は内面に黒色処理が施される。3は体部が扁平で、口縁部との境に明瞭な稜をもたない。口縁部は外反した後、上位でやや内側する。6はH-7住6と同系譜と考えられ、外面口縁部にも斜方向のミガキが施される。模倣壺は丸底で、体部と口縁部の境に稜をもつ。口縁部形態は2が直立後に上位でやや外反し、5が内側気味に開く。5は内外面に黒色処理が施される。高杯は短脚と長脚がある。9は壺B系統と同じく、内底面ミガキで黒色処理が施される。

甕は胴部に膨らみをもたない長胴甕と、胴部が大きく張る胴張甕がある。底部は两者とも平底を呈する。長胴甕は口縁部が「く」の字状に外反し、最大径を胴部中位にもつ。外面調整は縱方向のヘラケズリである。須恵器の壺身は受部が上方へのび、たちあがりは内傾する。TK10型式と推定される。

III期 H-10・13・20号住居址の3棟が該当するが、H-20号住居址は出土遺物が土師器の小形甕のみで、この期に積極的に入れる根拠は弱い。土師器坏・鉢・小形甕・甕・瓶、須恵器坏蓋が出土している。坏はII期同様、須恵器模倣坏の範疇で捉えられるもので、坏身模倣（H-13住3）や有段口縁坏（H-13住4）がみられる。内外面に黒色処理を施すものが多い。鉢は大形で、模倣坏の形態と連動する。

甕は平底の長胴甕である。口縁部が「く」の字状に外反し、最大径をII期同様、胴部中位にもつ。胴部の外面調整は縦方向のヘラケズリである。大形甕は底部が筒抜け状を呈し、胴部はわずかに膨らみをもつ。須恵器坏蓋は扁平な天井部から口縁部が外傾する形態である。外面天井部に手持ちヘラケズリが施される。

IV期 H-8・9b号住居址の2棟が該当する。土師器は坏・鉢・小形甕・甕が出土し、須恵器は坏身・坏蓋・鉢・高坏・甕・提瓶・平瓶・長頸甕・甕など、多様な器種がみられる。坏については、模倣坏の口径が11～12cm前後、器高が3～4cm前後になり、全体的に小型化する。また新たに、底部から口辺部にかけて内擣する丸底の坏が出現する。口縁部の形態は、(a) 短く「く」の字状に内屈するもの、(b) 短く内擣するもの、(c) 短く直立するものがある。法量にも差が生じ、口径が①10cm前後（小）、②11～13cm（中）、③13～15cm（大）、④15cm以上に分化する。なお、H-8住22は内面ミガキ調整で、黒色処理が施されるものである。

甕は長胴甕と胴張甕がある。長胴甕はIII期に比べて、口縁部が長く屈曲も強い。最大径を口縁部にもつようになる。底部は平底が主流だが、H-8住61のような丸底も見られる。胴部の外面調整は縦方向のヘラケズリが施される。

須恵器坏蓋は、A：口縁部が外傾し摘みをもたないもの、B：口縁部に返り、天井部に摘みをもつものの2種類がある。Aは天井部が丸みをもつものと、扁平なもののがみられる。法量は口径が①10cm以下、②10～12cm、③12cm以上となる。Bは小形のみで、口径は10cm前後である。摘みは欠損しているが擬宝珠形と考えられる。須恵器坏身は丸底で受部をもつものと、平底で口縁部にかけて内擣気味に立ち上がるものがある。受部をもつ坏は、口径10～11cm前後の小形と、口径15～16cm前の大形がある。H-8住37は器厚が薄く、焼成が堅密である。

実年代について 明確な実年代を求めるることは難しいが、須恵器の年代観や、土師器坏・甕に対する先学の研究成果を援用すると、I期に6世紀初頭、II期に6世紀中頃、III期に6世紀後半、IV期に7世紀第3四半期の年代観が与えられよう。

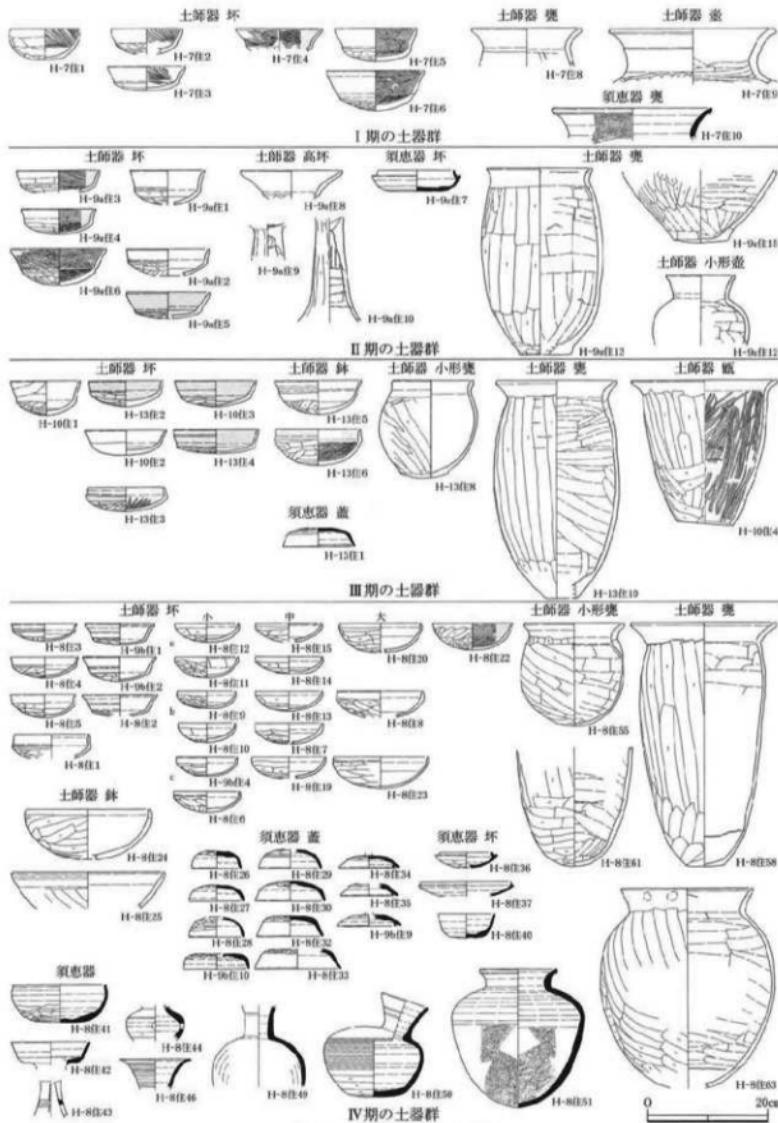
（2）古代の土器について（第68図）

平安時代は14棟の竪穴住居址が検出された。須恵器坏・碗、土師器甕を基準に分類し、概ね以下のV～VII期に分けて記述したい。

V期 H-12号住居址の1棟が該当する。須恵器高台付皿・坏・碗、土師器甕が出土している。須恵器は還元焰焼成で、灰色を呈す堅密なものが主体である。須恵器坏は平底で、体部が直線的に開く形態である。底径は口径の1/2よりやや大きい。外底面の調整は回転糸切り未調整である。須恵器碗は体部に丸みをもって立ち上がり、口縁部が外反する。身が深く、高台は断面三角形を呈する。

土師器甕は「コ」の字状口縁甕で、口縁部の屈曲は明瞭である。胎土は精選され、器厚は薄い。胴部外面は上位に横方向のヘラケズリが施される。

VI期 H-21号住居址の1棟が該当する。須恵器高台付皿・坏・羽釜・瓶、灰釉陶器碗、土師器甕が



第 66 図 古墳時代の土器群

出土している。須恵器は皿・壺が還元焰焼成が主体で、瓶・羽釜は酸化焰焼成が主体である。須恵器壺は平底で、体部に丸みをもって立ち上がり、口縁部が外反する。底径は口径の1/2より大きいが同程度である。外底面の調整は回転糸切り未調整である。灰釉陶器碗は、高台の稜がやや不明瞭な三日月状を呈し、釉薬は刷毛塗りである。大原2号窯式期に比定される。

土師器壺は「コ」の字状口縁壺だが、V期より口縁部の屈曲が弱く、器厚が厚い。

VII期 H-1~5・11・14~19号住居址の12棟が検出された。須恵器壺・碗・甕・羽釜・瓶、灰釉陶器皿・碗、綠釉陶器碗、ロクロ甕などが出土している。須恵器壺・碗の形態や胎土などから前半・後半に細別できるものもあり、前半にはH-3・11・14・18・19号住居址、後半にはH-2・4号住居址が該当する。

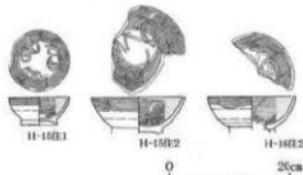
VII期前半については、須恵器は酸化焰焼成が主体となる。壺は平底で、体部から口縁部にかけて外反するもの、内彎気味に開くものの、内彎して立ち上がり上位で強く外反するものがみられる。底径は口径の1/2より小さい。外底面の調整は回転糸切り未調整である。法量は口径11~14cm前後、器高4~5cm前後で、全体的には小振りのものが多い。碗は高台の作りが粗雑になり、歪んで潰れたものが多い。体部は直線的に開くものと、内彎気味に立ち上がるものがあり、口縁部は端部で外反する。これらの須恵器壺・碗をA系統とすると、当該期には従来の須恵器と異なる胎土・作りのものが伴い、これをB系統とする。B系統の壺・碗は、胎土が密で丁寧な作りが特徴で、焼成は酸化焰である。壺は体部が内彎気味に立ち上がり、口縁端部で外反する形態が多い。底径は口径の1/2よりやや小さいか同程度である。外底面の調整は回転糸切り未調整である。法量は口径12~14cm前後、器高3~5cm前後であり、A系統で確認された小振りの壺はみられない。碗は高台が正円に近く、丁寧に貼り付けられている。「ハ」の字状に開き、断面三角形を呈する。H-14住4は高台が高く長い形態である。黒色土器も確認される。壺と碗があり、碗は内面に横方向のミガキが施される。H-3住10は横方向のミガキの後に放射状のミガキが施されている。また、内底面に螺旋状暗文が施文される一群も確認される（第67図）。

羽釜は、概ね2形態に大別することができる。（A）胴部上位が張るもので、口縁部が内傾し、口唇部は肥厚する。（B）胴部が張らないもので、口縁部が直立またはやや内傾する。鋸はやや上向きか水平で、断面は三角形を呈する。外面調整はロクロ成形のみのものと、ロクロ後に縱方向のヘラケズリを施すものがある。ロクロ甕には小形と大形がある。小形はロクロ成形で、外底面の調整は回転糸切り未調整である。大形はロクロ成形後、胴部にヘラケズリを施すものがみられる。

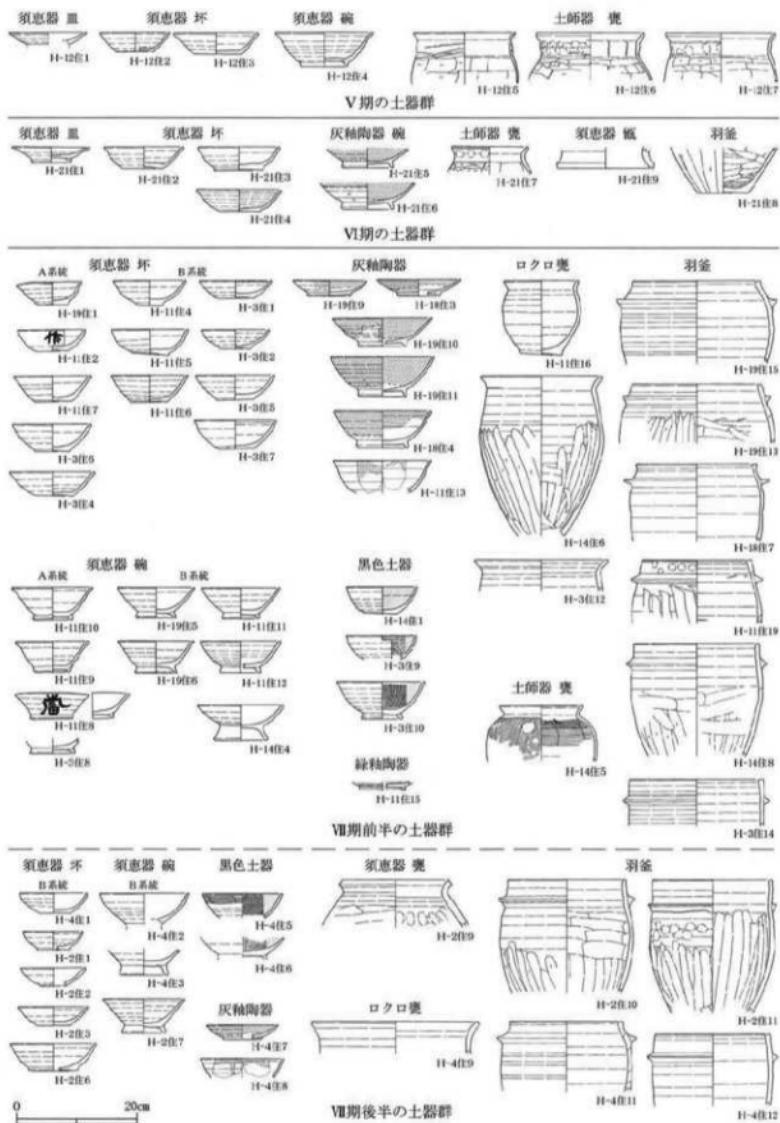
灰釉陶器は皿と碗が確認され、釉薬は全て潰け掛けである。H-19住9・10・11は底部が水平でなく、やや下がり気味である。皿の高台は低く断面三角形を呈する。碗は口縁部の器厚がやや薄く、体部の腰に張りがない。H-19住11の高台は稜がゆるやかである。H-18住3の皿は口縁部が直線的に開き、高台は低く断面三角形を呈する。H-11住13・H-18住4の碗は、体部の腰が張るもので、高台の稜は丸みをもち明瞭でない。H-11・18号住居址は虎渓山1号

窯式期に比定される。H-19号住居址はH-18号住居址よりやや古い様相を示す。

VII期後半については、須恵器壺・碗はB系統のみとなる。壺は口径10~11cm前後、器高3cm前後のものが多く、前半に比べて小型化する。碗は前半に比べ高台がやや高いものが認められる（H-4住3）。黒色土器碗は後半でも確認されている。羽釜は前半との顕著な差異は見い出せない。



第67図 螺旋状暗文の黒色土器



第68図 古代の土器群

灰釉陶器は皿と碗が確認され、釉薬は濁け掛けである。皿は高台が低く、断面三角形を呈する。碗は口縁部が外反する。虎渓山1号窯式期の新段階に比定される。

実年代について 灰釉陶器の年代観や先学の研究成果を援用すると、V期に9世紀第3四半期、VI期に9世紀末葉～10世紀初頭、VII期は10世紀後半（VII期前半：10世紀第3四半期、VII期後半：10世紀第4四半期）の年代観が与えられよう。

H-14号住居址5の土師器甕について VII期前半に相当する住居址のカマド内から出土した甕である。球胴形を呈し、口縁端部を内側に折り返す器形で、胴部内外面に粗いハケメ調整が施される。色調は在地の土師器甕に比べて白く、胎土に夾雜物が少ない。須恵器の酸化焰焼成のような焼き上がりである。本地域では当該期にこのような土師器甕を伴うことはない。搬入品とみられ、猿投窯の東山72号窯式期に出現する「伊勢型鍋」と呼ばれる甕と考えられる。

（3）H-11号住居址にみられる土師器甕破片について

H-11号住居址は10世紀第3四半期に比定される。カマドの右脇、床面より4cm上の位置から「作」の墨書き土器が出土し、その下には土師器甕の胴部破片（H-11住21）が敷かれていた。墨書き土器は完形の須恵器甕（H-11住2）で、正位の状態であった。土師器甕は胴部下半から底部にかかる破片で、木の葉のようなカーブを描いている。割れ口はシャープで摩耗していない。墨書き土器や他の出土土器とは型式学的に差が認められ、胎土や器形・調整などから8世紀に比定される。時期の異なる遺物が出土した場合、大抵は埋没過程や後世の擾乱などによる紛れ込みであるが、本事例はその出土状況から、住居廃棄時に何処から意図的に持ち込んで、墨書き土器とセットにして置いたものと推測される。

時期の異なる土器が竪穴住居址から出土する事例は、安中市向原Ⅲ遺跡でも認められる。8世紀のH-5号住居址の覆土下層から、6世紀の完形の土師器甕が出土している。報告書では、「廃棄」による混在の可能性もあるが、共伴している可能性も否定できない、との見解が示されている（井上・三浦2007）。

（4）鹿形土製品について（第69図）

最後に、本遺跡出土の特殊遺物、鹿の意匠をした土製品について触れたい。本資料はH-20号住居址の床面直上より横倒しの状態で出土した。頭部のみで首の下は欠損している。耳の後ろに角の表現があるため、雄鹿と判断した。長さ3.1cm、高さ5.0cmを測る。調整は全体的に丁寧なナデが施されている。眼および鼻は刺突により、口は切り込みにより作り出される。首は長く表現されている。胎土は精緻で、焼成も良好である。首の下の割れ口が水平であることから、胴体との接合部で欠損したものか、あるいは土器から剥離したものと推測される。H-20号住居址は、土器の出土量がごくわずかで時期決定が難しいが、土師器小形甕の形態から古墳時代後半（6世紀後半）と推定される。鹿形土製品とともに、床面直上から有孔円板の破片が、P-5覆土中から白玉が出土しており、住居廃絶時の祭祀行為に係わる可能性も考えられよう。

欠損部の下に何が付くかを推測すると、上に記したように、胴体または土器の可能性が考えられる。まず、単体の土製品と仮定して、動物形の土製品の出土例を探ると、鹿形の土製品に触れることができるのは時代を遡った弥生時代後期になる。東京都板橋区の四葉地区遺跡（1）、静岡県沼津市の雌鹿塚遺跡（2）、愛知県名古屋市の高蔵遺跡（3）出土の3例が知られている。しかし、古墳時代では犬・猪・

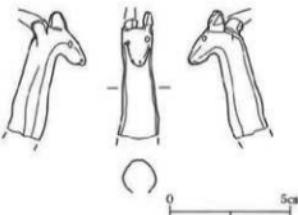
猿などの土製模造品はあるものの（入江 2009）(4)、確実な鹿形はみられない。

一方、動物形の意匠が付けられた土器としては、装飾付きの須恵器が挙げられる。古墳時代後期に作られ、台付き壺の肩部に人物や動物の小像、小壺を付けた装飾須恵器はよく知られている。これらの小像は狩りや角力、踊りなどの情景を表しているものが多く、鹿の小像は狩りの場面などで確認される。装飾付き須恵器の器種には、装飾台付き壺以外にも様々なものがみられる。そのなかで、鹿の装飾が施された器種には鹿や壺・壺蓋のセットなどがある。壺には鹿の把手が孔の上や脇に付くもの（5）や、鹿の小像が肩に飾られるもの（6）がある。壺・壺蓋のセットは、鹿の小像が壺の肩部および壺蓋の摘要のみ頂部に付けられている（7）。壺に付く「鹿の把手」は、頭から首までの意匠で胴体はない。頭部には角や耳が付けられ、眼や鼻は刺突で、口は切り込みで表現される。首は長く作られ、首の根本が鹿本体と接合している。これらと本資料を比較すると、顔の表現や首の形状・長さなど似ている点が多い。さらに、壺蓋に付けられた鹿も首が長く表現されており、本資料との共通点がみられる。土師器に鹿形の装飾が付く例が存在するかは浅学のため不明であるが、須恵器の事例から類推すれば、本資料が土師器の壺・壺・鹿・壺などに付けられていた可能性も否定できないと思われる。

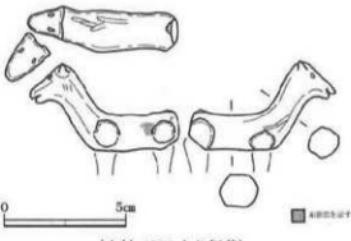
このほか、古墳時代における鹿意匠の遺物としては埴輪や鏡がある。埴輪は鹿形の形象埴輪がみられ、装飾須恵器と同様、狩りの場面を表していることが多い。県内では高崎市太子塚古墳（5世紀末）で、矢が刺さり血を流している鹿の埴輪が出土している（8）。また、高崎市劍崎長瀬西遺跡3号墳では鹿線刻の円筒埴輪が出土している（9）。鏡は伝高崎市八幡原町出土の「狩獵文鏡」がある（10）。4世紀後半～5世紀中葉に比定される仿製鏡で、内区に4人の人物と犬・鹿が描かれる。狩獵の光景と考えられたところから「狩獵文鏡」と名付けられたが、神領を奉持し、神人共食の宴を開く情景とする説も有力である。

上述したような装飾付き須恵器・埴輪・鏡などは、その多くが古墳への供献や祭祀に用いられたものである。本遺跡が帰属する国衙遺跡群は古墳群を内包している。本遺跡でこのような資料が出土する意味も、古墳群と古墳群に関わる人々の集落といった関係性のなかで、解釈していくことができるのではないだろうか。

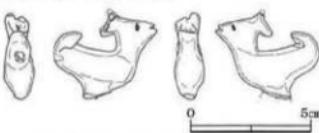
国衙中割遺跡出土 鹿形土製品



四葉地区遺跡出土 鹿形土製品



越鹿塚遺跡出土 鹿形土製品



（沼津市教育委員会 1990 より転載）

第69図 鹿意匠の土製品

【註】

- (1) 四葉地区遺跡例は西部台地B区 12号墳の覆土上層より出土し、弥生時代後期半の前野町式土器が併存している。長さ 6.2 cm、高さ 3.5 cmを測る。眼・口・耳・尾が表現され、性別は不明である。角はないが、尾が小さく上方にはねる表現などから鹿と判断されている。四肢は胴部との接合箇所で欠損している。体部は丁寧に磨かれて、その上に赤彩がされる(山村 1992)。
- (2) 鹿苑遺跡例はM-12 グリッドより出土している。同遺跡出土の弥生時代後期の土器と胎土が同一であるため、同時代に帰属するとされている。長さ 4.5 cm、高さ 3.5 cmを測る。雄鹿で、眼・口・角・尾・肛門が表現され、細部は彫いハラ状の工具で仕上げられている。下部に接合した痕跡が残るために、土器の口縁などに付着していたものと推測されている(沼津市教育委員会 1990)。
- (3) 高藏遺跡例は報告書にあたることができるが、詳細は不明である。山村 1992 に掲載された写真からは、頭部が強調され、何かから剥離したよう見える。
- (4) 土製模造品の中で、土馬は動物形とは別の種類として扱われる。早いところでは古墳時代中期には出現するようであるが、多くは終末期～奈良・平安時代に多い(入江 2009)。
- (5) 奈良駒頭所出土、京都大学文学部博物館所蔵(6世紀)や、福井県大飯郡高浜町二子山3号古墳出土、高浜町教育委員会蔵(6世紀)の例がある(菱田 1996)。
- (6) 京都府中郡峰山町大耳尾1号墳出土、峰山町教育委員会蔵(6世紀)の例がある(菱田 1996)。
- (7) 大阪府岸和田市馬塚古墳出土、東京国立博物館蔵(6世紀)の例がある(菱田 1996)。
- (8) 朝日新聞社: 2008『発掘された日本列島 2008』文化庁
- (9) 黒田 見: 2003『劍崎長瀬西遺跡』高崎市教育委員会、高崎市史編さん委員会 1999『新編 高崎市史 資料編1 原始古代I』高崎市
- (10) 高崎市市史編さん委員会 1999『新編 高崎市史 資料編1 原始古代I』高崎市

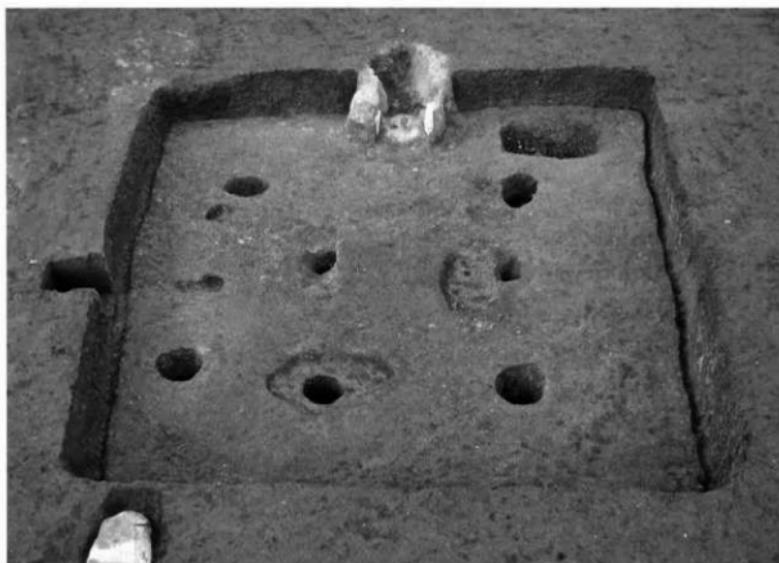
参考・引用文献

- 安中市市史刊行委員会 2001『安中市史』第四巻 原始古代中世資料編
安中市市史刊行委員会 2003『安中市史』第二巻 通史編
井上慎也・三浦京子 2007『向原田遺跡』安中市教育委員会
八江俊行 2009『古墳時代祭祀における土製模造品の出現と展開』『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第13集
帝京大学山梨文化財研究所
大川 清・鈴木公雄・工楽善通 1996『日本土器事典』雄山閣出版株式会社
神谷佳明 1997『律令成立期の須恵器の系譜—群馬県—』『東国の須恵器』古代生産史研究会
壁 伸明・常探 尚 2008『高梨子地区遺跡群』安中市教育委員会
小西雅徳ほか 2001『四葉地区遺跡』板橋区立郷土資料館
坂口 一 1986『古墳時代後期の土器の編年』『群馬文化』208号 群馬県地域文化研究協議会
坂口 一・三浦京子 1984『IV 住居共伴土器の相対年代』『中尾(遺物篇)』
群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団
坂口 一・三浦京子 1988「奈良・平安時代の土器編年」『群馬歴史研究』第24号 群馬県史編さん委員会
中沢 悟 1997『矢田遺跡周辺における古墳時代後期から平安時代の土器について』『矢田遺跡III』
財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
沼津市教育委員会 1994『雌鹿苑遺跡発掘調査報告書II 遺物編』
服部敬史ほか 1992『有名宮室跡群』東京造形大学宇宙賀校地内埋蔵文化財発掘調査団
菱田哲郎 1994『歴史発掘』須恵器の系譜 株式会社講談社
松井田町誌編さん委員会 1988『松井田町誌』上・下巻
三浦京子 1988「群馬県における平安時代後期の土器様相」『群馬の考古学』財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
三浦京子 1990「群馬県における8～11世紀の黒色土器について」『東国土器研究』第3号 東国土器研究会
三浦京子 2014「第4章まとめ2遺物」『白倉上野遺跡(下小原V遺跡)』甘楽町教育委員会
三浦京子 2016「Ⅳ-3. 三本木III遺跡の古代土器について」『落合II遺跡2・平塚遺跡2・三本木II遺跡2・三本木III遺跡2』
安中市教育委員会
山村貴輝 1992『東京都板橋区四葉地区遺跡出土のシカ形土製品』『考古学雑誌』第77巻 第3号

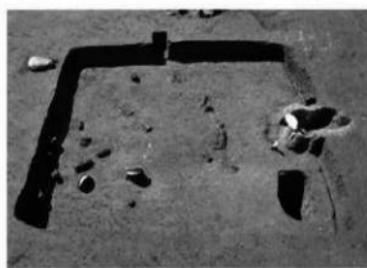
写 真 図 版



国衛中割遺跡 全景（上が北東）



H-7号住居址 完掘状況（南東から）



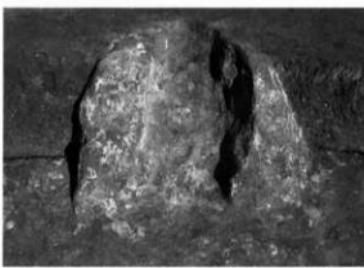
H-7号住居址 遺物出土状況（北東から）



H-7号住居址 カマド完掘状況（南東から）



H-8号住居址 遺物出土状況（西から）



H-8号住居址 カマド完掘状況（西から）



H-8号住居址 完掘状況（西から）



H-8号住居址 遺物出土状況（西から）



H-8号住居址 遺物出土状況（南東から）



H-8号住居址 遺物出土状況（東から）



H-8号住居址 P-5遺物出土状況（西から）



H-9a・9b号住居址 完掘状況（南西から）



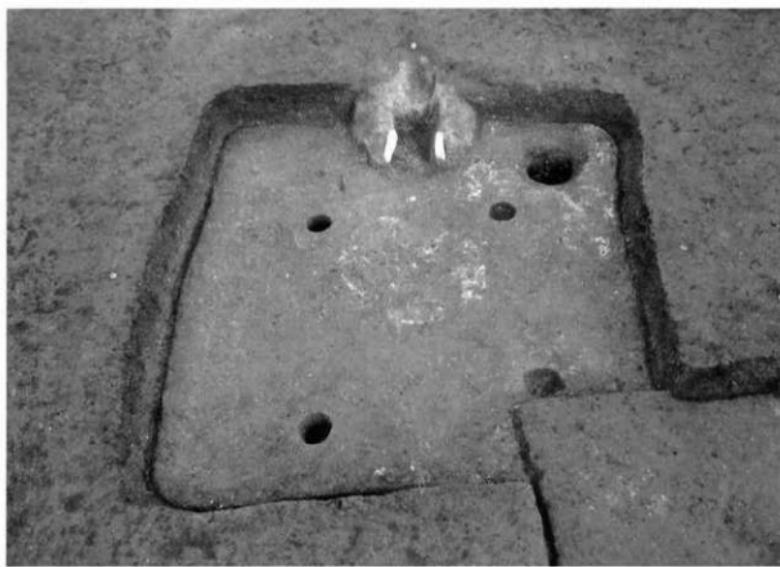
H-9a・9b号住居址 遺物出土状況（北東から）



H-10号住居址 遺物出土状況（南西から）



H-10号住居址 カマド完掘状況（南西から）



H-10号住居址 完掘状況（南西から）



H-10号住居址 遺物出土状況（西から）



H-10号住居址 遺物出土状況（南西から）



H-13号住居址 完掘状況（南東から）



H-13号住居址 カマド完掘状況（南東から）



H-13号住居址 カマド遺物出土状況（南東から）



H-13号住居址 遺物出土状況（南東から）



H-13号住居址 遺物出土状況（南東から）



H-20号住居址 遺物出土状況（北西から）



H-20号住居址 遺物出土状況（南西から）



H-20号住居址 遺物出土状況（西から）



H-20号住居址 遺物出土状況（南西から）



H-20号住居址 カマド完掘状況（北西から）



H-20号住居址 完掘状況（北西から）



H-1号住居址 完掘状況（北西から）



H-2号住居址 カマド完掘状況（北西から）



H-2号住居址 カマド遺物出土状況（北西から）



H-2号住居址 遺物出土状況（北西から）



H-3号住居址 完掘状況（西から）



H-3号住居址 カマド完掘状況（西から）



H-4号住居址 カマド遺物出土状況（北西から）



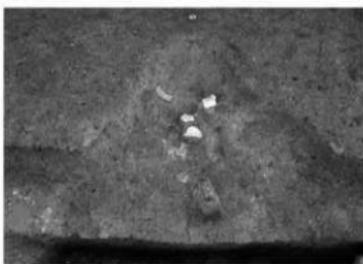
H-4号住居址 カマド完掘状況（北西から）



H-4号住居址 完掘状況（北西から）



H-5号住居址 完掘状況（北西から）



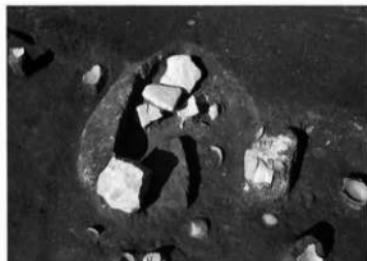
H-5号住居址 カマド完掘状況（北西から）



H-11号住居址 完掘状況（南西から）



H-11号住居址 遺物出土状況（北西から）



H-11号住居址 カマド礫出土状況（南から）



H-11号住居址 カマド完掘状況（南から）



H-11号住居址 カマド遺物出土状況（南から）



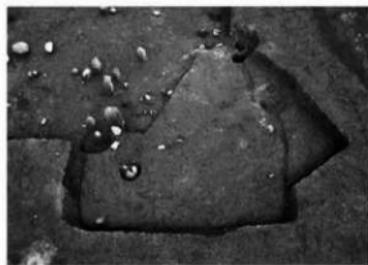
H-11号住居址 右袖内礫出土状況（北西から）



H-11号住居址 遺物出土状況（南西から）



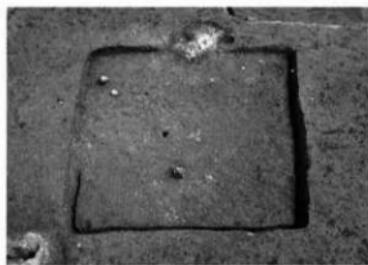
H-12号住居址 完掘状況（南西から）



H-14号住居址 完掘状況（南西から）



H-14号住居址 P-1遺物出土状況（南西から）



H-15号住居址 完掘状況（南西から）



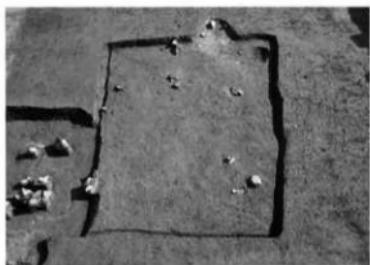
H-15号住居址 遺物出土状況（南西から）



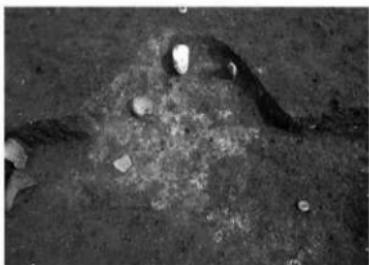
H-16号住居址 完掘状況（北西から）



H-16号住居址 カマド完掘状況（北西から）



H-17号住居址 完掘状況（南西から）



H-17号住居址 カマド完掘状況（南西から）



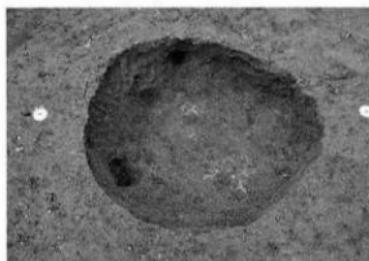
H-19号住居址 完掘状況（北西から）



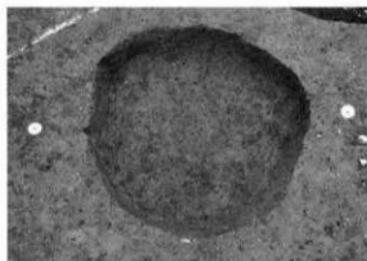
H-18号住居址 完掘状況（北東から）



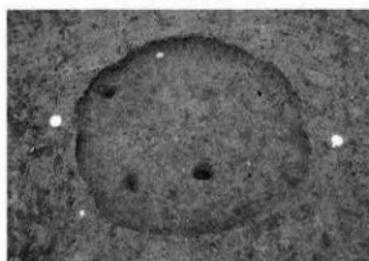
H-21号住居址 セクション（北東から）



D-1号土坑 完掘状況（南から）



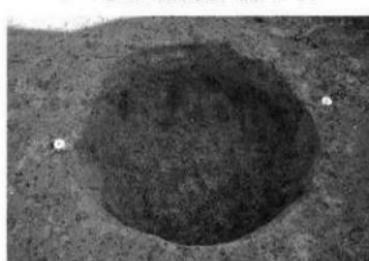
D-2号土坑 完掘状況（南から）



D-3号土坑 完掘状況（南西から）



D-4号土坑 完掘状況（南西から）



D-5号土坑 完掘状況（南西から）



D-6号土坑 完掘状況（南西から）



D-7号土坑 完掘状況（南西から）



M-1号溝 完掘状況（南東から）



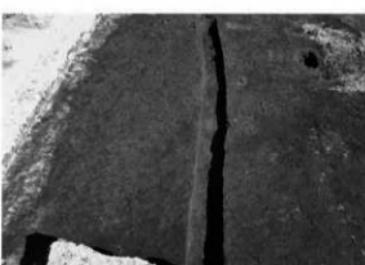
M-2号溝 完掘状況（北西から）



M-3号溝 完掘状況（南東から）



M-4号溝 完掘状況（南東から）



M-5号溝 完掘状況（北東から）



M-7号溝 完掘状況（南東から）



M-8号溝 完掘状況（北西から）



M-9号溝 完掘状況（南西から）



M-10号溝 完掘状況（南西から）



基本層序（北東から）



調査状況 H-2号住居址（北から）



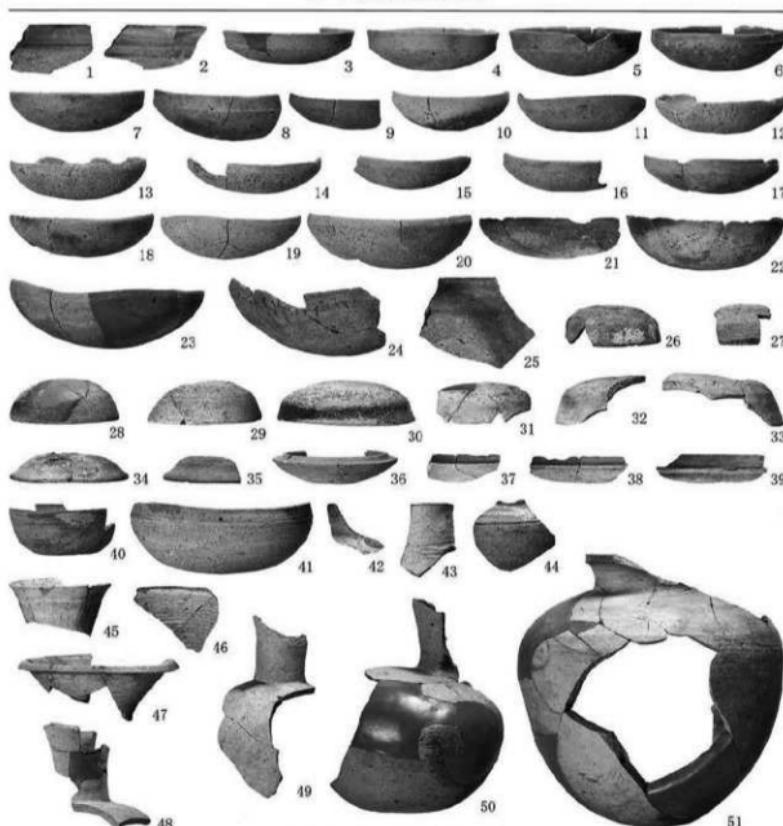
調査状況 H-7号住居址（東から）



調査状況 H-20号住居址（北西から）



H-7号住居址出土遺物



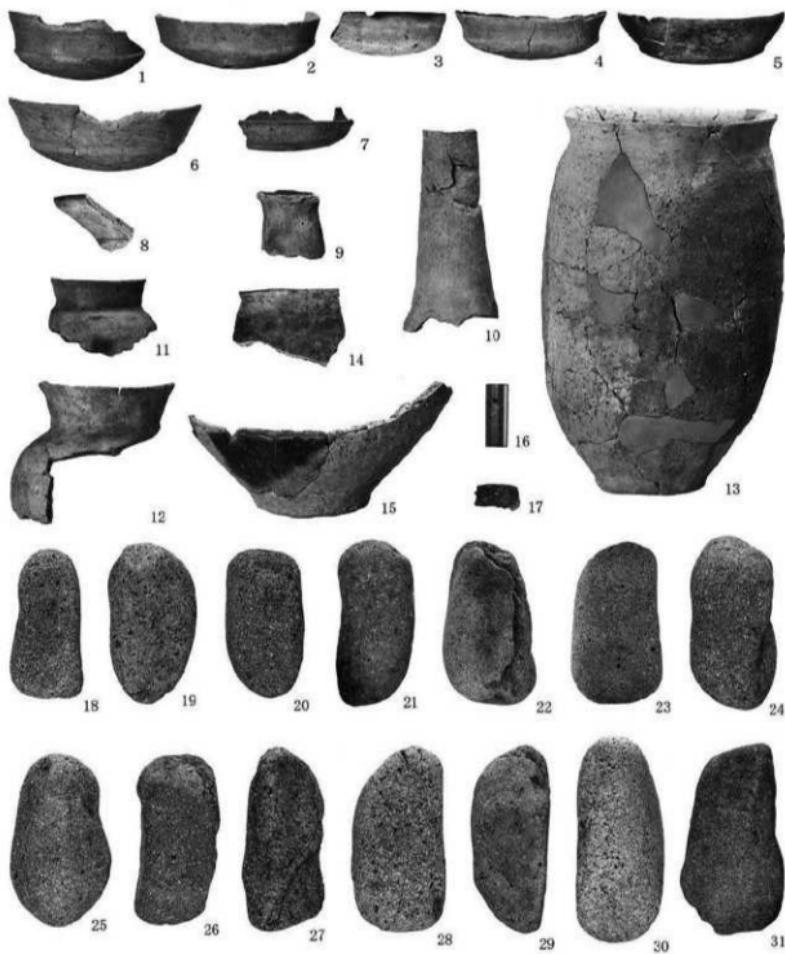
H-8号住居址出土遺物 (1)



H-8号住居址出土遺物 (2)



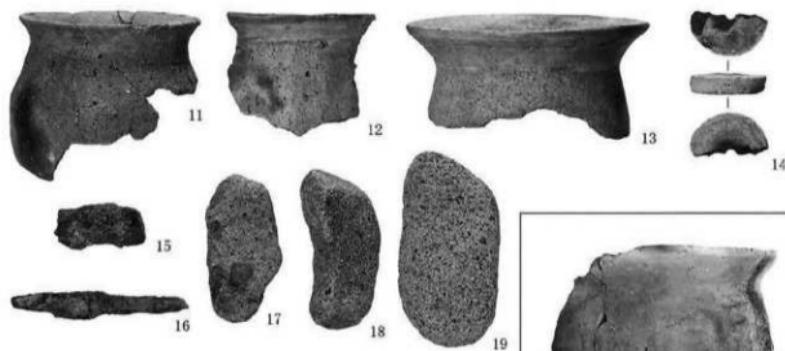
H-8号住居址出土遺物 (3)



H - 9a 号住居址出土遺物



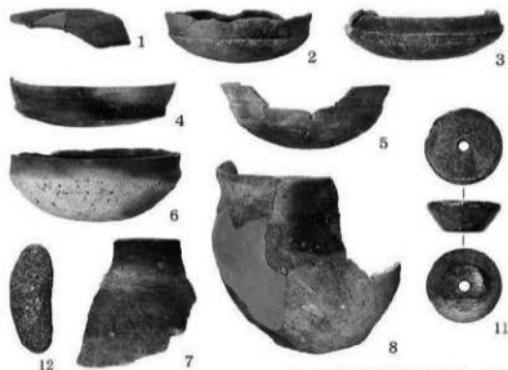
H - 9b 号住居址出土遺物 (1)



H-9b 号住居址出土遺物 (2)

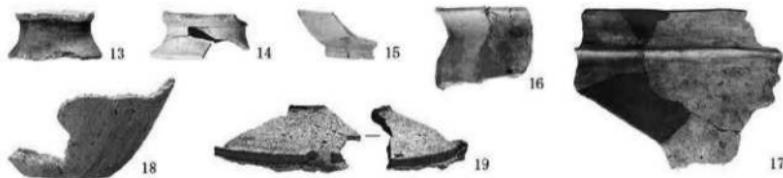


H-10 号住居址出土遺物

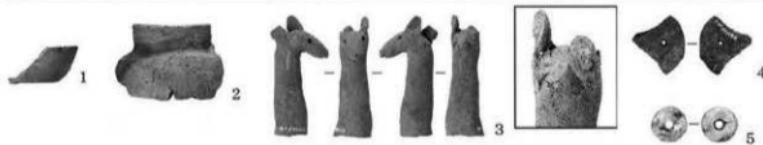


H-13 号住居址出土遺物 (1)





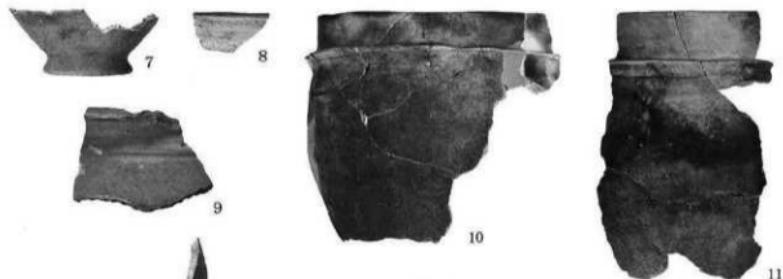
H-13号住居址出土遗物(2)



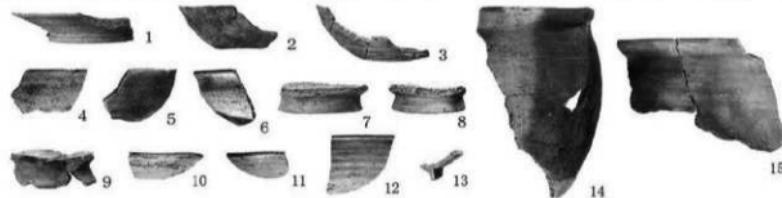
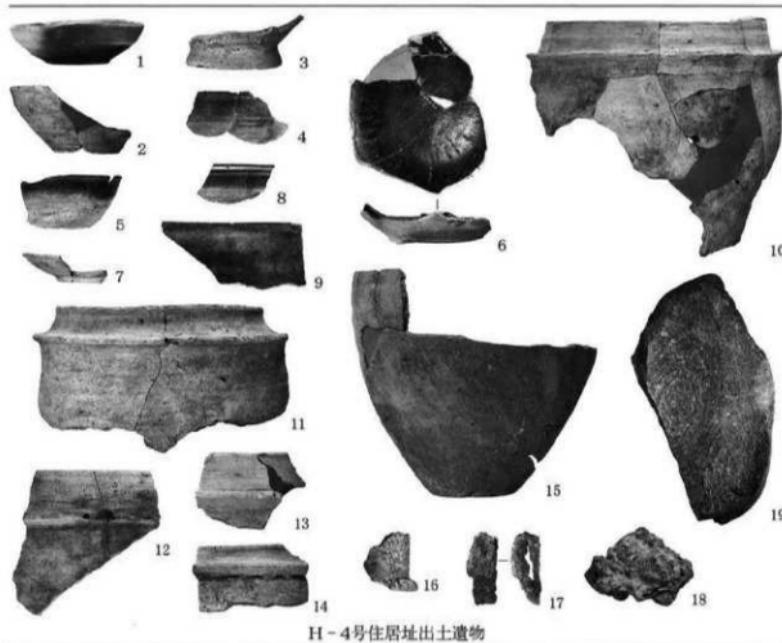
H-20号住居址出土遗物



H-1号住居址出土遗物

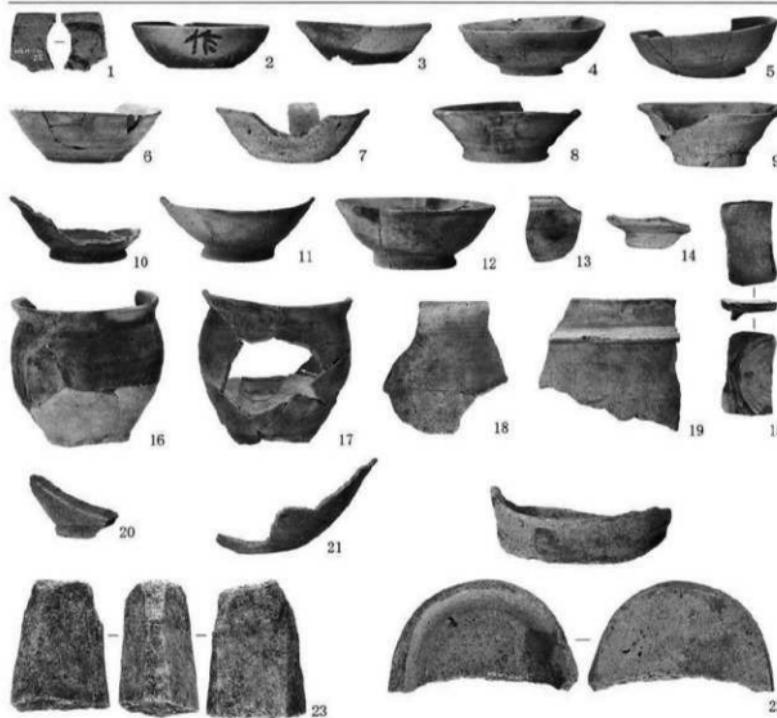


H-2号住居址出土遗物





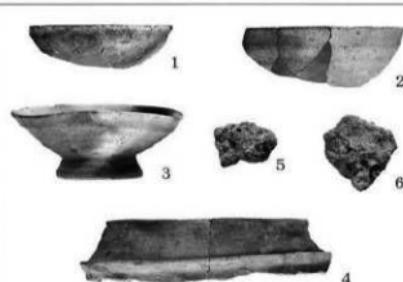
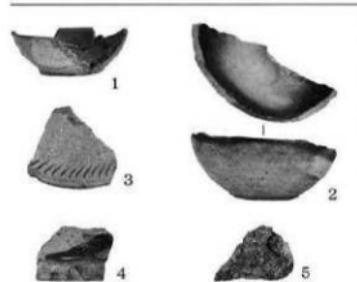
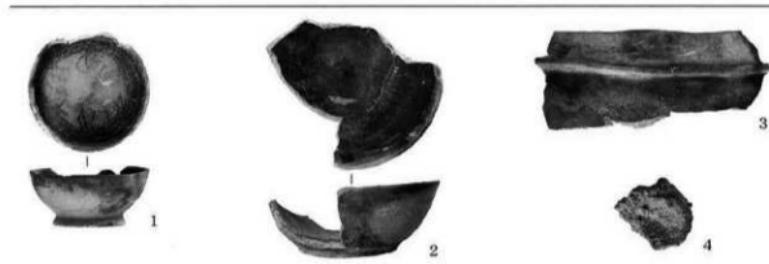
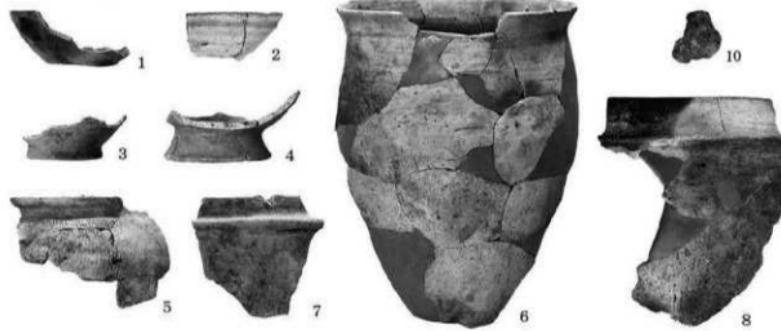
H-5号住居址出土遺物 (2)



H-11号住居址出土遺物

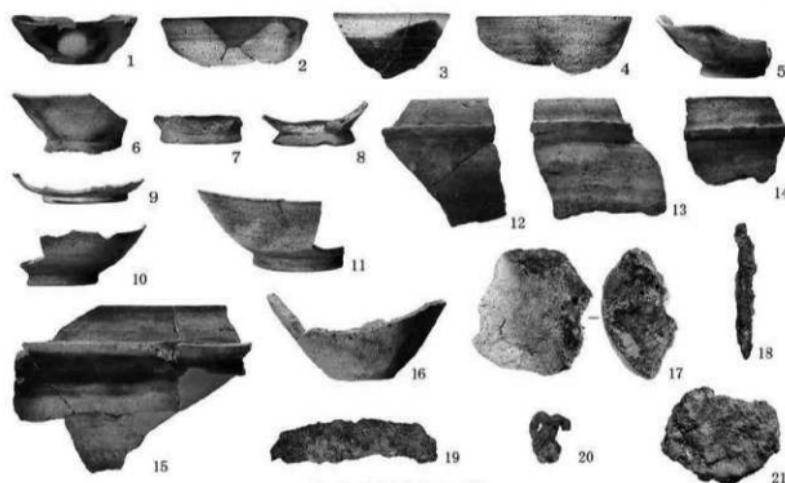


H-12号住居址出土遺物 (1)

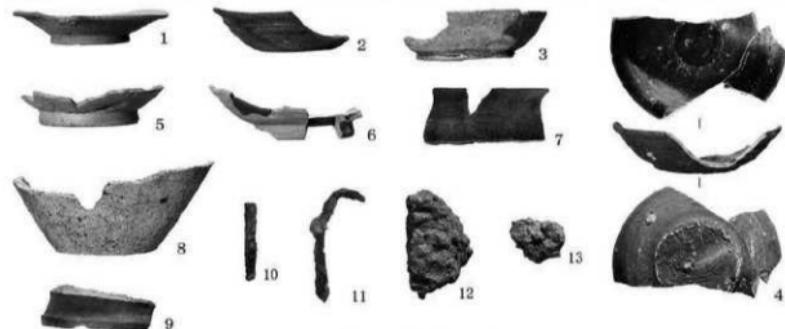




H-18号住居址出土遗物



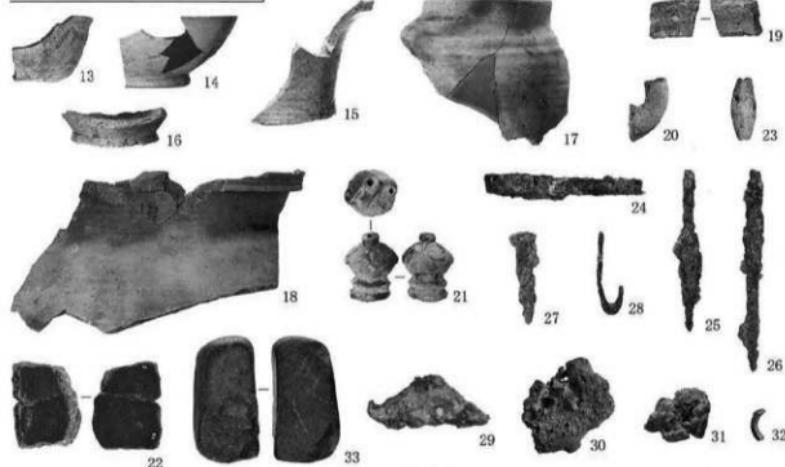
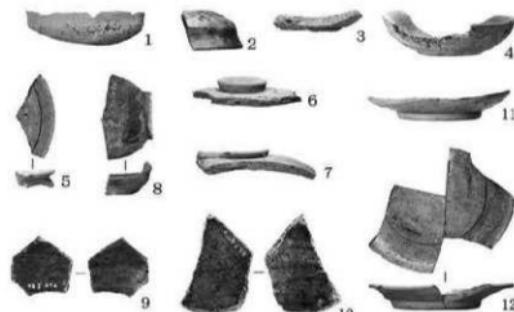
H-19号住居址出土遗物



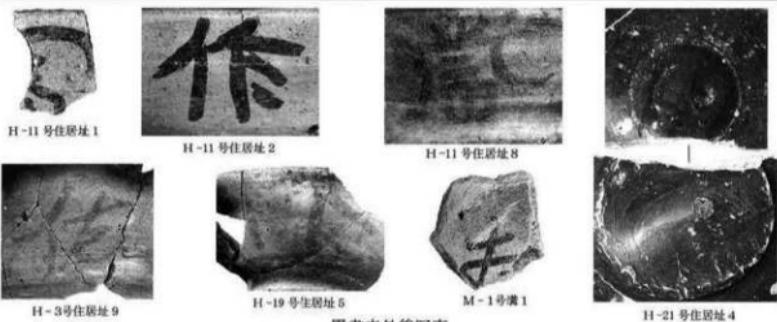
H-21号住居址出土遗物



M - 1号墓出土遗物



遗构外出土遗物



墨书赤外线写真

発掘調査報告書 抄録

ふりがな	こくがなかむりいせき
書名	国衙中割遺跡
副書名	九十九地区生涯学習センター整設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ番号	
編著者名	千田茂雄・有山征世
編集機関	安中市教育委員会
編集機関所在地	379-0292 群馬県安中市松井田町新堀 245 TE:027-382-1111
発行年	西暦 2018 年（平成 30 年）3 月 31 日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原内
		市町村	遺跡番号					
国衙中割遺跡	安中市松井田町新堀 中割 115-1 地	IC2113	K 8	36° 32' 45"	138° 81' 41"	20150105 ～ 20160331	約 732 m ²	九十九地区 生涯学習セ ンター整設 事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
国衙中割遺跡	集落	古墳時代 平安時代 中世	堅穴住居址 7 基 十坑 1 基 堅穴住居址 14 基 槽 11 条 土坑 6 基	绳文土器・土師器・須恵器・灰陶 陶器・錢釉陶器・風字罐・土望甕 脚・布目瓦・土製品(幼雉軒・土壁 動物形)・石製品(管玉・模造品・ 白瓦・幼雉軒)・鉄製品・羽口・铁滓 ・白瓦・幼雉軒・土壁・土器・陶器 ・銅製品・磁石・石棒・石皿・青銅石 ・灰化孢子	古墳時代および平安時代の 古墳から鹿形土製品が出土。 中世 古墳時代後葉の H 20 号住 居址から鹿形土製品が出土。 平安時代の堅穴住居址から 墨青土器・風字罐・灰陶陶器・ 錢釉陶器などが出土。

国衙中割遺跡

一九十九地区生涯学習センター整設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一

平成 30 年 3 月 28 日 印刷

平成 30 年 3 月 31 日 発行

編集・発行 安中市教育委員会
群馬県安中市松井田町新堀 245
印 刷 朝日印刷工業株式会社
群馬県前橋市元總仁町 67 番地